

令和2年度 文部科学省委託
「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究
(幼稚園における学校評価に関する調査研究)」

幼児教育の質向上をめざした
学校関係者評価の充実・改善に向けて

～子供の真の幸せを願う私立幼稚園の独自性を大切にしつつ
公教育をになうものとしての自覚を持つ教育運営を考える～

令和3年3月

一般社団法人 北九州市私立幼稚園連盟

目

次

はじめに	1
I. 研究の目的	3
II. 研究の概要	
① 協力園課題選定理由	5
② 経過	7
③ 成果	23
④ 考察と課題	37
研究体制	
加盟園一覧	
おわりに	43

参考資料

協力園事例

幼児教育アドバイザー訪問記録

研修会報告（一部）

質が高く多様な保育が展開される街へ「百花繚 RUN！」

(一社)北九州市私立幼稚園連盟 会長 村上 順滋

平成22年に、本団体に向けて「自己評価や学校関係者評価の実施率の低さから、やるべきことをやってこそ私立幼稚園の幼児教育振興と言えるのではないか」という外部からの声が連盟に届きました。私立幼稚園の公教育の責務を改めて考える契機となり、今後の方向性として学校評価の実施を推奨していこうと決めました。

当時の子どもプランの点検・評価の報告書には、この時のやり取りを文言化したように県所管である私立幼稚園に市は指導する立場に無い事、私立幼稚園連盟を通じて実施を促して行く事が記載されています。

加盟園に対して学校評価実施のお願いが始まり、保育所の第三者評価に遅れながらも自己評価実施園の割合は増えていきました。しかし学校関係者評価の実施率は思うほど上がっていきません。

転機を迎えたのは、子ども・子育て支援新制度の施行からでした。施設型給付園と私学助成園の格差が、幼児教育を受ける子どもたちに影響してはいけないと、行政と連盟とで協議が行われ、私学助成園の処遇改善と、それに続き平成28年度から学校関係者評価実施助成が始まりました。学校関係者評価の実施率を上げるために、行政と連盟の教育研究担当で学校関係者評価の最低基準を満たすフォーマットと実施マニュアルの作成を行いました。その甲斐あって平成29年度には学校関係者評価実施率は100%となりました。

令和元年から文部科学省より委託した「質の向上のための学校関係者評価推進」事業は、ゴールはもっと先にある事を教えてくれました。100%の実施を目標にしていた私たちに、「保育の質」という視点の転換により、新たなスタートを得たように思います。

私立幼稚園と幼稚園団体そして行政の三者が、保育の質の向上を目指して連携する姿を報告しています。この街で質が高く、多様な幼児教育が展開される事が目標となりました。未来の私たち姿を私は「百花繚乱」と例えました。しかし、今事業が私たちの新たなスタートとするなら、「百花繚 RUN！」です。

最後に、令和2年度はコロナ禍で、今事業停止の危機もありました。学びを止めるな！を合い言葉に、加盟園の理解と協力により、研修会や会議のリモート化が一気に進みました。コロナ禍の逆風でも前に進む推進力に今事業があったと思います。

今事業につながる北九州市と学校評価の歴史を紐解きながら、その時々リーダーシップを発揮して下さる方々が連盟の内外に数多くいらしゃったことに感謝を申し上げ、巻頭のご挨拶といたします。

北九州市私立幼稚園連盟に期待すること

北九州市教育委員会子ども家庭局幼稚園こども園課長 緒方 克也

まずは、新型コロナウイルスの感染拡大に対応しながら幼児教育の推進にご尽力いただいている皆様感謝申し上げます。

令和元年度から2年間にわたり、北九州市私立幼稚園連盟が、文部科学省の「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究事業」を受託し、幼稚園における「学校関係者評価」が、さらに充実した取り組みとなるように研究していただきました。

本市の私立幼稚園では、学校関係者評価を全園で実施していただいておりますが、この調査研究が、さらに保育の質を高めることにつながればと思っております。

本市では、学校関係者評価に取り組む新制度未移行園に対して、新制度園に対する給付の加算額と同額の年額6万円を補助することですべての園で学校関係者評価に取り組んでいただけるよう支援を行っております。さらに、この2年間の取り組みを継続できるよう、引き続き学校関係者評価に関するアドバイザーの配置ができるよう支援を検討しております。

令和元年10月からスタートした幼児教育の無償化により、多額の公費が支出されることとなり、これまで幼稚園に通わせていた保護者だけでなく、国民からも、より一層の幼児教育の質の保障や向上が求められることとなります。学校評価の更なる充実、積極的な情報提供を通して、保護者をはじめ様々な方の意見を聞きながら、そこで働く職員の皆様の声も園の運営に反映させ、よりよい教育環境をつくっていただけますよう各園で引き続き尽力されることを期待しております。

学校関係者評価を通じた幼児教育の質の向上の実現に向けて

北九州市教育委員会 北九州市立教育センター主査指導主事 太田 奈央

日頃より幼稚園教育の充実にご尽力いただいている皆様御礼申し上げます。また、本年度は特に新型コロナウイルス感染症対策等にもお力添えいただき、心より感謝申し上げます。

子どもたちに新たな時代を切り拓くことのできる力を着実に育むべく、本市においては、令和元年度に「第2期北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」を策定いたしました。このプランでは、「自立し思いやりの心をもつ子ども」「新たな価値創造に挑戦する子ども」「本市に誇りをもつ子ども」という具体的な目指す子どもの姿を三つ掲げています。

北九州市私立幼稚園連盟が進められてきた、文部科学省の「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究事業」に係る調査研究の推進が、学校関係者評価の充実・改善とともに幼児期における「保育の質の向上」を図り、本市が目指す子どもの実現への基盤となることを期待しております。

事業推進に係る運営定例会におかれましては、具体的な推進計画や事業の成果及び課題の共有により、PDCA サイクルの視点からの学校関係者評価の振り返りが行われました。

特に協力園における自己評価・学校関係者評価の円滑な推進については、研修や評価の積極的な公開に取り組み、立場の違う客観的な視点からの意見、成果の再確認、新たな課題の創出など、評価の実施が園における集団の育ちへと繋がる姿が示されました。

今後も公教育の担い手としての役割を引き続き高めるとともに、来年度以降も学校関係者評価を通じた幼児教育の質の向上に対する取組が継続されることを願っております。

I. 研究の目的

本研究事業は、子供の真の幸せを願う私立幼稚園の独自性を大切にしつつ、公教育を担うものとしての自覚をもつ教育運営を考えるために、幼稚園における学校評価（自己評価・学校関係者評価）の推進とその意義の更なる理解を充実し、幼稚園等の教育の質向上を図るということを目的とする。

【主題設定の理由】

時代は予測のつかないスピードと方向性の中で大きく変化し続けている。また思いもかけない新型コロナウイルスによる感染禍の中で、従来の日常が多く失われ社会はそれに対応すべく多くの課題を抱える現在である。その中で幼児教育を取り巻く環境も様々な変化・転換を求められている。しかしながらどんな状況になろうとも、子供の傍らに佇み、寄り添いながら幼児教育に携わる者はいつも子供を中心に置き、子供の真の幸せの実現のために努力することには変わりはない。幼児教育の無償化に伴い私立幼稚園にも多額の税金が投与されることになり、幼児教育に対する社会の関心も高くなっている。私立幼稚園としての独自性や建学の理念を担保しつつ、公教育の担い手としての役割を自覚しその内容を高めていく必要がある。

「評価」が教育の現場の日常となって久しい。しかしその評価は一体誰のものなのか。評価というワードのもつ一般的な理解ではなく、到達目標ではなく、方向性を示す幼稚園教育要領の示す方向性を基に、環境を通して行う教育である幼児教育の特異性に留意して、評価がチェック機能だけにとどまらず子供の幸せに寄与するものとならなければならない。また、幼稚園教育要領全面実施を受けてそれぞれの幼稚園等で教育課程や指導計画等の改善が推進されていると思うが、この事業がその一助になればと考え主題の設定をした。

【事業委託に至る経緯】

幼稚園における学校評価の推進に対して本市行政も関心を抱いている。にもかかわらず本団体でもなかなか推進されない実情が続いていた。そこで北九州市では2017年より「学校関係者評価推進事業費」として学校関係者表評価を実施した幼稚園等に対して年間6万円の補助金交付を決定した。しかしながらこの補助金がついてもなかなか推進しなかった。

そこで、本団体と担当行政部局と連携・研究して北九州市私立幼稚園独自の学校関係者評価フォーマットを作成し連盟HPを通して広報した。また具体的な質問や悩みに本団体研究委員会委員が答えていく努力をして啓発活動を行った。その結果、平成30年度は90園ある市内の幼稚園・認定こども園全園がこのフォーマットを利用した学校関係者評価報告を実施できた。

ただ、このフォーマット作成事業がその記入方法等を主たる目的として展開したため、本来の意味をもつ学校関係者評価が推進されているかは当初より不安が大きかった。形骸化されたものとして継続していくことへの不安もあった。また、学校関係者評価は自己評価をもとに行うという評価の流れの理解にばらつきがあるのではないかということも当初より不安があった。その年度に見出した課題が次年度の教育活動に活かされているかということについても近い将来検証の必要性があると行政とも話し合っていた。

このような中で今回この委託事業は実に機を得た事業として受けとめた。

そこで、早速本団体理事会において協議し受託した。

本団体は、支部ブロックとして4ブロックに分かれ、幼稚園・幼稚園型認定こども園90園が加盟している。その4ブロックからそれぞれ1園ずつ協力園として選出し、具体的実践を行うこととした。地方の小さな1団体としてはたして推進できるか大きな不安を抱えながらの出発であった。

しかし「もっと深い学校関係者評価を目指したい」「評価の成果を次に活かす方法を学びたい」「そもそも評価って何?」「今さら恥ずかしくて聞けないことを教えてください」「正しく幼稚園を評価してもらう方法を知りたい」「評価の内容を他園と話し合いたい」等事業内容に積極的な関心を多く示して頂いたことはこ

の事業を推進する上で大変心強かった。

指導助言者として、本団体が毎年開催している研修会で長年多くの指導助言を頂いている先生方の快諾を頂いた。本団体の研修現状等を深く理解している先生方との学びを深め、評価活動の更なる推進は本団体の教師の力となり保育の質の向上に繋がっていくと考えた。また、本市は以前幼児教育推進事業として幼児教育アドバイザー事業を展開した経緯があるが、その事業に携わった推進委員の方の参加もお願いした。本団体の中では様々な研究事業を展開しているが今回のように団体が一つとなつての組織的研究事業に不慣れなものとして学ぶところか大きいと期待した。

併せてオーバーとして行政から私立幼稚園担当部局と教育委員会の参加も快諾頂いた。運営というハード面と教育内容というソフト面の両面に渡って適宜助言を頂いた。実行委員として本団体の中で主に教育研究に特化して活動している教育研究委員会が連盟事務局と連携を図りながらその任にあたった。

尚、改善すべきと考えられた内容について以下述べる。

- ① 取り組みやすさを優先して、形式をA4サイズ一枚の形式にして伝達したことにより、却って記入のしにくさの誤解を招いたので、そのことを再度改善周知する。
- ② 幼稚園教育の推進においての様々な課題を解決するためには、全方位的な視点をもつことが大切である。偏った点検や評価にならないようPDCAサイクルの視点を加えるために前年度の学校関係者評価の振り返りを行うことを提案する。
- ③ 想定外の災害や出来事に戸惑う昨今である。保育現場が法令上の基準を満たしているか等の視点で安全点検に関する項目を入れる必要があるのではないかとということ協議していく。
- ④ 学校関係者評価委員会の在り方やその委員の選出について、まだ完全に周知しているとは言い難い部分も垣間見えているので、別紙作成して伝達するか若しくは研修会等を開催する。
- ⑤ 学校関係者評価は、その公表が必要であると啓発してきたが、具体的にどのように公表しているか実態がつかめていない。そこで、効果的な公表の仕方について提案する。

【私学の独自性と公教育のとらえ方】

2020年10月から無償化が実施された。私立幼稚園には今まで以上に公教育としての自覚が必要になってくる。幼児教育の無償化にともなう公教育機関としての幼稚園あるいは幼稚園型認定こども園・幼保連携型認定こども園における教育・保育実践ならびに健全な園運営にかかる評価指標の開発が急がれているからだろう。

これまで私学の多様性という名の下に子供不在の独善的な園経営がなされている事例もあるのではないだろうか。独自性と独善性の相違をしっかりと理解する組織でないといけな。様々な意味において子供たちが悲鳴をあげている実態にわたしたちが加担していないかということについては、常に振り返りつつ、公的にも自助努力的にも評価を実施していかなければならないと考え、重要な取り組みと考える。免許更新講習や上進講習も加速度的に進められようとしている中、幼児教育の質向上のカギを握るのは子供の傍に佇む保育現場の意識の向上に他ならないとした。

【学校関係者評価のとらえ方】

- ・各園が、自らの教育目標の達成に向けて、毎年度の教育活動その他の園運営について課題となる重点目標を設定して、その達成状況や取組状況について組織的・継続的に改善していくこととした。
- ・学校関係者評価を実施するにあたっては、教師等の自己評価が最も大切な土台であることを徹底周知する。その自己評価の内容を客観性・透明性をもって組織された学校関係者評価委員会によって評価してもらい、その内容を保護者・地域等社会に公表し、幼児教育の重要性の理解のために開かれた幼稚園としての

在り方を模索していくこととした。

- ・各園の設置者が学校関係者評価の結果に応じ、各園に対する支援や条件整備等の改善につなげていくことを推進していくこととした。
- ・拠るところの主たる資料として「幼稚園教育要領」「文部科学省幼稚園における学校評価ガイドライン平成23年改訂版」「文部科学省学校評価ガイドライン平成28年改訂」「文部科学省幼児理解に基づいた評価平成31年3月」及び全日本私立幼稚園幼児教育研究機構「学校評価に関する報告書・ガイドライン」とした。

【事業のポイント】

学校関係者評価に造詣の深い学識経験者を招聘し、その学びの場を設定する。内容によっては自己評価の段階の学びも必要になると予測しているが、学校関係者評価の性質上大切なことと受け止める。また、それぞれのセクションの連携のために定期的に定例会を招集し、この事業推進の共通理解を図った。

学校関係者評価の推進にあたっては、そもそも私立幼稚園に評価は必要なのか、公教育の担い手としての意義は認めるがそれが進みすぎると私学の独自性が損なわれるのではないかという意見が根強くあることもまた事実である。この現場の声をすくい上げていくことも改善への情報となる。現場の生の声を積極的に受け止めるためにアンケート調査も実施した。

Ⅱ. 研究の概要

本市には90園の私立幼稚園があり、その全園が（一社）北九州市私立幼稚園連盟に加盟している。本団体は、市行政と連携を図りながら幼児教育の振興や研修の充実に携わっている。

今回の事業開始にあたり、理事会承認の後、手上げ方式で協力園4園を選定した。日頃より熱心に教育課題に取り組み運営を行っている園である。幼児教育に真摯に取り組む園長のリーダーシップの下、それぞれにテーマを設定し研究の推進を行った。

評価は一律一斉のチェック機能ではなく、PDCA サイクルの円滑な循環の中で、日々の振り返りの中にもこそあると考える。また私学には独自の建学の精神があるからこそ各園が持つ課題はそれぞれに違う。そこで4つの園にはそれぞれの園が持つ悩みや課題を独自に抽出してもらい課題とした。

またその成果を学識経験者とともにシンポジウム形式で加盟園対象の研修会を開催し発表することによって、学校評価に対する悩みや改善を図った。まだ研究の途中であるが以下4園の取り組みについて概要を記す。

① 協力園課題選定理由

課題「学校関係者評価に繋がる自己点検・自己評価のあり方について考える」

(学) 谷川学園 こみね幼稚園

本園は、北九州市最西部に位置していて住宅の整備が進んでいる地域である。少子化による園児数減が恒常的に進んでいる本市の中でも比較的大規模園が多い。

学校関係者評価の基本は教師一人一人の自己評価が基本である。建学の理念や教育目標をもとに重点目標を設定し具体的に取り組んでいくという過程をきちんと踏んでいくが、本園においてその目的や必要性を全ての教師が周知しているか不安がある。またその方法もチェックリスト的な表を使ったり各々がエビ

ソード的な記述をしたりと多様である。

質の高い自己評価は質の高い学校関係者評価に繋がる。質の高い評価は次年度の質の高い教育に繋がる。そのことを検証するために全教師が理解しやすく積極的に取り組んでいくような自己評価の在り方は必要である。本園の特色や課題が鮮やかに表現できるような自己評価になるためにはどのような方法が有効なのかを実践の中で考える。

課題「教職員の研修が学校関係者評価に与える成果を考える」

(学) ひかり各園 認定こども園 曾根ひかり幼稚園

本園は浄土真宗寺院が運営する仏教を基盤においた園である。

幼児教育の質の向上のためには教師一人一人の資質向上は不可欠である。本園も教師一人一人抱える課題に対応した研修会に参加する機会を多く持つように心掛けているがそれが参加した教師だけの学びとなってしまう共有されていないと思う。また、日々の保育が多忙を極める教育現場の中で、教師自身が負担を感じることなく研修に参加しその共有を行い、日常の現場に返していくかを実践の中で考えてみたい。また、眼の前にいる「今、ここにいる子供」のために研修が活かされていく方法を本園だけでなく地域の私立幼稚園教師を交えた園内研修会等の開催を通し、透明性・客観性の視点の学びを深めて学校評価を行う参考にしたいと考える。

課題「保護者や地域との関わりの中で学校関係者評価を考える」

(学) 聖ヨゼフ学園 認定こども園 聖ヨゼフ幼稚園

本園は、北九州市西部に位置し閑静な住宅街の中にあるキリスト教を基盤とした園である。平成30年度より認定こども園に移行した。学校関係者評価は、点数をつけて行うものでもなく、ましてや園毎のランク付けをすることでもない。子供たちが健やかな成長をする場所として本園が努力していることを保護者や地域に理解して頂くことが重要な課題と捉えている。しかしながら本園は小高い丘の上に位置し、なかなか地域との連携が取りにくい状況にある。幼児教育が無償化となり幼稚園に対しても地域は高い関心を持ち始めていると思う。そこで今まであまり取り入れてこなかった地域との連携活動の積極的な実践を通して、円滑な学校関係者評価の推進を構築してみたいと考える。

課題「公開保育を通して学校関係者評価を考える」

(学) 真観学園 霧が丘幼稚園

本園は、北九州市中心部に位置し文教的に恵まれた環境である。「教育課程の見える化」と言われて久しいが地域や一般の方に幼児教育を理解して頂くことはなかなか難しい。

本園は平成30年度に全日本私立幼稚園幼児教育機構 ECEQ の公開保育を実施した経緯があり、この方式の中で学校評価の実施を試み考えてみたいと設定した。

公開保育を通して、自園や自分の保育の良さや課題に気付き、その課題解決のための方策を見いだせる力を教師の中に育てていきたい。またその繰り返しを通して、教育の質の向上をし続けていくための組織風土を作り上げていきたいと考える。

この事業の中で学校関係者評価委員の公開保育参観をお願いしたり地域の小学校との連携を図ったりすることで社会に開かれた教育課程を意識しながら学校評価を試みたい。

② 経 過

目的) 自己点検・自己評価が義務となり、学校関係者評価が努力義務と言われて久しい。また、現在の幼稚園教育要領にも「学校評価とカリキュラム・マネジメント」として総則に記載されている。しかし、「今さら恥ずかしくて自己点検・自己評価について聞けないよね」「うちでは形式的にはやっているけどほんとうにこれでいいのかあ」「評価とカリマネについて学んでみたい」というような声が多く寄せられた。そこで、この事業の大きな柱として以下のような研修会を実施してその理解の充実に努めた。

① テーマ「学校関係者評価の意義と具体的な推進について」

●期日 令和元年7月22日(月) 13:00～15:00

●講師 元十文字大学教授 岡上 直子 先生

② テーマ「子供の主体性を育てる保育の創造～公開保育を通して～」

●期日 令和元年11月29日(金) 10:00～15:30

●講師 福岡女学院大学教授 坂田 和子 先生

元北九州市立小倉幼稚園長 古賀 和子 先生

③ テーマ「幼児教育の質向上をめざした学校関係者評価の充実・改善に向けて

～子供の真の幸せを願う私立幼稚園の独自性を大切にしつつ

公教育をになうものとしての自覚を持つ教育運営を考える～」

●期日 令和2年8月26日(水) 15:00～17:00

●講師 中村学園大学教授 那須 信樹 先生

福岡女学院大学教授 坂田 和子 先生

④ テーマ「第1回シンポジウム 保育の質の向上につなげる学校関係者評価について」

●期日 令和2年9月25日(金) 15:00～17:00

●講師 中村学園大学教授 那須 信樹 先生

福岡女学院大学教授 坂田 和子 先生

⑤ テーマ「第2回シンポジウム 保育の質の向上につなげる学校関係者評価について」

●期日 令和2年10月2日(金) 15:00～17:00

●講師 中村学園大学教授 那須 信樹 先生

福岡女学院大学教授 坂田 和子 先生

⑥ テーマ「実効性のある学校関係者評価」

- 期日 令和3年2月12日（金）15：00～17：00
- 講師 元十文字大学教授 岡上 直子 先生

⑦ テーマ「学校評価の推進に向けて」

- 期日 令和3年3月25日（木）10：00～11：30
- 講師 文部科学省初等中等教育局視学官
（併）幼児教育課 教科調査官 湯川 秀樹 先生

事業推進の円滑と共通理解に資するために実施した定例会

目的) この事業は本団体の研究であるが、オブザーバーとして北九州市子ども家庭局課長及び北九州市教育委員会の指導主事を委員として組織した。また、指導助言を得るための学識経験者、4園の協力園並びにこの事業の担当として本団体教育研究委員が加わるという構成とした。円滑に推進するためには事業の趣旨や進捗状況等を共通理解することが欠かせないものとして下記のように定例会を開催した。

会議名	日時	場所	出席数	内容
令和元年度 第1回定例会	令和1.7.24	レインボープラザ	17	事業の趣旨説明・日程調整等
第2回定例会	令和1.9.3	レインボープラザ	20	協力園の経過報告等
第3回定例会	令和1.10.11	レインボープラザ	19	協力園の経過報告・助言等
第4回定例会	令和1.11.8	レインボープラザ	18	推進に関する手立てと方法について
第5回定例会	令和1.12.25	レインボープラザ	18	研究園の研究まとめ報告・考察等
第6回定例会	令和2.2.28	レインボープラザ	5	成果と課題について
令和2年度 第1回定例会	令和2.7.14	レインボープラザ	19	趣旨説明と日程調整
第2回定例会	令和3.2.24	新型コロナウイルス感染症のための緊急事態宣言発令中で中止とする。		

充実・改善に資する取り組みとしてのアドバイザー事業

目的) 私立幼稚園の運営には各々の建学の理念や独自性が存在し、一律には行われていない。公教育としての使命と自覚を持ちつつもそれぞれが自園の良さを確認しつつ、地域や保護者の実情を鑑みながら運営されている。よって私立幼稚園の求める教育内容指導のニーズは決して同じではなく、その園に合わせた指導助言が有効であると考えられる。

本事業の中で、幼児教育アドバイザーの役割を担う部署を設定し、要請のあった園に対して適宜な訪問指導を行い、教育活動の改善や学校関係者評価の円滑な推進を図った。

4園の協力園に対しては先述の3人の学識経験者が個別に指導にあたった。

【令和2年度 幼児教育アドバイザー 日程表】

No.	訪問園名	日 時	指 導 内 容
1	むつみ幼稚園	9/10 (木) 10:00～11:30	事業の取組内容野共通理解・重点目標設定
2	上津役幼稚園	9/10 (木) 15:00～16:00	事業の取組内容野共通理解・重点目標設定
3	東筑紫幼稚園	9/11 (金) 10:30～11:30	事業の取組内容野共通理解・重点目標設定
4	こみね幼稚園	9/11 (金) 15:00～16:00	令和2年度学校関係者評価推進
5	こみね幼稚園	9/18 (金) 10:30～11:30	令和2年度学校関係者評価推進
6	霧ヶ丘幼稚園	9/28 (月) 10:30～11:30	事業の取組内容野共通理解・重点目標設定
7	むつみ幼稚園	10/13 (火) 10:30～11:30	保育実践を通して 遊びの見取り
8	むつみ幼稚園	10/13 (火) 15:00～16:00	保育実践を通して 発達の観点からの見取り
9	上津役幼稚園	10/20 (火) 10:30～11:30	保育実践を通して 環境を通しての教育とは
10	上津役幼稚園	10/20 (火) 15:00～16:00	保育実践を通して 環境を通しての教育とは
11	東筑紫幼稚園	10/22 (木) 10:30～11:30	保育実践を通して 環境構成について
12	東筑紫幼稚園	10/22 (木) 15:00～16:00	保育実践を通して 環境構成について
13	東筑紫幼稚園	10/23 (金) 10:30～11:30	保育実践を通して 子供の心を受け止める
14	東筑紫幼稚園	10/23 (金) 15:00～16:00	保育実践を通して 子供の心に寄り添う
15	むつみ幼稚園	10/27 (火) 10:30～11:30	保育実践を通して 子供と共にある保育
16	むつみ幼稚園	10/27 (火) 15:00～16:00	保育実践を通して 子供と共にある保育
17	霧ヶ丘幼稚園	11/6 (金) 10:30～11:30	保育実践を通して 保育の振り返りについて
18	霧ヶ丘幼稚園	11/6 (金) 15:00～16:00	保育実践を通して 教師の援助の方法
19	上津役幼稚園	11/10 (火) 10:30～11:30	保育実践を通して 保育を振り返るといこと
20	上津役幼稚園	11/18 (水) 16:00～17:00	保育実践を通して 保育を振り返るといこと



—— 幼稚園訪問から感じたこと ——

●幼稚園訪問を通して先生方に変化がみられましたか？

はい、沢山の変化を感じました。訪問の回数が増えるにつれて先生方の表情も明るく研究を楽しんでいるように見えました。

訪問にあたり以下の要点を大切にしました。

<指導計画どおりにこなす保育から時間はかかるが取り組んでみる>

- ・子供の生活を改めて考えてみる
- ・子供は「どうしたい」と思ってるのか 子供の考えをじっくり聞いてみる
- ・子供同士の思いのやりとりをじっくり見届ける
- ・子供の思いや願いがどんどん出てくることに正直驚く
- ・子供自身、子供同士で決めたことが実践できるよう見守り援助する
- ・子供の自分たちでやれた喜びや達成感が、様々な取り組みの中で主体的な発言や行動となって表れてくることを実感する

<子供の経験がより深まりつながっていくことを実感する>

- ・子供とともに創り出す保育が楽しくなる
- ・子供理解（個の育ち、学級の育ちに基づく指導計画の作成、実施、反省、評価を心がける

<園全体で教育課程・指導計画について研修する>

- ・園の独自性、実践の考察、子供の変容していく姿などの共通理解（共有するということ）を大切に

<保護者への情報の発信は子どもの姿を通して行う>

- ・「よりわかりやすく、より伝わるように」なるための紙面の工夫をする
- ・共有するための場を設定する

先生方が「こなす保育」ではなく、子供とともに創りあげていく保育をしようとしていますね。

そのために必要なことを考え、準備し、反省評価し、改善を（変化を）恐れないようになりつつあります。

ここに保育の質の向上が確かに図られつつあることを感じました。

●「学校関係者評価」が進まない要因はどんなことがあると思われますか？

この事業に関わって、複数の園の状況に触れさせていただいて、個人的に感じていることですが、園長に『「自園を開く」ということに、意義を見い出せない。』という意識があるからではないでしょうか。「意義が見いだせない」理由として現場ではまだ、学校評価（自己評価）が真に理解されていない。

自己評価＝教職員の自己点検・自己評価としているところがある。

学校評価（自己評価）が、カリキュラムマネジメントとその他の運営に関する評価をもってなされていくことが十分理解されていないことがあるかもしれません。そうした現状のなかでは学校関係者評価委員に「何を」「どのように」説明してよいかははっきりしない（わからない）まま、学校関係者評価委員会が開催されている傾向があります。

そうすると園に対して、意見や感想を求めることだけになる。評価委員の方々も、「何を」「どのように」みればよいかわからない。

近隣の小・中学校長は、自校の取組があるので、委員会の趣旨は理解していると思います。

園に対して、提示されるべき資料の提出を求めることはない。公立学校の場合、人事異動が頻繁なので人的信頼関係ができていない中では、園に対して踏み込んだ意見は出せない)

『先生方はみなよく、がんばっている』『先生方はみな、やさしい』『運動会やお遊戯会で、いつも、りっぱな子どもの姿をみせてもらっている』等 応援の言葉が多くなりますね。

（回答）訪問アドバイザー担当 古賀 和子

推進促進の情報収集に資するアンケート調査

目的) 学校関係者評価を実施するうえで困っていること、また方法としてこれでよいのかという不安等様々な意見が聞こえてきた。そこでアンケートを実施することで教育現場の生の声を聴き、その不安や困り観に対応した研修会等の企画に役立てるためにアンケートを実施した。

第1回アンケート（1年次）

- 実施日 令和2年3月24日
- 対象及び方法 北九州市私立幼稚園加盟園90園に SNS で発信
- 回収率 100%（アンケート表記は原文ママ）

質問1. 今年度の下記の内容は実施していますか。

- | | | |
|-----------------|-----|-----|
| ① 自己点検・自己評価の実施 | 実施済 | 90園 |
| ② 学校関係者評価委員会の開催 | 実施済 | 90園 |
| ③ 学校関係者評価の公表 | 実施済 | 90園 |

質問2. 今年度学校関係者評価を推進する上で、困った事不明な事等教えてください。

【日程の設定】

- 3学期はイベント等に追われ開催する日の決定が難しかった。（保護者・評価者全員集まるのは）
- 予定していた評価委員会の日にちが、新型コロナ感染拡大を防ぐために書面会議に変更した。
- 学校関係者評価会議をする日程調整がむずかしかった。（今年はコロナ感染症のため）
- 特になし。強いて言えば日程調整。
- コロナの影響により会議をもつ事が難しく聞き取りでの意見収集となった。
- 委員会実施日の調整に困った。
- 新型コロナウィルスによって3/3から3/23まで自由登園を行ったため、学校関係評価委員が一同に集まる日程の調整が困難を極めた。

【評価委員への対応】

- 地域の方が評価者にいますが園の行事等なかなか参加する事ができないまま委員になるので評価して頂くのが少々難しい。
- 学校関係者評価委員の方の意見をまとめて記入（PCで）して、後日署名して頂くのに各自、訪問させていただくのですが、年度末の為、スケジュール調整が少し時間を要しました。（今年は特にコロナがあったので皆さんはどうされていらっしゃるでしょうか。）
- 当園では評価委員を保護者会執行部より選出している。保護者ではなく、地域の自治会長や民生委員の方等外部（地域）からの学校関係者評価関係者評価委員の選出が好ましいのかが不明。
- コロナ対応の為、文書審議となりました。
- 今年度は新型コロナウィルス感染防止のために学校評価委員会の招集を取りやめた。委員の一部（評議員2名とPTA会長、副会長）に保護者アンケートや自己評価の報告をし、意見を聞き、まとめる形となった。
- 本園では、卒園生保護者に評価委員に就任していただいておりますが、同じメンバーで複数回実施でき

ているためか、園への理解も深まってきており、年々スムーズな委員運営ができていると実感しています。現状では特段困っていることはございません。

- 最後の委員会をコロナの関係で集めていか迷ったが時間短縮で行った。
- 例年より少人数で行いました。
- 本年度第2回目の召集時はコロナの影響で書面でのお願いとなり、集計するのに時間がかかった。
- 従来通り園長主導で行ったが、次年度からは職員全体で年間計画を立て取り組むべき課題を設定し全体で行おうと思っているが、関係者を願う上で時間がかかった。
- 本年度に限って（毎年3学期、3月に開催していますが）新型コロナウイルス感染の件で、中々開催することが危ぶまれた。また、このことにより人数が限られた。
- コロナウィルスで集合することができなかったこと。保護者と園側の評価委員間で、ラインを通して話し合いを進めた。
- コロナ対応で先ず書面にて自己評価の結果をお知らせし、その後来園していただき、ご意見を頂戴するなど、時間短縮に努めました。
- 高齢者の委員さんが多く委員会として集まっていたことに躊躇した。
- 今年度初めに評価委員さんを保護者3名に決めていました。「評価支援事業」に委員として参加させていただき、地域の方や小学校校長先生にお願いしたほうが良いと知りました。自園も今まで地域とのかかわりをあまりしてこなかったもので、どなたに願うのが良いのか・・・で困っていました。
- コロナウィルスの影響で、実際に集まったの開催はできなかった。しかし、関係書類や資料を作成し、書面での実施が出来た。
- 委員会のメンバーが固定化すること
- まだ、学校関係者評価委員の選定ができていなくて、保護者間で行っています。来年度こそと地域の小学校の校長先生に声をかけたら、異動になってしまいました。
- 今年度は、特別だが3月に学校関係者評価委員会を予定していたら、新型コロナウイルス対策で、集まることが出来ずに、個別に評価して頂くことになってしまいました。

【保護者対応】

- 学校関係者評価は幼稚園の1年間の行事、保育はどうだったかというアンケートをとっています。保護者の中で保育園に勤務している人が多いため（87名中7名）自分の考えや保育園の方針をそのまま言って来ることがあり、困りました。
- 関係者評価が本格的に実施される前から、園行事について保護者のアンケートを行っていた経験があり当初は建設的な意見が多かったが、徐々に個人レベルの都合や好き嫌いを園の要望として挙げられることがほとんどとなり、アンケートをやめたことがある。関係者評価も同じ傾向であり本当に意味があるのが疑問に感じる。現在の課題としては、予算や職員数など園の構造的な問題のみ毎年残り続け、すぐに解決できないものとなってしまった。
- 子どもに関する質問、幼稚園の取り組みに対して、アンケート形式で行っている。評価に個人差があるが保護者の考えや思いなどは大体の評価はわかる。

【重点目標・項目など設定の難しさ】

- 評価設問・課題等が代り映えない感じが否めない気がする。特に宗教・信仰上の課題の設問や取組の仕方や方法において職員の戸惑いや解釈、受け止め方、園児へのアプローチの仕方に困惑が見受けられた。
- 毎年自己点検、自己評価の評価項目の選定に苦慮している。

- 毎回同じことが課題としてくることがあるが自己の取り組みと管理に問題があるかと思う。
- 今のところは、全日や県振興協会の自己点検自己評価表を使用していて、特に困ったことはありません。ただ、毎年毎回同じ評価項目ではマンネリ気味になり、記述式の部分は書きたがらない。当園ならではの評価項目や視点がどれくらい認められるか？
- 課題や目標を達成するための課題や方法が適切かどうか

【自己評価・学校関係者評価の理解】

- 取り組みの全てがわからないことばかりだったが、今回モデル園になったことで具体的な取り組みがわかり感謝しました。また、学校関係者評価参照書や自己評価の参照などを持っているだけでそれらを十分活用していなかったことがよくわかりました。テキストの使い方など知らせてもらう機会があれば、かなりのことが解決されるのかもしれませんが。
- 学校関係者評価の内容実施の仕方が適切かどうか不安
- 質の高い評価事業と現実のギャップ
- 時間をゆっくりかけてやろうと思った時に日々の流れの中でなかなか時間の調節がうまくいかない
- 前年度にあげられた課題について定期的に取り組みことが出来ず、そのためどれ位達成できているかなどの細かい把握が出来なかった。
- 自己評価の採点内容は各自の役職や経験年数によって評価しにくい項目がある

【その他】

- 公開保育は自園の良さや自分の保育の良さに気付き、自信がつき保育に対しての意識の向上につながる。課題にも意欲的に取りくむ姿を実感した。しかし学校関係者評価としてまとめ方が不十分ではないだろうか
- しっかり時間をかけて取り組もうと思うが時間がない
- 日々の業務に追われて書類作成の時間がとれない
- よくわかりません。ささいなことまで答えていた結果、そればかりになってしまい、手間ばかりが増えた印象

質問3. 今年度学校関係者評価を推進して、幼稚園運営上良かったと思う事を教えて下さい。

【保護者や地域との関わり】

- 毎回、園のために保護者、教諭、評価委員より前向きな意見が出され会を重ねるごとにそれぞれのニーズにこたえ、園にとってもより良くなっていると思う。
- 幼稚園での取組をしっかりと伝え、理解してもらえたこと。
- 保護者の疑問、保護者と幼稚園のとらえ方の違いがわかりました。
- 幼稚園教育への理解や、家庭と園との連携により、子供の育ちが随分違うことなどを理解して頂くことが大変良かったと思う。
- 職員、保護者双方の幼児教育への意識向上、問題点の共有、改善へのアドバイスなど双方の思いを التواصلすることができたと思います。
- 教職員、保護者やPTA、地域など園の全ての関係者と課題を共有することができた。そして、今後重点的に取り組むべきことを把握し、園全体として次年度の教育活動の充実、改善に繋げていくための具体的な方策など深く検討する機会となった。
- 評価委員会の開催により、客観的に評価して頂ける点。

- 園の職員とは違う客観的な視点でアドバイスをもらえる。
- 職員の励みになる言葉をたくさんもらった。
- 委員の皆様からは特に環境整備や園行事に対してご意見をいただいております、実際に改善へ活かされた学校関係者評価委員会を実施したことで、評価委員の方々に、日頃の園の取り組みを細部にわたって知っていただけたことは良かった。
- 園の取組に対して、肯定的な評価をいただき、職員の意欲向上につながった。
- 毎年掲示するようになってから、保護者の方が、年々見てくれる方が増えました。
- 客観的な意見も聞かせてもらえるので、行事などの取り組み方にメリットがあった。
- 地域との連携が密になったと思う。
- 園内では気付かない意見をうかがえる。現状を知っていただき、また理解していただいた安心を得ている。また、様々な保護者の対応に追われる中で、第三者の方からの意見を伺い改めて考えることが出来た。
- 園の周りや園庭の遊具の様子を見て下さるので早めの修理につながるし、園児の安全にもつながる。
- 幼稚園としてはかなり心して取り組んでいるつもりでも、評価がよくないので保護者への発信が足りないのがよくわかった。安全教育についての発信に心がけたい。
- 客観的視点からの意見が参考になった。
- 保護者側から、園の保育方針の良さの具体例を挙げて指摘していただき自信につながった。
- 利用者の意見の吸い上げ。
- 年間の見直しができ自分たちだけでは気付かないところに気づくことができた。
- ある特定の保護者の意見を委員会で諮ったところ全委員が幼稚園と同じ意見を発言してくれたこと。
- 全体的にも保育の方針、内容の確認ができた。
- 保護者の方から評価を頂き安全面や行事への取組み方など、新たな気づきを頂くことができました。
- 評価を聞くことで運営の改善につながった。
- 委員の方の評価とあたたかい言葉に励まされ次年度の意欲につながった
- 評価委員の方々と話し合うことを通して客観的に今の幼稚園の課題のとらえ方をより具体的にすることが出来た。
- 地域の市民センターの館長さんや小学校の教頭先生に来ていただき、違った視点からアドバイスをいただけたことが良かったです。
- 周囲の生の声を聞く事ができ、次年度の改善につながっている。
- 園内とは違った視点のアドバイスをもらえたこと。
- 保護者との協力体勢が以前より出来た。
- 平成20年から実施し、当初は保護者からの要望はたくさん出てくるので、心が折れる学校評価でしたが、園と家庭とが歩み寄ることで少しずつ解消してくると願い10年続けてきました。一つ一つの親の意見を真摯に受け止め、改善できる所は改善し、それを丁寧に伝えてきました。年々要望が減り、園に対して嬉しいご意見が多くなってきました。
- 外部からの意見などが、今後の保育の参考になった
- 立場の異なる者の意見や外部、第三者の意見を知ることが出来る点
- 今年度より、新たに園外の方を学校関係者評価委員として迎えました。地域や小学校にも幼稚園教育の理解が深まるとともに自園も小学校での様子や地域の様子がわかり新たに気づくことがあり今後役に立っている。
- 保護者が理解しやすい形で情報や園の方針を公表することができる。
- 教諭たちへの評価は励みにもなり、園長の評価は反省する機会をもらえた。

- 各担任が自己評価したものを主任が総合的にまとめて、成果と課題を明らかにしています。それらを園長が要約したものを学校関係者評価委員会にて公表し、所見を頂きました。それを全職員に周知致しましたが、園内の自己評価にとどまらず、園外（地域）の方々に評価を頂いたことは、教職員の励みや気付きにつながっていると共に園の取組を客観的に知らせていく地道な取り組みだと思いました。

【教師間の意識の高まりと共有】

- 職員全員で今年度をゆっくり振り返る事が出来てやった事やりとげた事思い出し、それを発表する事で新しい意見やアイデアを頂くことが出来ました。
- 取り組む課題が明確し、その取り組みにおいての準備・実施・実施中の（反省・修正・再実施）の活発な意見が職員間で行われ職員・園児共に一体感がかんじられたと思う。保護者・職員の要望が園運営上の行事や施設の改良・向上が目当たりになっていく充足感を感じ得ることが多く見受けられた。
- 園全体で振り返る事ができ、自園の強み、弱みを共有することができました。
- 目標が明確になり職員間の共通理解が深まった。
- 職員同士の共有、振り返りがとてもスムーズにできた。
- 職員の保育に対する意識が高まった。
- 職員の意識が向上した。
- 課題が明確になりますし、職員全員の意識の向上につながります。
- 教師の意識が高まりました。
- 評価があることで取り組む課題について考える機会ができる。
- 教職員が評価項目に意識を持って積極的に取り組む姿がみられ、次年度への課題が明確になり、期待がもてるようになった。
- 職員の意識が高まった。職員間のコミュニケーションはより深まった。次年度に取り組む課題がはっきりした。
- 全職員が園全体の仕事を把握することが出来た。自分の仕事だけでなく保育全体を考えるようになりつつある。
- 評価になると、一般的に自己を卑下しがちの傾向があるようにも聞かれるが、実際やってみると想定以上の評価をされて次につながるベースとなってきた。
- 出来ていると思っていたことでもまだ工夫しなければならないなど、自己評価の実施でわかったこともある。

【学校関係者評価の理解の深まり】

- 課題抽出から改善方法まで、PDCAサイクルを回らせるきっかけとなりました。
- 私学でありながら、公教育の一端を担っていることを認識できたこと。特に認定こども園というだけでなく無償化が始まり、これからは絶対に公教育施設ということから逃れられない立場にあることを学校関係者評価を通して実際に体験できたことは、これからの園の運営にも役立ちました。
- 1年の互いの協力が文章となり、評価され、全ての職員が喜び自信ややる気につながった事。
- 見過ごしがちな問題点を見つけたことで、保育の質の向上につながったと思う。
- 課題について、全職員が認識し、自己点検・自己評価に取り組むことで、自らの保育を振り返るばかりでなく、課題を見出すことができた。
- 目標があることで、それに向けて取り組むことが出来ました。
- 本園の保育を見直し課題を見つけることが出来ました。
- 評価項目を考えて示すとそれについての反省、改善点を各自が見出すことができていた。

- 保育者が年間を通して常に保育に対して目標をしっかり意識して、日々の保育ができたこと。保育の質を高めるためにどうしたらよいのかなど、振り返り、みんなで来年度の保育のあり方を見直す機会がもてたこと。
- 昨年の反省を活かしながら行ってきた今年度の保育の振り返りの中で、園の運営の面、保育の面、保育の質の向上につながった面、また引き続きの反省や来年度に向けての新たな課題が明確になった。
- 前回までは、まじめなベテランは非常に厳しく自己評価するのに比べて、意外にも、若手の教師の方が、自己満足気味の甘い評価をしているのが気になっていた。今回は学年毎に事前に話し合いをして、より一層客観的に、自分の保育を反省出来たので、自ら目指す目標の理想の教師像がはっきりしてきた様子
- 今までは何となく、学校関係者評価を年度末に行っていたが、今年度は学校関係者評価までの道りが分かるようになりました
(自己評価までに職員間で園の重点目標等を確認したり評価項目を確認したりが出来るようになった)
- 園外研修や園内研修を重視し、職員一人一人の質の向上を更に意識するようになりました
- 重点的に取り組む必要がある目標や計画を具体的かつ明確に定めることが出来る

質問4. 学校関係者評価の課題を保育の質向上につなげるヒントがあったら教えてください。

【強いリーダーシップ】

- 認定こども園として「第三者評価」を考えています。
- 保育の質の向上につなげることができる学校関係者評価を行えるように努力したいです。
- 職員一人一人に、自分自身の質の向上を目指してもらえ環境づくりが大切かと思われます。研修に行くための時間確保と代替え職員等。また、研修情報をしっかり把握し情報提供。
- 園長自身がもう少し、勉強しないと職員の質が向上しないと、日々反省を繰り返しています。
- 各自の参加意欲を高め、評価する、される喜びを見せたらいいな。
- 職員の自己評価の項目内容についてひとつひとつ全員で内容理解の為の話し合い、経験年数によっての検討する際の視点の違いをなるべくなくす。
- 現状に満足し、それで終わることが最も向上につながらない。常に保育（子どもの姿）を反省し課題にとりくむことができる為、学校関係者評価は必要であると考えてる。

【地域へ拓く】

- 今、保護者が子どもの教育に必要なことを受け止め、それを具体的に効率よく保育に取り入れることが大事であると感じております。
- 本園の委員はボランティアなどで園を訪れる事がしばしばあり、その際に普段の様子を見る機会があるためスムーズに意見がいただけるのかなと思います。ヒントになるかはわかりませんが。
- 時代の流れに沿った保育の考え方の必要性。地域交流と保育のつながりを考える保育計画。
- 地域との交流を大切にし、交流の機会を作ることを心がけようと思います。
- 評価委員は第三者の方からの意見を伺える貴重な時間ですので、ぜひ生かしていきたいと考えています。
- 評価委員の方から手話や花、野菜等の栽培の指導など受け体験経験が広がった。
- 教職員だけでなく、外部の市民センター館長などが、文章などで評価することで他からしっかり見られているという意識を持つようになり、保育カリキュラムの検討を一人一人の教職員がするようになった。
- 学校関係者評価委員さんから独自のアンケート（添付）アメリカのギャラップ社開発の「ストレング

スファインダー」を見つけ出すものに似た問いが、同時に実施されたのでメンタル面の振返りになり、自分自身の内面を見つめるチャンスとなり、個々人の個性の良い所、光る点を見出し、それが新たな自身や意欲付けにつながりました。

- やはり、他者が自園や職員たちのことを第三者の目でみてプラスの評価をされていると知ると普通の保育の丁寧さに磨きがかかる。

【研修の必要性】

- 課題に向けての具体的な取組と成果を伝え、具体的な評価をもらう。
各幼稚園の類似課題とその解決過程について整理されたのがあると良いかもしれません
他園の内容を共有できる場があれば参考になると思われる。
- 年々自園のオリジナルにしていく必要がある。現在は見本を参考にしているため
- 研修など、みんなでわかちあうことが良いと評価を頂いたので次年度もやっていきたいと思いました。
- 今回、実施することで園全体が活性化したように思われます。(いや、しました) こんな「小さなこと」で?と思うような(うちは郵便局にいくだけだったのですが)ことが大きな変化を生んだのは、やはりアドバイザーや同じ事業に取り組んだ仲間の存在だった気がします。みんなとまではいなくても、近くの園などで共有できることは、いいことなのかもしれません。
- 教師個人個人と園全体の平均値(グラフ)を作成すると結果と合わせて個人の理由も見えるので次年度の課題を分析しやすい。

【行政の支援】

- 評価の補助金6万円を増額して各教師にいくらか分配できればいいのかもしれませんがね。安易な発想ですみません。教育の質の向上のためにもっと補助金を出してほしい。

【PDCA サイクルの活用】

- 学校関係者評価で次年度の目標を今年度の反省と共に決められるので年度末で出来たことやれてなかったことがはっきりわかる。やれてなかった事を言われて気づけることをやった事を認めてもらえる機会になれば質は向上します。
- それぞれ職員が自分を見つめなおし、反省ができると思います。
- 自己点検、自己評価は職員自身の振り返りともなり、意味が感じられ改善へのきっかけやスケジュールにつながっていると思う。
- 職員で共通理解し、次年度の教育計画に生かす。
- 各担任の自己評価と園全体の評価と今後の課題について、個別に園長が面接を行いました。各項目の意図しているもの、捉え方の偏りはないかなどを話し理解が深まっただろうと期待しています。それが、次年度の保育の向上につながることを願っています。
- 記録したり、評価するたび、人を観察し言葉を探し多くの気づきが次の課題となり学びを深めていくきっかけとなりました。
- 関係者の方の評価を全員の職員が見る事により、意識を持つことができる。
- 園として目標を定めるので、質の向上につながっていると思う。学期ごとにどこまで達成できるか確認している。
- 毎回、点検が出来るということ。細かい内容が増えすぎて息苦しい。
- 子どもの基本的な挨拶にかなり心して取り組んでいるにもかかわらず、園で教師には出来ていても、子どもの身についてないのがわかり次年度の取り組みについて話し合っている

- 無意識に行っていたことが、とても大切なことで評価された時には励みとなり今後への意欲につなげることができました。
- 一度意見をまとめることで次年度につながる目標や、教職員で取り組むべき課題が明確になりました。
- 評価されるという意味から責任をもって保育をすることで保育者自身がねらいに向かった良い保育をしようと努めたり、他の保育者と協力して保育を高めようと歩んだりしている。
- 課題に取り組みながら、園の今、できていることについて再確認できたことで、自分たちの教育内容について評価する視点を持つことが出来た。また、それを形に表すことを実行していく大切さを再確認できた。
- 自己点検を行うことで、職員自身が日頃の振り返りを客観的に行うことが出来、意識改革にもつながっている。学校関係者評価で得た意見からも、研修のあり方や意味、取り組み方を改めて考える良い機会となった。
- 教師の日々の努力に対しての良い評価を頂くと教師の自信につながる。指摘を頂いたことは謙虚に反省をし、これからの新たな課題とすることで質の向上につながっていくと感じる。内容の共通理解をはかること。

第2回アンケート（2年次）

- 実施日 令和2年9月25日
- 対象及び方法 令和2年9月25日開催第1回シンポジウム参加者に、研修会に入る前 ZOOM での問いかけにチャットで任意に回答

評価という言葉に対するイメージをお聞かせください

- よりよくするもの
- 価値を測る「物差し」でした
- つい、構えてしまいます。
- 自分の現状を把握するもの
- ランク付けされそうなイメージがある
- 上からのイメージ
- 評価されるというマイナスなイメージと職員が眩いています
- 評価される側としては、緊張します
- 良し悪しを判断するというイメージ
- 客観的、俯瞰的に自分達の保育を見るもの
- ある物差しによって、モノ・コトを客観的に判断できる状態にするもの
- これまでの見直し、そして今後活かしていけるようにするもの
- 客観的に判断したりされたりする
- 立ち止まり見直すこと
- 手間と時間がかかるというイメージです
- 項目に対し、良かったか悪かったかの確認でしょうか。
- 反省材料となるもの
- 目標を達成できたかどうかを調べる
- 今まででマイナスイメージがありました。ランクづけのような・・・

- 気付き
- 次に繋ぐために必要なもの。評価をして次によりよくする
- 良い悪い！出来た出来ない！自分の仕事ぶりの反省。
- 点数を付けられる気がして、少し緊張します
- 試されている、比べる、良し悪しを決められるイメージ
- 人から見られ判断されるもの
- 他者との比較
- 足りないものを指摘されるイメージです。
- 園を豊かにしてくれるもの！と今は実感しています。
- 以前は、現在の内容をジャッジされるというイメージがありました。
- される人とする人がいるというイメージです
- 現状を見つめるきっかけとなるもの
- 自分自身の見直しをするイメージです。
- 点数化されるイメージ
- 今後に活かすための振り返り
- 今までは評価されることは悪いところを指摘されることだと思っていました。
- 振り返り価値を定める
- 達成できているかの確認、反省
- 自分を客観的に見つめる。
- 評価のない教育活動はあり得ません。それ程大切なものですが、評価のための評価にならないようにしないとスタッフが委縮しないように留意しなければならないと思います

第3回アンケート（2年次）

- 実施日 令和2年9月28日
- 対象及び方法 第1回シンポジウム参加者に研修会終了後回答

質問1. 協力園の発表を聞いてどのような学びがありましたか

- こみね幼稚園…教員の自己点検と自己評価への取り組み、保護者アンケートを取り入れ、保育の質を向上させる姿勢に感心しました。
曾根ひかり幼稚園…園内研修の中堅教員による実施、他の教員もそれに触発され、自己評価を高めていく経過が興味深かった。
- 出来たか出来なかったのチェックチェック方式だけではなく話し合いを重ねることの大切さを教えていただいた。それぞれの取り組み大変勉強になりました。
- 保育の質向上の為の方法がそれぞれの園にあり又それを学校関係者評価につなげるまでの一連が大変わかりやすかったです。自己点検表の見直しや「評価」への考え方、意識の持ち方についても良い学びになりました。
- 評価は、自己評価がとても重要であり、幼稚園の質に繋がるということで、自園でも自己評価の流れを検討していきたい。学校関係者評価で説明責任を果たすことは、公的施設として義務であると考えます。
- 研修会後の報告や共有を意識して取り組んで行きたいと思いました。
- 教職員皆が自己点検自己評価項目を考えることで、自分の保育を振り返る事にもなったり、保育の中で

方針や保育を意識することにもなったり、学校関係者評価を始めるにあたって教職員にとって良いアプローチだと感じました。

- 経験年数問わず、主体的な園内研修を行っている事も素敵だなと思いましたが、外部の先生、他園の先生や市職員の方に研修を見てもらうなど、とても前向きな方法を学ばせて頂きました。客観的に保育や職員の姿を見てもらい、その助言を元に翌日翌年の保育に生かしていくことが、まさに学校関係者評価なのだと感じ、私たちの園でも前向きな学校関係者評価を行っていけるよう、園にあった方法を探っていきたいと思いました。
- 初めて取り組む課題に対してどのように進めて行けば良いか戸惑うことばかりだと思いましたが、両園とも自園の保育の特色を分析し出来ることを無理なく公開保育や園内研修に活かし、指導力の向上や地域保護者との結びつきにつなげてより良い保育を行う方法として学校評価に取り組む姿勢が大変勉強になりました。
- 今回の協力園さんの発表を聞いて、改めて学校関係者評価を行うことの意味や大切さを感じると共に、ただ評価を行うだけでなく、保育の質の向上のためにPDCAサイクルを行ったり、職員1人1人が学校関係者評価の意味を理解して自覚をもって参加したりすることも重要だと思いました。自分たちの園とも重なるような改善すべき点も分かったので、今後活かしていきたいです。
- 全職員で子ども達の思いや育つ姿を感じとりながら、園内研修を通して対話力やコミュニケーション能力を高める事で、保育の質の向上につなげて行く大切さを学んだ。自園でも協働的な保育をすすめて行けるよう計画したいと思った。
- 管理者が基盤・時間・場所を確保しての園内研修の取り組み必要だと感じる。PDCAサイクルを上手く進められるように出来たら違う面でも改善できていくのかもしれない。先生たちの子どもへの何気ない言葉がとても大切と感じる。
- 教職員が受けた研修を伝え合うことや、フォトラーニングの園内研修等で保育の質の向上へ繋げていること等、2園がそれぞれに特色のある取り組みをされており、勉強させて頂きました。日々の保育を職員間で振り返る対話の重要性を改めて感じました。有難うございました。
- 大変参考になりました。有り難うございました。評価項目の設定方法として保護者アンケートで課題を抽出するという方法もあると知ることが出来たのは大変有難かったです。
- “評価”という言葉にあったマイナスイメージが少しずつ薄れていくのがわかります。「保育者の立てた仮説を可視化して、子ども主体になっているかのズレを考える」と思うと、自分たちでもやれそうな気がしました。
- 次年度につながる様な自己評価にしていかなければ無意味なものになることを再認識しました。今後の課題が見えた。
- 今後の保育に役立てるための学校評価という事は理解していましたが、色々な方法がある事を改めて知る事が出来ました。自園の職員に、周知する方法を考えていきたいと思えます。
- 全職員の知恵と工夫と行動力を持って「できる事を・できる時に・できる人から」を私自身、常に思っていました。苦しみ・悩みながらの仕事は意欲をなくします。そのためにも職員同士の対話が多い当園は、毎日話し合いの場を設け、学年や全体で認識を深め合っていますので、発表を聞いて再認識・再確認できました。
- 当園でも職員会議（全員参加）だけでなく、定期的、又、必要に応じてリーダー・主任会議を行っている。改めて、その必要性を感じた。
- どのようにしたら幼児教育の質の向上につながるのかを2園の発表から多くを学ぶことができました。自分の保育を良くするための自己点検や評価であること。実践することで、自然とPDCAサイクルができていくこと。保育者同士の会話の必要性など、園内研修の内容も参考になり保育者一人一人の自分

の保育に関しての気付きや発見となる研修を実施していきたいです。

- 職員が集まって話をする機会を作り、教育理念についてラベルワークをしたり、日々の保育を振り返りながら、子どもたちにどのような所が育ってほしいのが等、話し合っって共有することが充分には行えていないので、より良い保育の為に参考にさせて頂きたいと思いました。
- 「学校関係者評価」をラベルワークで職員間で行ったり、写真や対話で行ったり様々な方法がある事が分かりました。その中でも動き始めるまでは管理職がリーダーシップをとるという事で改めて自分の立場の重要さを感じました。
- 自分たちの園は職員全体で取り組んでおり、その取り組みを通してミドルリーダーの職員の成長や、自園の強みを気が付くことができていると思います。
- 職員間の対話が大切だということ。上下関係なく同じ保育者の立場としての意見交換ができるような園の雰囲気作りも大切ということを感じました。
- 職員間で意見を出し合うことで向上心が生まれていて良い学び合いだと思いました。
- 職員間の対話を充実させることで、先生たちが安心して保育できる場となり、気づきや保育の質の改善していけると思う。
- 「評価」と聞くと悪いイメージしかなかったが、保育の質を向上させるためのズレを改めるためには必要だと感じた。
- こみね幼稚園…職員間で対話の出来る環境が大事だと言うことを学びました。又対話から質の向上に繋がる事を知った。
- 曾根ひかり幼稚園…朝礼後の時間を活用し“わらべ歌”を伝えるなど、短い時間でも有効活用することによって質の向上に繋がる事があると学びました。課題を見つけて職員間で話し合い、対話を大事にしながら褒め合ったり、共感しながら、より良い保育を行いたい。
- こみね幼稚園さんの、学校関係者評価の取り組み内容や、順を追っての経過が、とても具体的で、職員一人一人が自己を振り返るところから、始めているところが参考になりました。曾根ひかり幼稚園さんの、園内外の研修、それらの職員間の共有・外部に開く、ということが各自のスキルアップや同僚性の育み、園の風土作りにつながっているところが、すばらしいと思いました。
- 各園に共通して出てきた「対話」という言葉。会話と違い、仕事を円滑に進める為にコミュニケーションをとるという意味合いが強い言葉であるということを知りました。そして、職員を巻き込みながら、「対話」を行う機会を提供し、学校評価の基準を作成出来たことが素晴らしいと思いました。特に写真を用いた園内研修は当園でも是非行いたいと思いました。

学校関係者評価を今年度推進するうえで園が困っている事があれば教えてください。

- 今年度は特に、一同に介しての集まりが困難です。配布等で対応しなければなりません。
- このコロナ禍、公開保育をする難しさを感じている。
- 学校関係者評価委員の方を外から内部に位置づけるにあたり、自園の事をよく知って頂くことが必要ですが、コロナ禍により行事が減ったりお招きする機会が減っている事が現状です。自園を知って頂く為の工夫等が他にありましたら教えて頂きたいです。
- 新型コロナの感染以来、大勢で密室に集まらないようにしています。その為、昨年度末の学校関係者評価委員会が今までのように、園に集まって行うことができていません。昨年度は書面会議という形で行ったが、今年度はどのような会議の方法が良いか悩んでいます。
- 保護者や地域の方が園に来る行事も減っているため、園の保育を見ることのできる機会が大幅に減少しています。そのため、保育内容などが外部の方に見えづらいのではと思っています。

- どのように取り組むと良いか、他に実践され、成功されている園のモデルケースや評価基準、用紙（シート）等、ある程度幼稚園連盟を中心にひな形のようなものがあると各園で平均的に評価が行えると思います。
- 1年を通して計画や目標を立て、実行し、来年度の保育へつなげて行きたいが、コロナ禍により見通しが持ちづらい。また、特に地域交流が困難で、出来る事を工夫して行う術を探っている。
- 自己評価の重点目標の設定から見直す必要があるので、教育目標を職員が理解、実現化することができるように伝えるが、機会をいつ持つか。日々の保育・行事が忙しいので時間を見つけることができるか気になる。
- 保育者による自己評価では、個人個人の意識の違いや価値観の違い等も顕著に現れます。そのことが気になるところですが、継続していく事で意識付けをし、方向性の明確化、そして保育の改善に繋がるのだろうと今は思っております。
- 設定する評価項目の内容を細分化するほど時系列での評価が難しくなってくる点に困っています。
- とてもためになる研修ですが、全員で受けることは時間的に無理なので、いかに他の先生に上手く伝えるか。
- コロナ禍で、地域との話し合い・連携がとりにくいのではと感じる。
- 今年度コロナの影響で保護者が園に足をはこぶ機会が減少。客観的に見ていただく為の工夫が必要だと感じています。
- 幼児がより良い教育活動を行えるように学校運営の改善や発展へと目指したいところですが、連携が成り立っていない。地域との連携協力もまだ不十分と思う。認知度・理解度がまだ低いため、コミュニケーションの機会を積極的に利用できればと考えるところです。
- 委員の選任に悩みます。（保護者や地域の方以外で）
- 現在、行っている評価の方法でいいのかと感じる事があったので、今回発表した園の方法を参考にさせて頂きながら考えていきたいと思えます。
- 学校関係者評価は、現在実施しています。学校関係の方・地域の方々に貴重な意見を頂くことができているので、大変有難く思っています。
- 自園の特徴として行っている教育の研修もあり、どのように学校関係者評価と併用し生かしながら行なっていくか、しなければいけない事がたくさんあるので、時間の使い方を考えなくてはならないこと（職員の）
- 年度末の仕事が他にも多く、職員の負担が大きい。また、年度末に評価委員の予定を調整し招集するのが大変。
- 学校関係者評価は、保護者・地域の方に来ていただき実施しているが、評価後の改善点や取り組み等、振り返りの方法に課題を感じます。今年度は休園期間や行事の短縮や縮小化があり、評価が難しいように感じます。
- 今年度は、コロナの影響で、地域の方との関わりや催し物への参加が出来なかったり、保護者が来園できにくかったりする点があり、“園を外に開く”ということにやや課題があります。
- 事例を発表して頂いた園も、職員にこの取り組みの主旨を理解してもらうことが、一番大変だったのではないかと推測致します、当園でこの活動を行うにあたりまして、保育に日々追われている中、何から始めたら具体的に話が進んでいくのか模索中です。

③ 成 果

自己評価表の新規作成と学校関係者評価フォーマット改訂

本団体が北九州市子ども家庭局と作成した学校関係者評価フォーマットは、誰もが使いやすいことを前提にして報告書に記載してほしい項目を絞った。また、記入例も同時に示して取り組みやすさを重視していた傾向があった。その成果もあって、その年から学校関係者評価報告書は100%提出となった。

しかしながら、その年の課題を翌年に活かすというPDCAサイクルの中で学校関係者評価が位置づけられているか、またそれが教育活動の向上にどう繋がっているのか等なかなか見えにくい課題も見えてきた。

また、「学校関係者評価は自己評価をもとにして推進する」という言葉のとらえ方に各園によって差異があるということが今回の協力園の研究やアンケート結果等で見えてきた。

そこで先ずこの研究担当である北九州市私立幼稚園連盟教育研究委員会が2班に分かれて、自己評価表と学校関係者評価のフォーマットを新規改訂することにした。

自己評価表については、先ず重点目標を記入する欄を設け、教師各自が各自の保育の評価をするのではなく、自園の重点目標に沿って自園が運営されているかを各々の教師が評価することだという基本を大切にしました。

それぞれの園の重点目標はそれぞれの特色があり、決して一律でないことを踏まえ、敢えて記入例の提示をしなかった。代わりに重点目標や評価項目の例文を参考として付けて作成の一助となるようにした。

また、公開保育を実施した数園から、公開保育を実施した際の独自の自己評価表があるとよいのではないかという意見が出た。公開保育を実施した教師が自分の良さに気づいて自信をもって保育をしてほしいという願いで行われる公開保育だが、今回は特に以下2点に留意して作成した。

1. 公開保育前と後で教師の変化がみられること
2. 自己評価表であるので、重点目標に沿って評価すること

このことによって、自分の良さに気づきながら、重点目標に沿った自園の評価を加えることで公開保育時だけに特化せずとも自己評価表としての役割が果たせるように作成した。

また、学校関係者評価フォーマットには4段階の評定を新たに加筆した。私学の独自性からなかなか一律の評定では評価しにくい部分が多いと考え、前は全て記述式だった。

しかし幼児教育無償化を受け、公教育の役割を大きく担う私立幼稚園として、幼稚園教育要領を基とした教育運営を行う必要があると考える。それぞれの園が建学の精神が生かされた教育課程を持つこと、それを推進する指導計画を作成すること、また幼少連携の中での指導要録の充実等公教育を担う者としての課題は大きい。それらは記述式で述べるよりも段階別の評定にした方が表し易いと考えた。

尚、独自のパンフレットを作成し推進の啓発とした。教師が重点目標に沿って自己評価したものを客観性・透明性を持って評価するシステムが学校関係者評価だということを再度促した。特に課題を翌年に活かすPDCAサイクルによって教育活動の充実が図れることを強調した。特に今回、北九州市行政の方々をオブザーバーとして迎えたことで、北九州市の目指す子供像など今までの私立幼稚園に無い視点の学びを得た。北九州市私立幼稚園の卒園児は殆ど北九州市立小学校に入学する。私立幼稚園がそのことを意識することでさらに円滑な幼少連携が図れ、子供たちの健全な育ちに寄与するものになると考えた。

尚、今回のフォーマットは連盟ホームページに up し、実際の使い方についてリモート研修会を通して周知徹底を図った。

公表に関しては連盟ホームページ上に学校評価のサイトを新設して90園全園の公表の場を提供した。令和2年度3月末には全園の up が完了した。

自ら育つものを
育てよう!!

自己評価と学校関係者評価

～幼児の育ちを支える園の質の向上のために～

北九州市私立幼稚園連盟

令和元年10月から幼児教育の無償化がスタートしました。多額な公的支出をとまなう学校として幼児教育の重要性が認められた証であると共に一層の幼児教育の質の保証や向上が社会全体において求められていることを認識しなければなりません。だからこそ「学校評価」の確実な実施を行い地域社会に認められ、開かれていく学校を目指して行く必要があるのです。

そこで、学校評価のすすめ方やポイントをここで分かりやすくまとめていますので、ぜひ、参考にして下さい。

○評価の形態

① 自己評価	・個人が各自を評価するものではなく園長先生のリーダーシップの下、教職員のみんが参加し重点目標・計画に沿って取り組み状況や達成度について話し合い園の自己評価をします
② 学校関係者評価	・保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行なう評価
③ 第三者評価	・学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価

【自己評価のポイント】

1. 自園に合わせた自己評価項目の作成・実施

項目は少なくとも良いので一つひとつ話し合せてまとめていきましょう。目的は自園を客観的に見直すことであり、未来志向的に目標に向かって全教職員が継続的に教育の改善に取り組むことです。三学期頃を目安に実施すると良いでしょう。義務化されていますので必ず行ないましょう。

2. 教職員に自己評価の趣旨やスケジュールを知らせる

- ・年度の始めに今年度の重点的目標と評価項目について話し合いの時間を持ちましょう。
- ・自己評価実施後は自己評価の報告書と公表シートを作成しましょう
(保護者アンケート等の結果を活用すると尚、客観性を持たせられます)



【学校関係者評価についてのポイント】

1. 重点目標・計画の設定

(前年度の取り組む課題が今年度の目標につながる様に目標・計画を立てましょう。)

- ・園が、教育活動・その他の学校運営について、目標(Plan)―実行(Do)―評価(Check)―改善(Action)というPDCAサイクルに基づき継続的に改善していくためにはまず、目標を適切に設定することが重要です。
- ・重点目標の設定は、園の教育目標等をもとに設定する場合や園が現在抱えている課題から設定する場合などが考えられます。

2. 学校関係者の評価委員の選出と公表

- ・評価委員は保護者や地域住民などにより構成すると良いでしょう。

例) 保護者代表・小学校校長・地区会長・民生委員など

[評価結果の公表・説明について]

例) 園だよりへの掲載やホームページ・地域広報誌への掲載・PTA総会や保護者を対象とした説明など



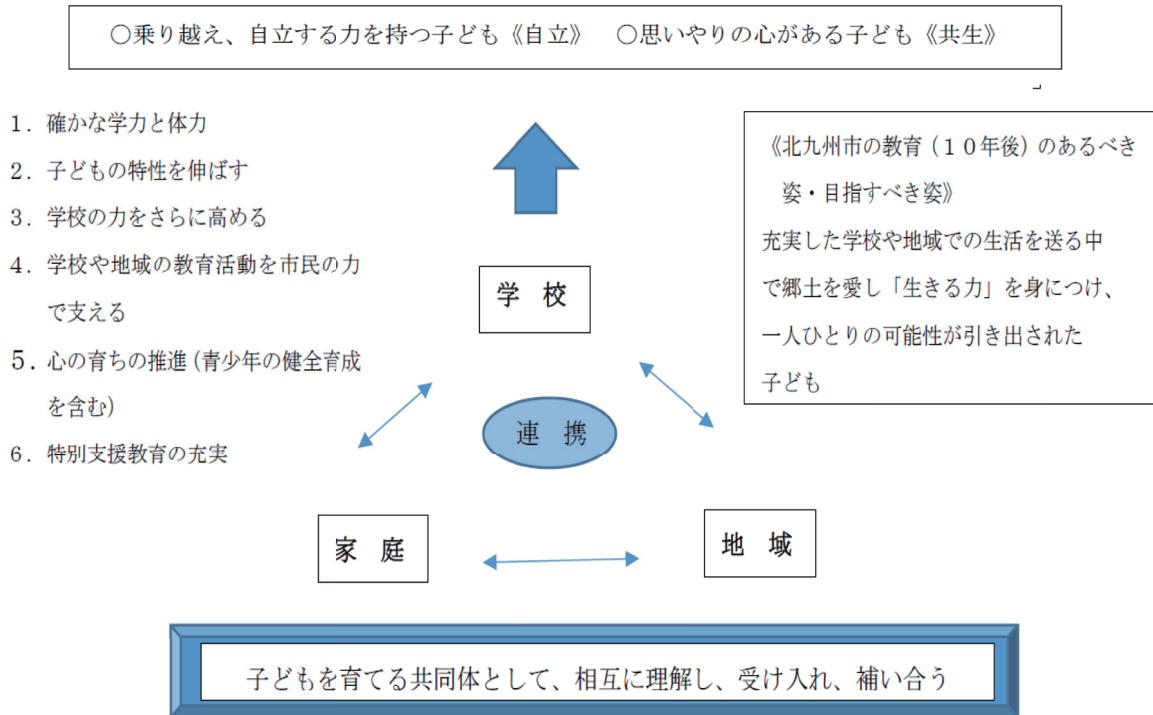
☆自己評価の結果及び今後の改善方策を取りまとめた報告書を設置者に提出しましょう!

北九州市私立幼稚園連盟より、学校関係者評価のファイルが配布されています。合わせてご利用下さい。



北九州市私立幼稚園連盟加盟園では、それぞれ各園独自の教育が展開されていることと思います。公教育としての役割を果たす意味においても、北九州市の目指す子ども像を踏まえながら、保育の質の向上を目指しましょう。

【北九州市が目指す子ども像】



【自己点検・自己評価シートの使用について】

- 自己評価は、学校評価の最も基礎となるものであり、園長のリーダーシップの下で、当該園の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価を行うものです。
- ここに挙げている項目と内容は参考です。自園の目標達成に沿った自己点検票の作成を行うことが望ましいでしょう。
- 目標達成に至るまでは大変なことです。目標の内容によっては2カ年・3カ年計画で行うこともよいでしょう。

【学校関係者評価報告書シートの使用について】

- 評価項目は、各園の状況により設定してください。(何項目でもよい)
- 学校関係者評価における意見を園として報告書にまとめます。保護者や地域に公表する資料なのでわかりやすい表現を心掛けましょう。

〈 公 開 保 育 に お け る 自 己 評 価 表 〉

今年度の重点目標

公開保育のねらい

公開保育実施日 令和 年 月 日 () : ~ :
 学年・クラス 歳児 組 在籍人数 当日出席人数
 公開保育者名

※当日の保育指導案等資料は添付。

基準 : A 達成している ・ B 一部達成している ・ C 一部改善を要する ・ D 改善を!

番号	評価内容	公開保育前 (記入日 年 月 日)		公開保育当日 (記入日 年 月 日)		公開保育後 (記入日 年 月 日)	
		評価	評価の理由	評価	評価の理由	評価	評価の理由
①							
②							
③							
④	自分の保育の良いところに気づくことができた。	(気づいた点を記入)		(気づいた点を記入)		(気づいた点を記入)	
⑤	今後の自園の保育課題を見つけた。	(どのような課題か記入)		(どのような課題か記入)		(どのような課題か記入)	

園名

自己評価表

令和 年 月 日
 幼稚園名
 所属
 氏名

重点目標

		評価 / A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する	
	内 容	評 価	備考(評価の理由など)

自己点検・自己評価表(案)

幼稚園 令和 年 月 日

氏名		評価 / A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する	
評価項目	内 容	評 価	備考(評価の理由など)
保育内容 と計画	園の教育理念、方針を理解していたか		例)何故評価がAだったのか、Dになったのか等具体的な評価の理由を記録してみましょう
	園の目指す幼児像を具体的にイメージできるか		
	本年度の保育計画は適切であったか		
	保育計画は幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえたものであったか		
	幼児の発達、成長の記録があり、保育計画に生かしてあるか		
子どもの 在り方、 接し方	幼児一人一人を認め、理解しているか		
	幼児一人一人の発達の特性に応じた導きをしているか		
	毎日の保育を振り返り、翌日の保育につなげることができているか		
	幼児の声に耳を傾け、同じ目線で話を聞くことができているか		
	幼児が主体的に活動できるような準備や導きをしているか		
	幼児を褒めたり、励ましたりしながら自信をもって活動できるような導きをしているか		
環境の 構成	幼児の興味関心を育む環境構成をしているか		
	保育室、園庭、遊具等の安全で清潔な環境構成をしているか		
	幼児が安心して遊びこめる環境構成をしているか		
	遊具やコーナーの設定は、幼児の動線を考えたものになっているか		
	季節が感じられる等、豊かな感性を育むことができる工夫をしているか		

協力教 ・職員 連携 ・互役 の割	報告・連絡・相談を適切に行っているか		
	教職員が共有すべき必要な情報を共通理解できているか		
	守秘義務を守れているか		
	園長を中心とした組織の中で対話を大切にしながら、同僚性が育まれているか		
研修・ 資質 向上	積極的に研修会などに参加できているか		
	自己課題を持って保育技術や教師としての資質向上に努めているか		
	受けた研修を保育に活かしているか		
	園内研修が円滑に行われているか		
家庭保 護者へ の 地域 との 対応	幼児の気になる様子を保護者に伝えているか		
	保護者からの意見・要望に誠意を持って対応しているか		
	保護者からの様々な相談に対して適切に対応しているか		
	地域との連携・小学校との連携が円滑に行われているか		
安全・ 衛生 管理	危機管理マニュアルを作成し、職員間で共通理解しているか		
	緊急時における自分の役割を理解しているか		
	保育室内の整備を心がけ、室内の換気や加湿に気を付けているか		
	遊具や玩具に不具合がないか点検を行っているか		
	手洗いの仕方や風邪予防等感染対策について学び、取り組んでいるか		

重点項目と内容

参考

重点項目(仮)	内 容
教育課程・指導	建学の精神や教育目標に基づいた園の運営の状況
	園の状況を踏まえた教育目標等の設定の状況
	教育課程を中心とした全体的な計画の作成の状況
	教職員間における、園の教育課程の編成・実施の考え方についての共通理解の状況
	学校行事の管理・実施体制の状況
	教育週数、1日の教育時間の状況
	年間の指導計画・週案などの作成の状況
	小学校教育への円滑な接続に関する工夫の状況
	遊具・用具の活用の状況
	チーム保育などにおける教員間の協力的な指導の状況
	幼児に適した環境の整備など学級経営の状況
	インクルーシブ教育の推進の状況
	幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
	環境を通して行う幼稚園教育の実施の状況
	幼児との信頼関係の構築の状況
	幼児の主体的な活動の尊重
	遊びを通しての総合的な指導の状況
	一人一人の発達に応じた指導の状況
幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の状況	
満三歳児に適した環境の状況	
教育目標・学校評価	幼児や園の実態、保護者や地域住民の意見・要望等を踏まえた学校としての目標等の設定の状況
	園の状況を踏まえ重点化された短・中期の目標等の設定の状況
	目標等を踏まえた事項評価の項目の設定の状況
	自己評価について年度内で定期的に行われているかなどの実施の状況
	自己評価の結果を次年度の目標・改善・設定への活用の状況
	学校評価に全教職員が関与しているかなどの方針の状況
	外部アンケート等の実施と、それらの自己評価への活用の状況
	自己評価等の結果の設置者に対して報告状況
	学校の目標・計画等の状況

教育目標・学校評価	学校関係者評価の実施状況	保護者その他の学校の関係者による主体的・能動的な評価が年1回以上実施されているかなどの実施の状況
		学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえたものとなっているかなどの状況
		学校関係者評価のための組織（学校関係者評価委員のほか、学校評議員や学校運営等の既存の組織を活用する場合を含む）の構成等の状況
		学校関係者評価の評価者の構成（保護者が含まれているかなど）の状況
		学校関係者評価の結果の次年度の目標・改善への活用の状況
		学校関係者評価の結果の設置者に対しての報告状況
	望護学校等ののに状意対見する・要保	保護者の満足度の把握の状況
		教育相談体制の整備、保護者の意見や要望の把握・対応の状況
	ECEQ	公開保育を活用した幼児教育の質向上システム（ECEQ）の実施の状況
組織運営	園長など管理職の、教育目標等の達成に向けたリーダーシップや教職員からの信頼の状況	
	公務分掌や主任制等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制の整備の状況	
	学校の財務運営の状況（学校が管理する資金の予算執行に関する計画、執行・決算・監査の状況等）やその公開状況	
	勤務時間管理やサービス監督の状況	
	各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理や、教職員への情報の取り扱い方針の周知の状況	
	学校運営のための諸事務等の情報化の状況	
	学校保健安全法、労働基準法等の各種法令の遵守の状況	
研修（資質向上の取り組み）	実施の研究の継続的实施など、指導改善の取り組みの状況	
	園内における研修の実施体制の整備の状況	
	園内研修の課題や設定の状況	
	園内研修・園外研修の実施・参加の状況	
	研修俯瞰図に基づいた自己研修の履歴蓄積の状況	
	臨時採用・非常勤講師等の非正規採用教員の資質の確保・向上に向けた取り組みの状況	
	上級免許や他の保育士資格等の取得の状況	
養成校との関係づくりをし、実習生などの指導の状況		
子育て支援	地域や保護者の実情や要望による園が行う子育ての支援活動の実施の状況	
	地域と家庭とをつなぐ未就園児への子育ての支援の状況	
	教職員のカウンセリングの基礎的理解と相談機能の状況	
	他の関係機関との連携の状況	
預かり保育	保護者の実情や要望による預かり保育の実施の状況	
	園や教職員による受入れ体制の状況	
	園の目的、教育課程との関連、幼児の負担、家庭との連携等への配慮	

自己評価表の評価項目と内容

参考

評価項目	内 容
保育内容 と計画	園の教育理念・教育方針を理解しているか
	園の目指す幼児像を具体的にイメージできているか
	幼稚園教育要領を踏まえて教育課程・指導計画が作成されているか
	本年度の保育計画は適切であったか
	PDCA サイクルに基づいた保育計画が立てられているか
	保育計画は「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえたものであったか
	幼児の発達・成長の記録を保育計画に活かしているか
対応 保育の 在り方、 幼児への	幼児一人一人を認め理解に努めているか
	幼児一人一人の発達の特性に応じ指導しているか
	毎日の保育を振り返り、以後の保育に活かすようにしているか
	常に創意工夫をもって保育を実践しているか
	幼児の声に耳を傾け、同じ目線で接することが出来ているか
	幼児が主体的に活動できるような準備・指導が出来ているか
	褒めたり励ましたりしながら、幼児が自信をもって活動できるような指導を行っているか
環境 の 構 成	幼児の興味関心を育む環境構成になっているか
	幼児が安定して遊びこめる連続性に配慮した環境構成になっているか
	幼児がさまざまな異文化への興味関心が持てる環境や交流への配慮ができていますか
	幼児の遊びや活動が発展するためのヒントや工夫があるか
	図書室や絵本コーナーなど、幼児が親しみやすい配置になっているか
	生物の飼育や作物栽培等では、幼児が取り組みやすいような配置や配慮ができていますか
	遊具やコーナーの設定は、幼児の動線を考慮したものになっているか
・教師としての 資質や能力	幼児のことやクラスでの出来事などを園長や主任等に報告・連絡・相談を行っているか
	誰に対しても明るく親しみあるコミュニケーションが行えているか
	上司からの指示には迅速に対応しているか
	幼児のささやかな成長も見落とさず、それを喜ぶことが出来ているか
	自分の弱みに気づき、気づかされた時に、改善しようと努めているか
	自然や社会状況に関心を持ち、それを保育に活かしているか
	守秘義務の内容を理解し、SNS等による個人情報等の漏洩防止に努めているか
研修 (研究) ・資質向上	研修会などに積極的に参加しているか
	園内・園外研修が行われているか
	保育技術や教師としての資質向上のために、自己課題を持ち改善するように努めているか
	研修で得たものを保育に活かしているか
	研修記録等を作成し教員間で共有出来ているか
	教員間で共有した研修記録を保育に活かしているか
	自己課題を見つけ指導計画の作成や考察の在り方に関する研修・研究を行っている

<p>特に配慮が必要な 幼児への支援</p>	個別の話し合いが職員間で行われているか
	支援が必要な幼児に沿った環境整備がなされているか
	段階を踏みながら、必要な情報をきちんと保護者に伝えられているか
	保護者の相談を親身に受けているか
	支援が必要な幼児の発達・成長のために、幼児理解等の研修に積極的に参加している
	医療機関や関係機関と連携をとり、情報交換を行い支援に役立てている
<p>保護者への対応・ 家庭支援</p>	保護者からの意見・要望に誠意を持って対応している
	幼児の成長や変化を保護者に伝え喜びを共有するように努めている
	幼児の気になる様子を保護者に伝えている
	保護者からの様々な相談に対して適切に対応している
	保護者との対応は公平を欠かさないように心がけている
	保護者の訴えや要望は自己判断せず、園長や主任に報告や相談し、教師間で情報交換・共有している
<p>地域との かかわり</p>	地域との連携・小学校との連携が円滑に行われている
	地域のことに関心をもち積極的に行動しているか（挨拶や会話等を心掛ける）
	園を理解してもらうために掲示板・手紙等を利用し、園の方針・活動を地域に知らせているか
	子育て支援の在り方について関心をもち、育児相談等に親身に対応しているか
<p>安全 管理</p>	幼児の受け取り、引き渡しは決められた手順を守っているか
	遊具の安全に気を配り、定期的に点検しているか
	室内外において危険な箇所の発見・改善に努めているか
	園外活動では年齢に応じ、場所の選定や安全計画（下見、人員配置など）を適切に行っているか
	危機管理マニュアルを作成し、教職員間で共有・理解しているか
	緊急時の自分の役割を把握しているか
<p>衛生 管理</p>	うがい・手洗い等をはじめ、感染症等の対策について教職員間で共通理解し、実践しているか
	衛生への意識の担保・向上のため、行政等からの情報を教職員間で把握・共有出来ているか
	感染症等の対策として換気や加湿等を行っているか
	毎朝、検温確認を行い幼児の体調管理に配慮しているか
	嘔吐した場合の対処・処理法を教職員間で共通理解し、実践しているか
	屋内の遊具や玩具を清潔にしているか

令和 年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人〇〇学園 〇〇〇幼稚園

1. 本園の教育目標

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理 由

5. 今後取り組む課題

課 題	具体的な取り組み方法

6. 学校関係者評価委員会の評価

学校関係者評価委員
学校関係者評価委員
学校関係者評価委員

委員会実施日 令和 年 月 日

令和 年度 自己評価・学校関係者評価報告書

記入例

学校法人〇〇学園 〇〇〇幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・健康でたくましい心を養う
- ・優しく思いやりのある心情を培う
- ・自主、自律、協調性に富む意欲を養う

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

保育内容を見直し、幼児期に必要な友達や教師とのかかわりの時間を増やし、主体性や協調性の育みを大切にする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価内容	評価	取り組み状況・結果
保育内容を見直し改善を図る	A	「卒園までに育ててほしい10の姿」を教師一人ひとりが意識し、カリキュラムに盛り込み実践していくことが出来た。
教師としての資質や保育の質の向上	B	積極的に研修会に参加し、園内研修などで日頃の保育の振り返りを行い、教師間で分かち合うことで幼児理解が深まり、同僚性も育むことが出来た。
衛生管理	A	教師間にて共通理解し、日常の健康管理や疾病予防のための取り組みが出来た。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理由
B	自己評価を行い改善すべき点が見え、三つの課題について重点的に取り組むことが出来た。各教師が保育の質の向上の重要性を再確認した。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援教育	研修に参加し、気になる子に対しての個別の指導計画の作成や、適した環境づくりを保育実践に活かす。また、家庭との連携支援に努めていく。
地域との連携	地域に開かれ愛される園を目指すために、行事内容や園のお便りを外部に向けて発信できるように検討する。
安全管理	危機管理マニュアルを見直し共通理解を行うとともに、園内や通園路の安全点検を行い安全対策への意識を高める。

6. 学校関係者評価委員会の評価

子ども達がのびのびと自己表現し、園生活において一人ひとり細やかな保育がされている。また、健康に留意された環境づくりへの努力がされている。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

委員会実施日 令和 年 月 日

学校関係者評価公表に資する成果

事業③ 学校関係者表公表のための工夫

実施した学校関係者評価を公表するための一つの手立てとして北九州市立幼稚園連盟ホームページをリニューアルし加盟園90園全園がその結果を公表するシステム作りを私立幼稚園連盟広報委員会と共に作成した。



学校関係者評価の啓発に資する成果

子どもがたのしい! 先生がうれしい! 社会にひろく!

学校関係者評価をすすめるために

令和元年度文部科学省
「幼児教育の質向上のための評価実施支援事業」

学校関係者評価のねらい—むらかれた私立幼稚園になるために—
幼稚園は学校教育法に基づく学校です。私立幼稚園も私学の独自性を担保しつつ「公的に組織された教育組織」です。
私立幼稚園は、その建学の精神を基としてそれぞれに「園の教育方針」や「めざす幼児像」を掲げています。それを達成するために年度に取り組むべき重点目標を定めて教育活動を行っています。年度末には自己点検自己評価・学校関係者評価等を通して省察し、その課題を次の保育の質の向上につなげていきます。

学校関係者評価のながれとポイント

- 学校評価の基本は自己評価です。
- 自己評価の結果の客観性・透明性を高めるための学校関係者評価の在り方を工夫しましょう。
- 学校関係者評価を、幼稚園と保護者(家庭)地域を結ぶコミュニケーションツールとして活用し情報提供・評価の公開に努めましょう。

(一社)北九州市私立幼稚園連盟

自己評価・学校関係者評価の進め方のイメージ例

年度(月)	設置者による運営改善	自己評価	保護者・地域対象の活動	学校関係者評価
1-3月				
4月	○保育方針の再考 和合を軸とした教育について の再見直し	○評価項目や内容 の評価内容 の再見直し	○保護者会等を通じて、運営改善の 実施	○学校関係者評価実施 の促進
5月		○各園の特色を 取り入れた特色 評価の実施	○重点的な目標を十分に達成し、 改善活動を行う。	
6月				○学校関係者評価自己 点検の活用促進
7月		○改善に向けて学校の取り組みに 学校関係者(園児)の活用		
8月				
9月				
10月			○学校関係者評価結果を 保護者へ説明し、その 改善を促すための 実施	○学校関係者評価結果を 公表し、必要に応じて学校関係者 保護者の意見と学校 改善の質
11月		○学校関係者評価の結果を 保護者へ説明し、その 改善を促すための 実施		
12月				
1月				
2月		○自己評価の文書(報告書 ・改善シート)の作成(12月末 までに)	○保護者に対して、 アンケートの実施と その結果の公表	○学校関係者評価結果を 公表し、必要に応じて学校関係者 保護者の意見と学校 改善の質
3月	○自己評価(学校 関係者評価)を 手帳等に記録 できるよう努め る	○自己評価の文書(報告書 ・改善シート)の作成(12月末 までに) ○自己評価結果を公表 ○評価結果をもとにした 運営改善の計画・評価項目の改善	○保護者に対して、 アンケートの実施と その結果の公表 ○保護者会等を通じて、 運営改善の質	○学校関係者評価結果を 公表し、必要に応じて学校関係者 保護者の意見と学校 改善の質

今年度の結果を次年度の目標設定や
具体的な取組に反映する

※1年間の進め方のイメージです。参考にして、独自に進めていきましょう。

事業② 理解と推進を促すクリアファイルの作成と配布

令和元年度に本団体教育研究委員会が作成し、各幼稚園及び関係部局に配布して理解の充実に役立てた。

学校評価幼児教育アドバイザー養成講座開設

目的 この委託事業の成果を受けて、北九州市子ども家庭局より令和3年度からの助成で「学校評価幼児教育アドバイザー事業」の新規事業が始まることとなった。そこで早速、アドバイザー委嘱予定者に向けて下記のように養成講座を企画開催した。

対象 北九州市私立幼稚園連盟が委嘱予定のアドバイザー

講座日程

第1回 令和3年2月2日（火）15：00－17：00 第2回 令和3年2月8日（月）15：00－17：00
第3回 令和3年2月17日（水）15：00－17：00 第4回 令和3年2月24日（水）15：00－17：00

講座内容

●第1回 2月2日（火）

開催挨拶 北九州市子ども家庭局幼稚園課長

「北九州市の学校評価幼児教育アドバイザー養成にあたって」

講座1 学校評価と保育の質向上について（講義）

講師：坂田和子（福岡女学院大学 教授）

幼児教育推進体制について 学校評価とは 定義、目的、意義の再確認

保育の質向上とは 質に関する具体的理解 学校評価と保育の質向上との関係性

学校関係者評価が保育の質を向上する流れ カリキュラム・マネジメントと学校評価

●第2回 2月8日（月）

講座2 学校評価幼児教育アドバイザーの意義・役割・方法（講義＋演習）

講師：坂田和子（福岡女学院大学 教授）

園訪問の方法 アドバイザー訪問における基本

幼稚園教育要領を踏まえた上での私学の独自性への理解

幼稚園教育要領に基づいた園と保育の見取り方、フォトワーク

幼児理解に基づく評価 関係書類の理解ならびに記録の書き方、活用方法

●第3回 2月17日（水）

講座3 園内研修としての取り組み方（講義＋演習）

講師：那須信樹（中村学園大学 教授）

個人としての自己評価と組織としての自己評価の関係性の理解

重点目標の設定の仕方 ファシリテーション技術の必要性について

●第4回 2月24日（水）

講座4 学校評価事業の全体像と自己評価・関係者評価の関係性やその意義について（講義）

講師：那須信樹（中村学園大学 教授）

自覚的な学校評価に向けて 試行事業からの考察

取り組みの意義と価値の共有

閉会挨拶 北九州市教育委員会指導主事

「北九州市の幼児教育推進体制の鍵となる学校評価－北九州私立幼稚園連盟へ期待すること」

④ 考察と課題

4園の事例を振り返って

今般の本団体の取り組みは、私学の独自性を大切に展開しつつ、それが独善性にならず幼稚園教育要領に則った公教育を推進する場所としての幼児教育の在り方を問う意味で大変意味があったと思う。

特に、すでに100%実施を達成している本団体だが、それが形骸化したものでなく生きた・動いていく・変化していく内容にするために見直しができた実にタイムリーな研究であった。またまだ研究途中であるという感は否めないが大きく以下5つのポイントがあげられる。

第一に教師間の「対話」による教育実践の振り返りの充実である。関係者評価を意味あるもの取り組みにするためにも、まずは日常の教育実践の充実や教育の質向上について、「自己評価」を基盤とした教師間における対話の量的拡大を促す時間の確保・場づくりが重要であること。そうした配慮のもとで幼児教育という営みや子供の姿を可視化し、幼稚園全体で組織として振り返ることができることを学んだ。更にその姿を社会に公表することで幼児教育の必要性を社会に発信できると考えた。

第二に、その場で得られた「成果」を共有することの必要性である。ここでいう「成果」とは、対話や記録などによる振り返りによってもたらされる教育実践の「変化」とそれに伴う子供・環境・保護者さらには地域の変化を意味する。こうした具体的な変化に（変化しなかった場合も含めて）自覚的になり同僚間をはじめ保護者とも共有する仕組みづくりが必要だろう。その際、90園全園の「共通語」となるのは「幼稚園教育要領」や「幼児理解に基づいた評価」（2019）において示されたものである。それに各園の教育理念を付加して、各園が独自にまとめ、発信していく必要がある。

第三に、こうした取り組みを園内だけに留めず、保護者をはじめとする地域社会にも積極的に発信しつつ幼児教育に携わる当事者同士で共有・改善・新たな計画そして実践と持続可能なシステムづくりが大切であることを学んだ。インターネット時代その現代のニーズを適切に受け取りそれに対応した発信媒体の工夫改善を行う中でまた新たな保護者や地域等との連携を深めていかないといけない。

第四として、これらが円滑に進むにはもちろん園長のリーダーシップが重要であるが、園内の主任教諭や指導的立場にある教師によるマネジメントによって組織的に行っていく必要がある。教育運営におけるPDCAサイクルが円滑に機能しその情報を全教師が共有することによって各々の園の教育課程・指導計画作成に活かされ、教育の質向上に繋がっていくというその過程そのものが「評価」であるということに改めて学んだ。また、それらを社会に公開することで内側に閉じた園運営ではなく開かれた幼稚園として、幼児境域を拓くという大きな使命があることを理解した。

第五に4園の具体的実践にあたり、アドバイザーとして学識経験者等がそれぞれの園を訪問しその幼稚園が必要とするアドバイスを頂けたことは、教育内容に独自性がある私立幼稚園としては、それぞれのニーズに合った指導助言を受けられるということで非常に有益であり、実践が深まった。今後幼児教育アドバイザー制度との繋がりを考慮しつつ人材育成に努める必要があると思う。

本事業を振り返って

本事業は、幼稚園における学校関係者評価に関する調査研究として、本団体（加盟園90園）が「幼児教育の質向上をめざした学校関係者評価の充実・改善に向けて～子どもの真の幸せを願う私立幼稚園の独自性を大切しつつ公教育を担うとしての自覚を持つ教育運営を考える～」というテーマで2年間に渡り取り組んだ事業であった。

本団体は例年多様な研修会を企画開催して教職員の質の向上に努めているが今回のような委託事業は初

初めての経験で当初は戸惑うことも多かった。しかし「教育における評価」の課題の重要性と必要性は団体内での共通課題でもあった。今回は学識経験者に加え行政部局もこの事業に参加頂いたことは公教育を担うものとしての自覚の構築という点において大きな存在であった。特に本市教育委員会との交流の中で北九州市の目指す子ども像などの学びを得てそれらが学校評価のサイクルの中に活かされたことは公教育を担う立場としての私立幼稚園の在り方に多くの示唆を加えることが出来た。本市が政令指定都市であるという観点から今後も新たな展開が期待される起点になったと考える。

4園の協力園が独自のテーマを展開していったことが今回の主たる内容であった。事業当初はまさしく困惑の中で出発した。当初評価を教育の質の向上に結びつけるPDCAサイクルの概念の獲得に苦慮した。特に学校関係者評価が自己評価を基にして行うという点において、この文言は理解していても自己評価の在り方について様々な課題が上がった。自己評価は毎年実施しているがそれが自分の保育の振り返りになっていて、重点目標を踏まえた自己評価になっていないことが浮彫りになってきた。そのことがPDCAサイクルが機能しにくい一つの要因であるとの理解の上で加盟園に対して自己評価の在り方について研修を重ねた。まだまだ周知が不足しているので更なる研修が必要と考える。特に各々の園が設定した重点目標に連なる評価項目の選定にあたり、その文言や表記の仕方については形骸化した抽象的なものにならないように、それぞれの園の教育実践の中から紡ぎだされた生きた言葉になるように今後も研究を続ける必要があると考える。「わが園のこと」を「わが園の言葉」で語れることはまさしくその園で教育のPDCAが機能していると考えからである。

しかしながら私立幼稚園はそれぞれに建学の精神を持ち独自性を持って運営される。多様な価値観が必要とされる現代社会において私学の存在意味もそこにある。ただそれが独善的にならないように留意し続ける必要がある。

今回の事業で協力園には様々な形で学識経験者が幼稚園訪問を行い、観察指導助言を行った。その中で収集する悩みや課題はその園によって違うことが多かった。その一つ一つに対応するにはそれぞれの幼稚園のオーダーに応えられる内容の指導助言が必要である。つまりその幼稚園のオーダーに応えられるアドバイザーの必要性である。定例会の報告等の中で、北九州市子ども家庭局がこのことを強く理解して、次年度より本団体に対して学校評価の推進のために「学校評価幼児教育アドバイザー」の支援助成金を導入していただいたことは、本団体にとって新しい未来を拓くこととなった。アドバイザー養成講座を既に今年度開催したが、その選定方法・講座内容・加盟園への周知等運営上たくさんの課題ある。アドバイザー各自が訪問する幼稚園の背景はそれぞれ違うことを認識して正解は一つではないことを尊重すること、学校評価の在り方の普及に努めながら園内研修をはじめとした学校評価の場づくりを行うファシリテーターとしてのロールモデルに意識していく必要がある。本団体にとってこの事業を持続可能なものにしていく組織づくりは始まったばかりと受け止める。

幼児理解に基づいた評価ということを基本として日々の保育の振り返りを丁寧に行うことの大切さを再度伝達し、更にそれを社会に向けて可視化していく工夫を現場と創意工夫する必要がある。アドバイザー養成の難しさをいよいよ痛感するとともに、団体として取組むことの力強さに期待している。

1年次に推進した4つの協力園の研究発表をシンポジウム形式（2020年12月）で行った時のアンケートでは「評価」に対して「ものさし」「できる、できない」「比較」「点数」等の言葉が多く見られた。しかし加盟園対象に何度も研修会を重ねて行く中で「振りかえり」「客観性」等の文言に変化していった。研修を受けた後のアンケート結果に研修前に比べると大きく意識が変容していることが伺えた。「評価と聞くと悪いイメージしかなかった」のが「保育の質向上の為の方法がそれぞれの園にあり又それを学校関係者評価につなげるまでの一連が大変わかりやすかったです。自己点検表の見直しや『評価』への考え方、意識の持ち方についても良い学びになりました。」という言葉が紡ぎだすまでになっている。研修の機会

の大切さや幼児教育に携わるすべての教師の学びの必要性を強く感じた。

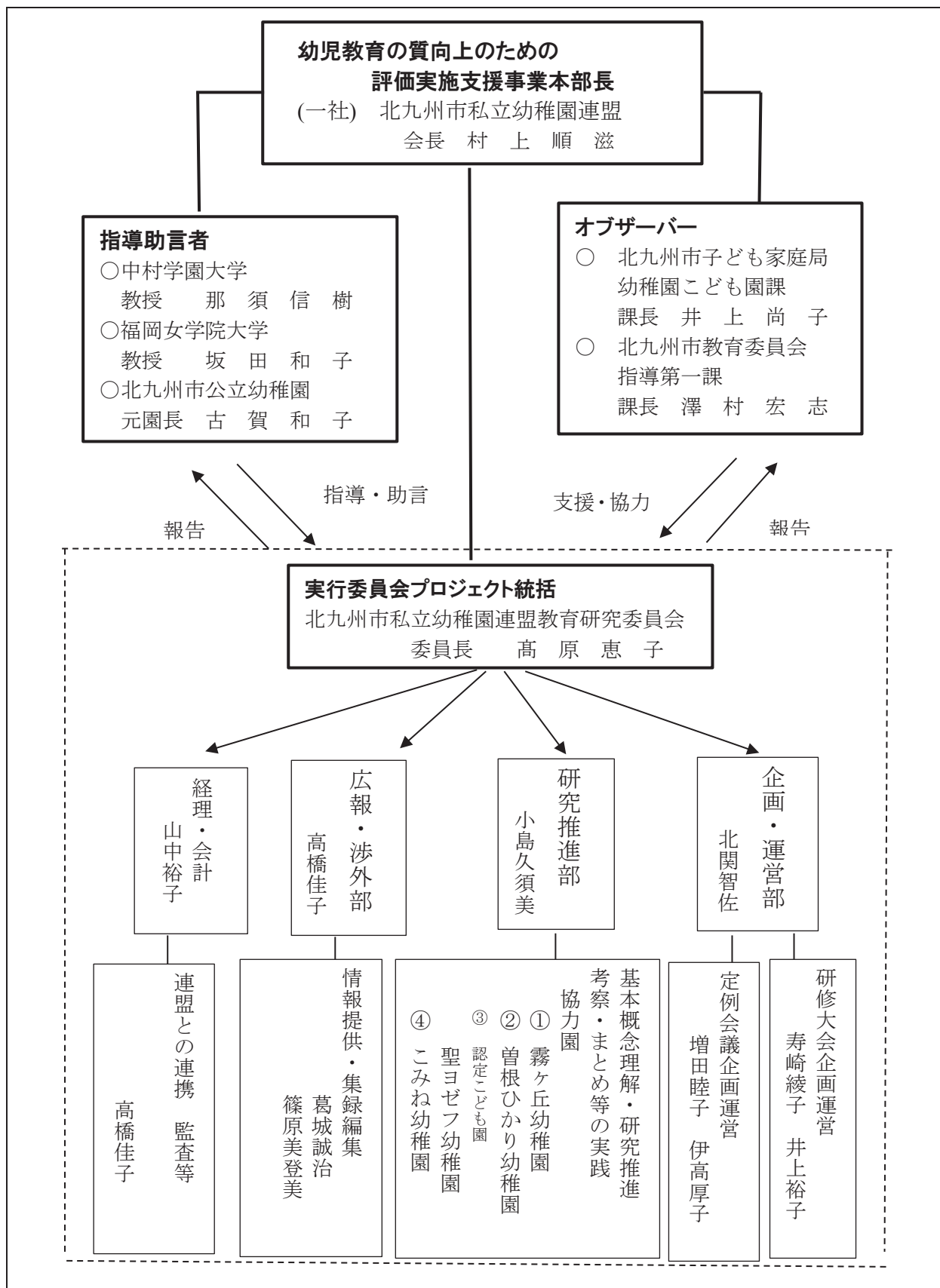
4園の協力園園長も「最初は不安しかなかったが、この取り組みをやってみて評価のことをよく理解できた」「重点目標を意識することで単なる保育の振り返りではなく園全体に対する教師の意識が変わった」「当初はどのように研究したら良いのかと辛かったが子どもの姿がどんどん変わってきているのが目に見えてきて気付けば楽しい、嬉しいと感じていた自分達があった」というコメントも寄せられた。適切な学校評価の実施は教育の質の向上につながるという確かな実感を感じていることが伺える。

社会の急激な変化、価値の多様性を求められる変化の中で私立幼稚園の存在意義は今後更に問われていくだろう。今回のこの事業で得た多くの成果を得た。教育実践から課題を明らかにし課題解決の方向性を具体化していく学校評価のサイクルの中で、地域に拓かれ愛される幼稚園となるべく本団体がまとまり支援していく仕組みの構築が必要である。

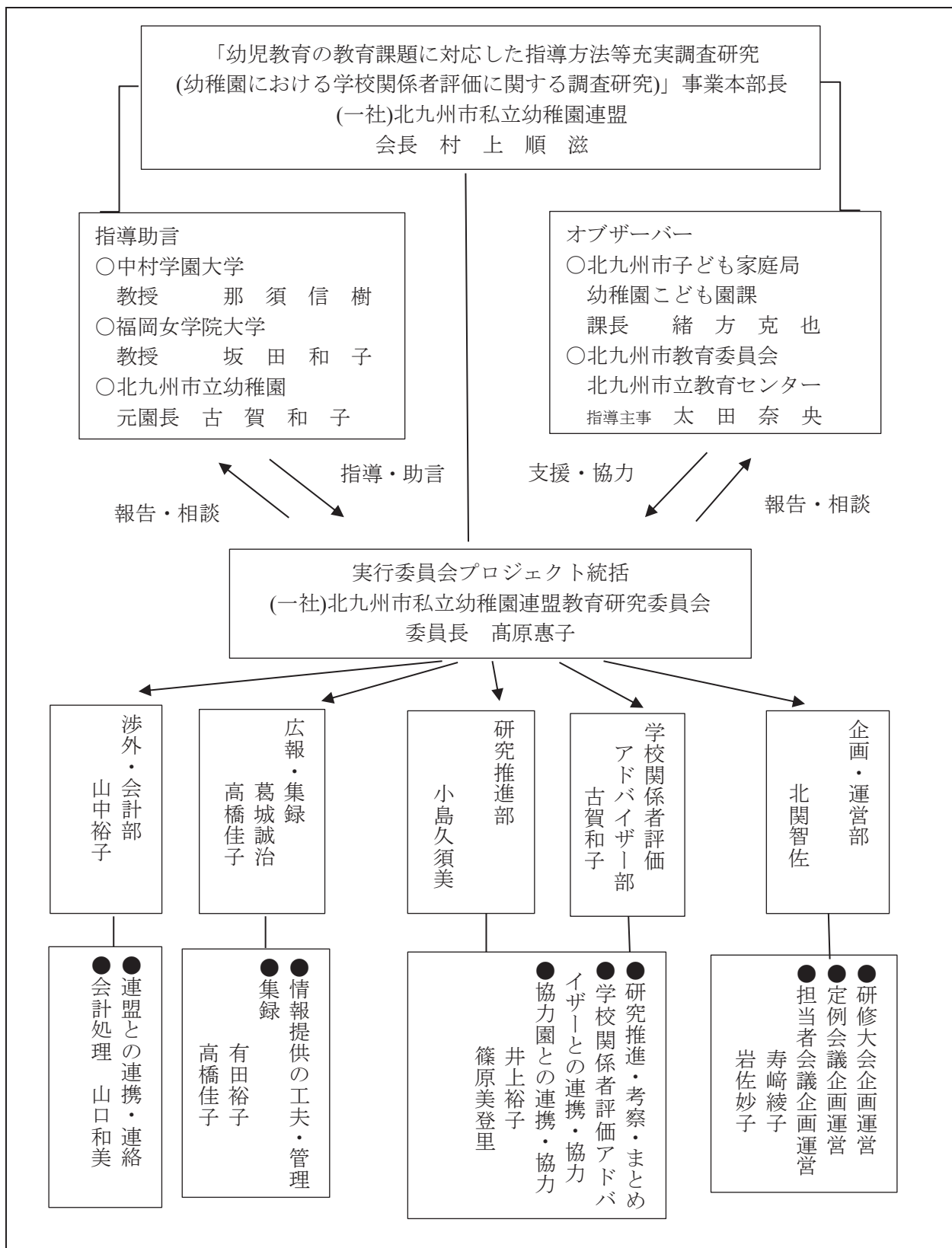
本研究はまだまだ研究の途中にあると認識している。

本研究を通して、学校評価はできたかできなかったかを評価することが目的ではなく、園での取り組みを教職員全員が振り返り、取り組みの成果と課題を共有し、改善に向けて動き出すことであることがわかった。その一方で、重点目標を設定し、重点目標の達成のために園として何に取り組むのか、その取り組みを評価する指標・取り組みの成果を評価する指標を設定するといった学校評価の流れについては、さらに深く理解する必要性を感じた。特に、重点目標は、教育目標ではないことを踏まえ、園として何に取り組むのかについて具体的に設定する必要があること、重点目標を具体的に設定することにより、教職員は重点目標を共有しやすくなるし、評価項目・評価指導等もより具体的になっていくことなどについて、今後、更に実践を重ねて理解を深めていく必要があると考えている。

研修体制(1年次 2019年度)



研修体制(2年次 2020年度)



一般社団法人 北九州市私立幼稚園連盟一覧

	園名	〒	所在地		園名	〒	所在地
門司区	愛光	801-0864	門司区老松町 12-3	若松区	認定こども園行学	808-0134	若松区大字乙丸 770-1
	あけぼの	800-0102	門司区猿喰古新地 939-13		顕照寺朝日ヶ丘	808-0112	若松区大字頓田 594-4
	敬愛	800-0035	門司区別院 6-1		認定こども園小石	808-0042	若松区棚田町 11-28
	幸	801-0864	門司区老松町 7-3		神愛	808-0014	若松区栄盛川町 9-1
	東郷瞳	801-0802	門司区白野江 1-18-7		認定こども園精華	808-0063	若松区和田町 13番 12号
	西門司	800-0054	門司区社ノ木 1-14-8		高須	808-0144	若松区高須東 4-12-40
	日の丸	800-0024	門司区大里戸ノ上 2-3-37		浜町	808-0023	若松区北浜 1-1-25
	門司こばと	800-0055	門司区東新町 1-9-21		日吉	808-0102	若松区東二島 2-16-6
	門司聖母	800-0035	門司区別院 1-21		若松青葉	808-0143	若松区青葉台西 1-3-1
門司瞳	800-0025	門司区柳町 4-5-1	若松天使園	808-0035	若松区白山 1-9-50		
小倉北区	認定こども園あおば	802-0022	小倉北区上富野 3-9-32	八幡東区	尾倉	805-0059	八幡東区尾倉 3-8-2
	あかつき	802-0071	小倉北区黄金 2-8-31		華頂	805-0050	八幡東区春の町 3-2-2
	いづみ	802-0061	小倉北区三郎丸 3-10-36		小鳩	805-0002	八幡東区枝光 4-10-1
	栄美	802-0022	小倉北区上富野 3-17-10		済世第一	805-0069	八幡東区前田 3-4-6
	おひさま	803-0818	小倉北区豎町 1-2-13		高見	805-0012	八幡東区川淵町 3-23
	木町	803-0815	小倉北区原町 2-7-6		乳山	805-0048	八幡東区大蔵 2-18-8
	霧ヶ丘	802-0052	小倉北区霧ヶ丘 1-1-13		槻田くるみ	805-0035	八幡東区山路 2-11-27
	光沢寺中井	803-0836	小倉北区中井 2-17-36		八幡カトリック	805-0011	八幡東区八王寺町 1-40
	小倉カトリック	802-0075	小倉北区昭和町 14-7		戸畑区	教寺	804-0082
	森林	802-0041	小倉北区妙見町 1-32	第二明泉寺		804-0032	戸畑区西大谷 1-9-52
	西南女学院短大附属シオン山	803-0835	小倉北区井掘 1-3-4	戸畑天使園		804-0081	戸畑区千防 1-11-22
	天心	803-0841	小倉北区清水 2-7-1	宝福寺		804-0011	戸畑区中原西 1-3-23
	認定こども園富野	802-0023	小倉北区下富野 3-5-6	明泉寺	804-0063	戸畑区正津町 1-9	
認定こども園東筑紫短期大学附属	803-8511	小倉北区下到津 5-3-14	八幡西区	愛真	807-0866	八幡西区日吉台 1-1-25	
聖ヶ丘	803-0841	小倉北区清水 4-5-1		青山	806-0059	八幡西区萩原 3-7-1	
認定こども園石原	803-0185	小倉南区石原町 146-1		あかね	807-1125	八幡西区池田 2-3-27	
認定こども園長行	803-0272	小倉南区長行西 4-12-1		浅川	807-0873	八幡西区藤原 3-19-1	
お宮の里	800-0208	小倉南区沼本町 4-18-5		穴生	806-0049	八幡西区穴生 1-10-22	
認定こども園くさみ	800-0232	小倉南区朽網東 3-2-10		九州女子大学折尾	807-0834	八幡西区北鷹見町 5-10	
小倉瞳	800-0244	小倉南区上貫 3-4-39		九州女子大学自由ヶ丘	807-0867	八幡西区自由ヶ丘 2-1	
認定こども園きつぷくくらみなみ	802-0976	小倉南区南方 3-23-5		楠橋	807-1146	八幡西区楠橋下方 1-1-13	
志井	802-0985	小倉南区志井 6-19-1		上津役	807-0072	八幡西区上上津役 4-18-7	
志徳	802-0974	小倉南区徳力 4-26-10		こじか	806-0055	八幡西区幸神 4-1-9	
認定こども園神理	802-0974	小倉南区徳力 5-10-10		こみね	807-0082	八幡西区小嶺台 1-3-30	
認定こども園清和	800-0257	小倉南区湯川 3-3-30		こみね星ヶ丘	807-1265	八幡西区笹田 933-5	
星和台	802-0973	小倉南区星和台 1-6-1		済世第二	806-0055	八幡西区幸神 3-8-8	
認定こども園曾根ひかり	800-0222	小倉南区中曾根 1-7-1		下上津役	807-0075	八幡西区下上津役 1-6-2	
でんき	802-0814	小倉南区蟻田若園 1-2-24		認定こども園聖ヨゼフ	806-0030	八幡西区山寺町 12-56	
認定こども園徳力団地	802-0975	小倉南区徳力団地 1-2		第二文化	807-0841	八幡西区的場町 20-12	
フレンズ	800-0224	小倉南区東貫 1-15-3		認定こども園成松	806-0013	八幡西区清納 2-3-21	
むつみ	800-0206	小倉南区葛原東 4-3-38	本城西	807-0801	八幡西区本城 1-15-2		
山の手学院	802-0979	小倉南区徳力新町 2-3-32	認定こども園本城東	807-0815	八幡西区本城東 1-18-15		
吉田	800-0201	小倉南区上吉田 2-18-33	光貞	808-0137	若松区ひびきの南 1丁目 7番地 102		
わしみね	802-0978	小倉南区蒲生 2-8-6	緑ヶ丘	807-0071	八幡西区上の原 2-4-37		
				緑ヶ丘第二	806-0044	八幡西区相生町 11-5	
				八幡みなみ	807-0851	八幡西区永犬丸 5-10-35	

事務局

〒 805-0019 北九州市八幡東区中央 2丁目 1-1 レインボープラザ 6階
電話 (093) 682-1815 FAX (093) 682-1816

E-mail : renmei@wonder.ocn.ne.jp ホームページ : <https://www.kitakyu.or.jp/>

謝辞 ～おわりにかえて～

さえ「ママ、さえに あなたは だーれって いった」

ママ「あなたは だーれ」

さえ「ぼくはねえ ママの たーいせつな ちゅき（好き）」

2歳11ヶ月女児

思いもかけない新型コロナウイルス感染症禍の中ではありますが、さえちゃんは4月から幼稚園に入園します。きっと楽しみにしていることでしょう。女の子なのに自分のことを「ぼく」と言います。さえちゃんはママにとって自分が大切に大好きな存在であるということを知っています。そしてそのことをこんな素敵な言葉で伝えることも出来ました。

温かな家庭の慈しみの中で育ててもらった幼な子をお預かりしている私たちです。今度は幼稚園の中で同じように温かな日常を紡いでいかないとはいけません。一人一人の特性を知り、その子の発達に即しながら教育活動が推進されます。この日々の振り返りこそ「幼稚園の評価」の最初の一步であると確信を抱くに至った本事業の取り組みでした。

評価を教育の質向上につなげていくという営みについては、研究の序の口に立ったという印象ですが、少なくとも学校関係者評価をPDCAのサイクルに関連付ける必要性や重要性に気づくということは達成したのではないかと思います。加盟園全園が同じベクトルを持つことによって互いの園から大きな影響を受けるという追い風に乗って、連盟全体で取り組んだことが何よりの成果だと思います。

本団体は行政の後押しを受けて、次年度より学校評価アドバイザー事業という新規事業も始動することになりました。また、新たなページの始まりです。

90園の加盟園が相互に協力し合い、子供達の真の幸せの為に弛みない研修・研究を進めて参ります。

拙い取り組みをいつも丁寧に見守りご指導ご助言頂きました湯川秀樹視学官をはじめとする文部科学省初等中等教育局幼児教育課指導係の先生方に厚くお礼申し上げます。

学校関係者評価に関して多くの学びを頂きました岡上直子先生、那須信樹先生、坂田和子先生に厚くお礼を申し上げます。また、足取り軽く90園の加盟園を訪問し具体的な実践の指導を頂きました古賀和子先生に厚くお礼を申し上げます。

日頃より運営面でお世話になっております北九州市子ども家庭局幼稚園・こども園課及び教育内容のご指導を頂いている北九州市教育委員会の皆様がオブザーバーとしてご参加頂いたことは大変心強いことでした。ここに厚くお礼申し上げます。

北九州市私立幼稚園加盟園90園の先生方がこの事業に関心を示し研修会等積極的に参加頂いたことは大変励みになりました。特に4園の協力園におかれましては、有意義な研究を進めて頂き心より感謝申し上げます。4園の研究成果は今後の連盟の方向性を示すものとして大変意義のあることと思います。

最後に、共にこの事業を推進した北九州市私立幼稚園連盟教育研究委員会委員及び煩雑な事務を快く処理して頂きました連盟事務局の皆様方に厚くお礼申し上げます。

コロナ禍の収束を心より願いつつ

一般社団法人 北九州市私立幼稚園連盟

參考資料

1 研究事例報告

事例1 学校関係者評価に繋がる自己点検・自己評価について考える。

学校法人谷川学園 こみね幼稚園

1 年次

1 令和元年度 こみね幼稚園の重点目標

「学校関係者評価に繋がる自己点検、自己評価の在り方について考える」

2 取組の経緯

(1) こみね幼稚園の課題

こみね幼稚園のこれまでの学校関係者評価、自己点検・自己評価の取組の現状から

自園の「自己点検・自己評価、学校関係者評価」に対する思い（現状）

- ◎10年も前からのこと・・・ ◎知っていたけれど、しないままで時は過ぎている。
- ◎「今さら!!」「園児数が評価だ。」 ◎「保護者は信頼している。」 等々

10年前から始まっていることはわかっていた。日々の保育や行事への取組に忙しく、「しなくても何とかなる。」「指導案は教師一人一人が書き込みを行っている。」という思いの方が強かった。

実際、それを振り返り、自己点検・自己評価につなげることの重要性が分かるころまでいっておらず、掘り下げてきていなかった。

平成20年幼稚園教育要領で改定後、自己評価は義務、学校関係者評価は努力義務だと分かっているが、上記の本音を盾にしているところが、大きな課題であった。

(2) 今年度、事業協力園になったこと

事業協力園になったことで、課題解決のために学校関係者評価に繋がる自己点検・自己評価の在り方について改めて考えることとなった。このことは、教師一人一人が自分の日々の保育実践を振り返り、カリキュラムの見直し改善を図ることで、一層の「より信頼される保育実践」につながる契機と捉え、取り組んでいくことにした。

そして、本園の取組のキーワードを「『初めの一步』から、教師及び職員全員で『できることから』取り組んでいく」とした。

3 課題解決に向かった取組

(1) 自園の教育方針の共有・・・『初めの一步』から教師及び職員全員で『できることから』取り組んでいく

(2) 課題解決に向けた具体的な取組内容の決定

・・・『初めの一步』から教師及び職員全員で『できることから』取り組んでいく」

- ① 教師・職員の自己点検・自己評価について
- ② 教師・職員による自己点検・自己評価項目の設定と実施
- ③ 学校関係者評価委員の選定と依頼の実際
- ④ 保護者アンケートについての取組
- ⑤ 学校関係者評価委員の評価にかかわる内容について
- ⑥ 学校関係者評価委員の開催について

4 取組の実際

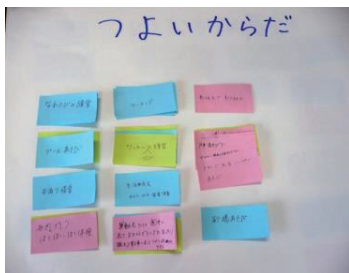
(1) 教師及び職員の自己点検・自己評価について

副園長がリーダーシップをとり、まず、全員が参加できるよう教師の会議を開く時間等を確保した。簡単なことのようにあるが、実際のところ、ここが一番難しいところだった。勤務に関する事柄もあるので、時間の確保は管理職の出番であることも今回のことで、痛感することとなった。

まず、今回の取組について共通理解するために内容を詳しく話す基盤づくりから行った。

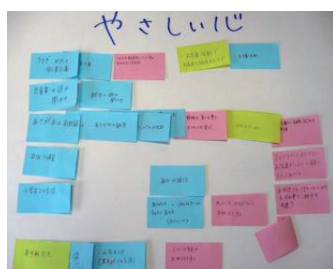
次に、こみね幼稚園の「育てたい子ども像」について確認することにした。3つの教育方針について、「自分は」これまでどのような活動を通して育もうとしてきたのか、ラベルワークを行い、育てたいこども像や園の持ち味について話し合った。・・・『初めの一步』から、教職員全員で『できることから』取り組んでいく

【教育方針1 「つよい体」】



「戸外で元気いっぱい遊ぶ」
「プール遊び等、困難挑戦」
「縄跳び等、目標達成」 他

【教育方針2 「やさしい心」】



「友だちとの関わりの中で」
「動植物とのかかわりの中で」
「異年齢児とのかかわりの中で」 他

【教育方針3 「ゆたかな感性」】



「絵本の読み聞かせ」
「様々な体験活動」
「様々な人との交流」 他



【(1) の考察】

これまで、時間をとってまで話し合うことは現実的にはできていなかった。一人一人が自園のことについて同僚と考えることの必要性や重要性を感じ取り、教育方針と保育実践の関連性を再認識できた。

(2) 教師及び職員による自己点検・自己評価項目の設定と実施

初めてのことで自身がよく考え、同僚と語り合いながら、『初めの一步』から、教職員全員で『できることから』取り組んでいくことをもって項目を設定していき、このことを意識しながらこれからの保育を行うことにした。



評価分類		評価項目(目標・取組)	目標値	具体的な方策(どうすることで)	自己評価	〇成果 ◆次年度への改善点(具体的に)
I	保育の計画性	教育方針の理解 園の教育理念	A B C D			
		環境の構成	A B C D			
II	保育の在り方・ 幼児への対応	幼児のみと理解	A B C D			
		指導とのかかわり	A B C D			
		保育者同士の協力・連帯	A B C D			
		教師としての 資質や能力・良識・適性	A B C D			
IV	保護者への対応	情報の発信と受信	A B C D			
		対応上のマナー・良識	A B C D			

【(2) の考察】

『初めの一步』から、教職員全員で『できることから』取り組んでいくにより、ラベルワークを実施したことは、保育に取り組む一人一人の保育者が「こみね幼稚園」のよさや課題、自分の保育実践と教育方針とのつながりなどについて改めて考えるきっかけとなり、自己点検・自己評価の項目決めに納得をもって取り組んでいくことができたと考える。

また、自分自身が実際に書き込んで目標値を設定することで、保育を振り返ることの重要性に気づき、意識した保育実践につながっていくことがわかった。

(3) 学校関係者評価委員の選定と依頼の実際

次の取組として、学校関係者評価委員の選定と依頼をすることになった。これまでは在園児保護者や卒園児保護者だけに依頼していたが、学校関係者評価の意味を次のように捉え直し、依頼を実施していった。

<学校関係者評価委員の依頼の実際にあたっての捉え直しの内容>

- ①こみね幼稚園は「地域の中にある幼稚園である」ということ
- ②こみね幼稚園は「地域の方に見守られての幼稚園である」ということ
- ③こみね幼稚園は「地域の方を巻き込み、地域の方々の目、思いを園に頂きながら、地域に開かれた活動を展開していく幼稚園である」ということ
- ④こみね幼稚園は「子どもの育ちの連続性を大切にした幼小連携に取り組む幼稚園である」ということ

【結果】

本園の取組をお話しさせていただくと、近隣小学校長、自治区会まちづくり協議会長、異校種学校関係者、本園母の会長各位が快く引き受けて下さった。

<園の取組が分かる年間計画表の作成>

令和元年度 こみね幼稚園 学校関係者評価 年間スケジュール

目安となる月	3月以前	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
評価の流れ						評価準備 重点目標 の設定							評価・公表
評価体制の構築										評価項目 の 検討・設定		自己評価 集計分析を 基に研修会 にて全職員 ディスカッ ション	まとめ 公表シート 作成 報告書の 作成
自己評価	重点的に取り組む 目標設定		重点的な目標等を十分に考慮した保育活動							見直した重点的な目標等を 十分に考慮した教育活動		報告	
学校関係者評価										第1回 評価委員 会 (生活発表 会終了後)			第2回 委員会 (学校関係 者評価)
保護者対象の活動										全学年 アンケート (生活発表 会)	アンケート 集計・分 析・公表	園全体の 評価アン ケート	
その他						園内研修							

(4) 保護者アンケートについての取組

次に保護者アンケートについて取り組んだ。これまでは、園児数分の集計をする時間のこと、アンケートを取ると、たくさんの要望が出たらどうするか、批判的なものがでたら、職員のモチベーションが下がってしまう等を考えるとなかなか実施できなかった。

しかし、『初めの一步』から、教職員全員で『できることから』取り組んでいくことから、思い切って実施することにした。

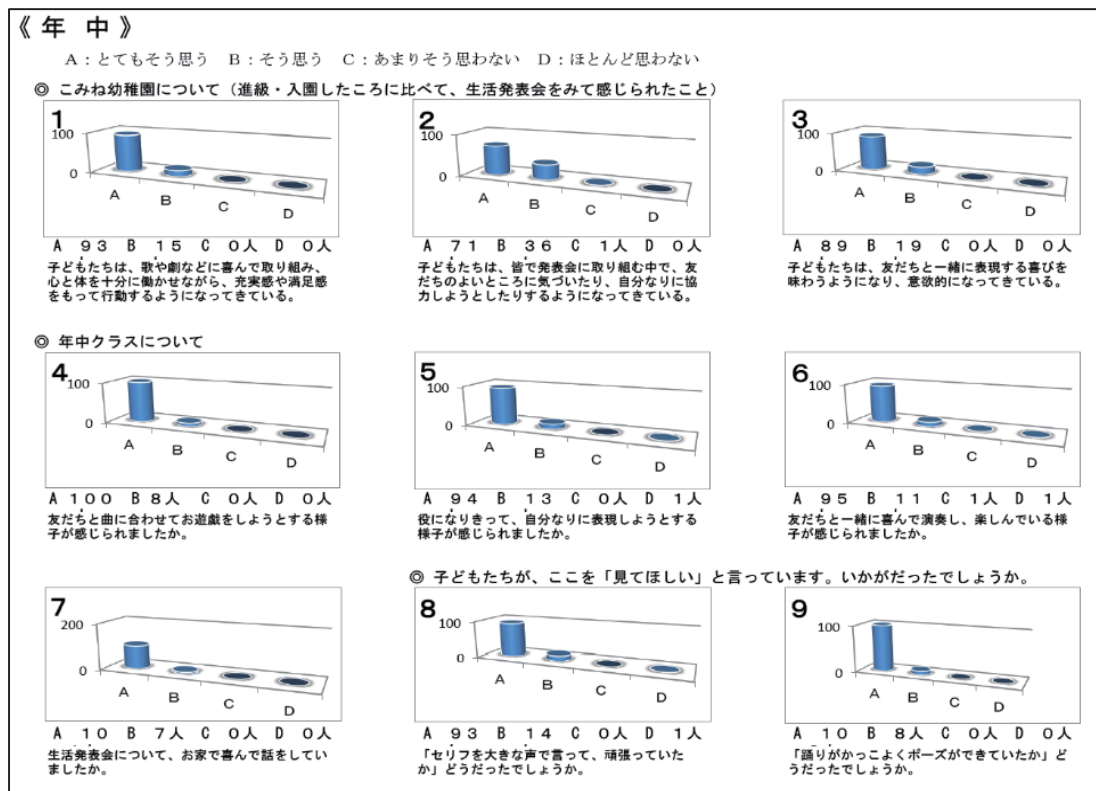
① アンケート作成・実施

今回は生活発表会についてのアンケートを行った。教育方針「つよい体、やさしい心、豊かな感性」にかかわる項目を入れることと、学年ごとに会議を開き、教諭自身が保育の中で、大切にしてきたこと等を話し合い、項目を決めていった。(初めてのアンケートということで、項目を少なく絞るために何度も話し合いをした。)

項目が「できる」「できない」の評価ではないので、文言に気を付けた。その中で、「アンケートに子ども声を入れてみたい」ということになり、保育中に子どもたちに話し合ってもらいその言葉をアンケートに入れた。年限の保育のねらいに応じて項目を設定したことで、保育者自身が園の子ども像を意識することができた。

② アンケート結果（一部抜粋）

『初めの一步』から、教職員全員で『できることから』取り組んでいくにより、アンケートの集計は教師で話し合いながら行った。



【(4) の考察】

集計をしていく中で、自然と教師自身が喜んだり、反省したりと、自分の保育を振り返ることができた。また、保護者に公表するためにグラフ化したのが、グラフにすることによって保護者の評価が目に見えて分かり、教師にとっても自分の保育が、保護者の方から認められているという励ましになった。

保護者の一人でもD評価があれば、それを丁寧に見ていくことにした。具体的に言うと、「自分のことをひとまえで自信をもって話せるようになってほしい」という願いが見て取れた。これからはそのことも保育に取り入れていくという課題も見えてきた。たくさんの保護者から認められることによって先生たち自身がやりがいを感じることでできる貴重な時間にもなった。また、子どもたちからの質問の答えを子どもたちに伝えることで、子どもたちはとても喜び、大きな自信にもつながった。

(5) 学校関係者評価委員の評価にかかわる内容について

学校関係者評価委員の方を生活発表会にお招きし、実際にみて頂き、アンケートにお答えして頂いた。アンケートの中には自由表記の欄を設け、感想を頂いた。

<学校関係者評価委員から頂いたご助言、ご意見>

- ・自治区会員は1400世帯いる。子どもが年々少なくなっている。具体的な部分が見えてこない。
- ・自己点検・自己評価することでやりがいにつながればよい。
- ・幼稚園は子どもをみてもらうことで地域貢献をしている。悪い噂は、聞いたことがない。
- ・こみね幼稚園は、子どもの人数が多いけど、どの先生も自分の子のことを知っていてくれる親近感がある。どの組の先生にもお願いしますと言える、安心や親しみが湧き信頼できる。
- ・自分の子どもたちもこみね幼稚園にお世話になった。本年からの本格的な学校関係者評価の立ち上げは大変だったでしょう。
- ・評価委員は批判やダメだしをするのではなく、こみね幼稚園の応援団と考えて下さい。教育活動が上手くいくように追い風を起こします。
- ・自己点検・評価の重点項目の設定は、それぞれの先生が頑張る部分を決めて設定したもので、モチベーションが上がるものでなければならぬ。自己点検・自己評価を振り返りで自信をもって見てもらい継続し続ける。
- ・評価を数値化していき、風通しを良くしていろいろな意見が出ると教育の質が上がっていく。PDCAサイクルを回していくことが重要。
- ・管理者としては、先生方の振り返りで成果をほめてあげる。そうするとやる気につながる。大人も褒められるとうれしい。教育技術は、すぐには、上がらない。やる気はすぐにでも上げることができる。
このように本園の教育の在り方に関してあたたかく見守りご指導、ご助言を頂いた。

【(5) の考察】

学校関係者評価委員の温かい助言や見守りは、反省点だけではなく、続けていくことやチャレンジしてみようという気持ちがでてくるなど「評価はつながる」ものとなったと考える。年度末に行う学校関係者評価委員会の開催までに、教職員の自己点検・自己評価の書き込みを行ったが、自分で文言を書き込むことで、自分で考え、悩み、保育を振り返るよい機会となったと考える。

(6) 学校関係者評価委員会の開催について

学校関係者評価委員会を開催し、教職員の自己評価の報告をさせていただき、その後委員さんからのご意見を頂いた。

校長先生からは「評価委員は園の応援団です。園がよりよくなるため、質の向上のためですので、心配せず、自信をもって園の強みを見せて下さい。」と心強いお言葉を頂いた。

自治区会会長さんや他の委員さんからも、「これからもお手伝いできることがあればいつでも言って下さい。」「園のことを信頼しています。」など、本当にうれしいお言葉を頂きこれからの励みとなった。

【(6) の考察】

「いろいろなことを言われるのではないかと恐る恐る自園の扉を「開く」と、そこには「エールを送ってくださる方々がいた。」ということを実感できた。このことは、自園の教育の在り方が独善的なものに陥らず、独自性を発揮していくために重要であると認識できた。

5 成果と今後

<成果>

- 『初めの一步』から、教職員全員で『できることから』取り組んでいく」をキーワードにしたことで、自己点検、自己評価の項目づくりから始まり、職員間で話し合う機会が増え、園の教育を共有するということの大切さを改めて実感できた。
- 職員が自分の保育を振り返り、改善点をみつけ、目標をもち、実行するという「PDCAサイクル」の実際について学ぶ機会となり、日々の保育の質の向上に努める気持ちが強くなったことが実感できた。
- 今まで行ってこなかった保護者のアンケートは、集計等でとても大変だったが、保育を改めて客観視できたり、親の願いに気付かされたりし、保育の課題として捉えることができた。

<今後>

- 学校関係者評価を活かした自園の取組を推進していくための主任等のリーダーシップの発揮
- 『初めの一步』から、教職員全員で『できることから』取り組んでいく」で更なる職員間交流
- 園の教育の実際を学校関係者評価委員へ広報していくための手だてや工夫

6 終わりに

今後も学校関係者評価を進め、こみね幼稚園の保育の質の向上に努め、保護者の方、そして地域の方々に一層信頼される園でありたいと思っている。

自園の「自己点検・自己評価、学校関係者評価」に対する思いの変化（取組後）

◎10年も前からのこと・・・⇒「ここからでもおそくない はじめのいっぽ」

◎知っていたけれど、しないままで時は過ぎている。⇒「自分なりの工夫で」

◎「今さら!!」「園児数が評価だ」⇒「もちろんそうだ。しかし、数と同じだけ、子どもの思いや親の思いを真摯に受け止めていただろうか 大切にしたいことをチームこみねで」

◎「保護者は信頼している。」⇒「可視化 客観化でさらに信頼を」

Ⅰ年次の成果と考察

教師及び職員間の「対話」による教育実践への振り返りの充実が日常的に行われるようになってきた。学校関係者評価を意味あるものにするためにも、まずは日常の教育実践の実践や質の向上について、「自己評価」を基盤とした教師間における対話の量的拡大を促す時間の確保と場づくりが重要であること。そうした配慮のもとで幼児教育という営みや子供の姿を可視化し、幼稚園全体で組織として振り返ることを可能にしていくことである。

2年次

1 令和2年度 こみね幼稚園の重点目標

「職員一人一人が、自己点検・自己評価を通してよりよい保育を展開し、保育の質の向上に努めることによって、保護者や地域の方々に信頼される園を目指す」

2 取組の内容について

昨年度の取組を参考に、今年度はより深く、自己点検・自己評価を基盤に学校関係者評価について職員間で話し合い、学校関係者評価委員会の開催も年間に位置付け実施していきたいと考えた。

コロナウイルス感染症防止対策による休園や、行事への取組の変更、延期、中止等を余儀なくされる事態となったことで、目標達成のための取組が思うようにいかないことも多かった。

そうした中で、昨年度の取組で継承している「『初めの一步』から、教職員全員で『できることから』取り組んでいく」が生かされたことが、目標達成にせまる一番の取組だったと考える。

3 今年度の取組（昨年度の取組を踏まえ、改善した事柄のみを記す）

- (1) 自己点検・自己評価表の項目の見直し、改善
- (2) 学校関係者評価 年間スケジュールの作成
- (3) 学年会議の時間の確保
- (4) 園全体での会議の確保

4 取組の実際

(1) 自己点検・自己評価表の項目の見直し、改善

評価分類	評価項目(目標・取組)	目標	評価	具体的な方策(工夫)
I 保育の計画性	教育方針の理解 園の教育理念	園の教育理念や教育方針を理解し、園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる	A B C D	
	環境の構成	安全で生活感のある環境構成をしている(各クラスの特徴を出し、子どもと作り上げる)	A B C D	
II 保育の在り方・幼児への対応	幼児のみと理解	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしたりしている	A B C D	
	指導とのかかわり	「遊びの援助者として」子どもの発達を理解し、その子に応じたかかわりをする。	A B C D	
	目標が達成されているか次につなげていく	「あこがれを形成するモデルとして」教師らしい品位のある言葉、正しい日本語の用法を心がけている	A B C D	
III 教師としての資質や態度	保育者同士の協力・連携	幼児のことについて常に保育者同士で話し合い、学年全体で情報を共有している	A B C D	
	教師としての能力・自律・進歩	「良徳とマナー」 幼児や保護者との対応には、公平さ	A B C	

「環境の構成」の「評価項目（目標・取組）の文言に、（各クラスの特徴を出し、子どもと作り上げる）を入れた。「子どもと」と明記していくことで、子どもの主体性を引き出す保育の展開を意識するようになった。

一方的に「〇〇させる」保育の展開はないか、自己点検し（振り返り）改善していこうとする保育者の姿勢の表れだと考える。

保育の質の向上に向かう小さな一歩かもしれないが、意味ある実践となった。

(2) 学校関係者評価 年間スケジュールの作成

令和2年度 こみね幼稚園 学校関係者評価に係る年間スケジュール

目安となる月	3月以降	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
評価の成果	評価準備 重点目標 の設定												評価公表
評価資料の精査	評価項目 の検討 設定	園内研修 (中止)				園内研修 (中止)							自己評価 資料分析を 基に研修等 にて全職員 でディスカ ッション 報告書作 成
自己評価	重点的に取り組む 目標設定	— 自己評価 — 重点的な目標等を十分に考慮した保育活動						— 自己評価 — 見直した重点的な目標等を 十分に考慮した教育活動					
学校関係者評価		第1回 評価委員 会 (中止)						第2回 評価委員 会 (運動会終 了後) (中止)					第3回 評価委員 会 (学 期 末)
保護者対象の活動	懇話会 今年度の 方針を話 す (中止)							全学年 アンケート (運動会) (中止)				全学年 アンケート (生活発表 会)	アンケート 集計・分 析・公表 園全体の 評価アン ケート

昨年度、学校関係者評価委員会を立ち上げたことで、3月までに今年度の重点目標を設定した。

『初めの一步』から、教職員全員で『できることから』取り組んでいくにより、4月当初に園内研修を設定し、課題を共有するようにした。

保護者アンケートについても、昨年度の1回から、今年度は2回に設定し、保護者の意識の変容等についても読み取っていくようにした。

◆しかし、結果的に今年度の特異な状況下では中止せざるを得ない事態が多くなった。

(3) 学年会議の時間の確保 (4) 園全体での会議の確保

コロナウィルス感染防止対策をとりながら、子どもの経験を奪うことがないようアイデアを出し合い、学年ごと、クラスごとの生活発表会を実施した。行事を終え、保護者アンケートを行うことができた。



アンケート結果を集計しながら職員間で反省点や良かった点などを話し合うことができ、やりがいを感じたり、これからの目標を見つけたりする姿があった。

同僚と語り合う時間があるということが、保育実践の振り返りとなっていることが読み取れた。

5 本年度のまとめ

今年度は、昨年度の取組を踏まえながらの取組ということで、職員も学校関係者評価のことを理解し進めていくことができた。

また、職員間での対話の時間を増やすことにより、保育の振り返りを充実させ、日常の保育の質の向上になることや、職員のモチベーションが上がること、やりがいを感じ次に生かせることなども実感した。

今後も「園を開く」ということに積極的に取り組み、保護者や地域の方々に信頼される園を目指し努力していきたい。今年度は学校関係者評価委員さんを園にお招きし、保育の実際を見ていただくことがまだできていないが、コロナウィルス感染防止対策を考えながら、学校関係者評価委員会を開催したいと思っている。

(学)谷川学園 こみね幼稚園 園長 谷川 徹治

令和2年度 こみね幼稚園 学校関係者評価に係る年間スケジュール

目安となる月	3月以前	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
評価の流れ	評価準備 重点目標 の設定											評価・公表	
評価体制の構築	評価項目 の検討・設定	園内研修 (中止)				園内研修 (中止)						自己評価 集計分析 を基に研 修会にて 全職員デ ィスカッ ション	まとめ 公表シ ート作 成 報告書 の作 成
自己評価	重点的に取り組む 目標設定		← 自己点検 → 重点的な目標等を十分に考慮した保育活動							←自己評価 → 見直した重点的な目標等を 十分に考慮した教育活動		報告	
学校関係者評価			第1回 評価委員 会 (中止)					第2回 評価委員 会 (運動会 終了後) (中止)					第3回 評価委員 会 (学校関 係者評 価)
保護者対象の活動		総会で 今年度の 方針を話 す (中止)					全学年 アンケート (運動会) (中止)			全学年 アンケート (生活発 表会)	アンケート 集計・分 析・公表	園全体の 評価アン ケート	

令和2年度 こみね幼稚園 自己点検・自己評価項目							
目標を A:十分に達成できる・できた B:ほぼ達成できる・できた C:達成できた D:目標達成までいかなかった						〈 〉歳児 〈 〉組 担任名〈 〉	
評価分類	評価項目(目標・取組)	目標値	具体的な方策(どうすることで)	自己評価	○成果 ◆次年度への改善点(具体的に)		
I 保育の計画性	教育方針の理解 園の教育理念	A B C D	園の教育理念や教育方針を理解し、園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる				
	環境の構成	A B C D	安全で生活感のある環境構成をしている(各クラスの特徴を出し、子どもと作り上げる)				
II 保育の在り方・ 幼児への対応	幼児のみと理解	A B C D	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしたりしている				
	指導とのかかわり	A B C D	[遊びの援助者として] 子どもの発達を理解し、その子に応じたかかわりをする。				
	目標が達成されているか(次につなげていく)	A B C D	[あこがれを形成するモデルとして] 教師らしい品位のある言葉、正しい日本語の用法を心がけている				
III 教師としての資質や能力・良識・適性	専門家としての能力・良識・義務	A B C D	[良識とマナー] 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする				
	IV 保護者への対応	情報の発信と受信	A B C D	個々の子どもの様子は直接話したり、電話、連絡帳などを使って伝えあったりしている			
対応上のマナー・良識		A B C D	園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや会話を心がけている				

2年次

昨年は、「学校関係者評価に繋がる自己点検・自己評価の在り方について考える」という課題を頂き、学校関係者評価に関わるシステムを実質的に運用できるよう構築していくことを重点に置き、改めて基盤作りから検討し、取り組んだ。

昨年の取り組み

- ① 教職員の自己点検・自己評価について
- ② 教職員の自己点検・自己評価の設定と実施
- ③ 学校関係者評価委員の選定と依頼
- ④ 保護者アンケートについての取り組み
- ⑤ 学校関係者評価委員会の開催

副園長がリーダーシップをとり、職員会議を開く時間などを確保し、進めていった。

一年間を通して、園にとってとても有意義な時間になった。

- ・職員間で話し合う時間が増えた
- ・職員が自分の保育を振り返り、改善点を見つけ、目標を持ち実行するという「PDCA」サイクルができてきた
- ・自己点検表に書き込むことで、自分の保育を考えたり、悩んだりする機会となった
- ・自己点検表を見て、共感したり、ほめたりすることで職員のモチベーションが上がり、保育にも良いと感じた。
- ・評価委員さんや保護者からのアンケートにより、保育が認められているという実感ができたり、これからの課題もわかったりとてもよかった。

このようなことから、自己保育肯定感や保育の質の向上に努める意識が高まった。

今年度は、昨年度の取り組みを踏まえ、職員一人一人が、自己点検・自己評価を通してよりよい保育を展開できるように、そして園の保育の質の向上に努め、保護者の方、地域の方々に信頼される園を目指すことを目標とした。

今年度の取り組み

- ① 自己点検・自己評価表の項目の見直し、改善
- ② 職員の自己点検・自己評価の書き込み（目標・対策）
- ③ 学年会議の時間の確保
- ④ 園全体での会議の確保
- ⑤ 保護者アンケート実施
- ⑥ 保護者アンケートの集計

昨年の流れを参考に、今年度はより深く、学校関係者評価について職員間で話し合い

実施していきたいと考えていたが、コロナウイルス感染症による休園や行事の進め方を変更する必要があり、年間スケジュール通りに進まないこともあったが、職員は自己点検表に書き込んだ目標に近づくことができるよう保育を行ってきた。

感染症対策をとりながら、学年ごと、クラスごとの行事を終え、保護者アンケートを行うことができた。

アンケート結果を集計しながら、職員間で反省点や良かった点などを話し合うことができ、やりがいを感じたり、これからの目標を見つけたりする職員もいた。

学校関係者評価委員さんをお招きすることがまだできていないが、コロナウイルス感染症の対策を考えながら、評価委員会を開催したいと思う。

まとめ

今年度は、昨年の取り組みを踏まえながらの取り組みということで、職員も学校関係者評価のことを理解し進めていくことができた。

自己点検・自己評価からはじまり、職員全体で園の質の向上に努めるということの大切さや、地域の方からのご意見をいただく大切さなどがよくわかった。

また、職員間での対話の時間を増やすことにより、保育の振り返りを充実させ、日常の保育の質の向上になることや、職員のモチベーションが上がること、やりがいを感じ次に生かせることなども実感した。

これからも自己点検・自己評価を深め、さらには園内研修や地域や保護者との関わりへの学校関係者評価と進んでいけるように努力していきたい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人谷川学園 こみね幼稚園

1. 本園の教育目標

つよいからだ
やさしい心
豊かな感性

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

本園の教育理念、教育方針のもと、自己点検、自己評価を確実におこない、職員一人一人が、自己点検・自己評価を通してよりよい保育を展開できるように、そして園の保育の質の向上に努め、保護者の方、地域の方々に信頼される園を目標とした。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
保育の計画性	A	園の教育理念を理解し、各クラスの特徴を出しながら園の目指す子どもの姿を作る
保育の在り方	B	幼児からのサインを受け止め、その子に応じた対応を行う 保育者同士で話し合い、学年全体で情報を共有する
幼児への対応	A	子どもの発達を理解し、その子の応じたかかわり方を行う
保護者への対応	A	園のすべての保護者に対し、親しみを込めた挨拶をおこなう 個々のこどもの対応は、こまめに行うようにする

評価 A: 達成している B: 一部達成している C: 一部改善を要する D: 改善を要する

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A: 達成している B: 一部達成している C: 一部改善を要する D: 改善を要する

評価	理由
B	自己点検、自己評価を行うことで、自分の保育を振り返り、考え、悩むことにより、次への保育とつながった。保護者アンケートで保育が認められることにより、保育者の自己保育肯定感や保育の質の向上が認められ、その重要性にも気づくことができた。保育者同士が連携をとる為の時間の確保が難しいことがあったため、時間の確保ができるように努めたい。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
自己点検・自己評価	内容を深め、保護者の質の向上を高めることのできるようにする
保育者同士の連携	学年で連携を取りやすくするため、会議の時間の確保をする。
地域、保護者との連携	地域や保護者の方々から認められる園を目指すため、えんだよりなどのお便りを外部へ向けて発信できるように検討する
安全管理	コロナウイルス感染症対策など、園内での衛生管理への対策意識を高める

6. 学校関係者評価委員会の評価

いつ、どの先生に会っても親しみやすい笑顔で挨拶をしてくれ、温かい雰囲気の中で保育をおこなっていただいている。どんな時でも、迅速な対応をしてくれ、こどもたちものびのびと幼稚園に通っているのが良いと思う。現状に満足することなく、進化していく姿勢はすばらしく、これからのこみね幼稚園に期待をしている。来年度もコロナウイルス感染症の予防を行いながら、保育の質の向上を期待している。

委員会実施日 令和3年3月5日

学校関係者評価委員

事例2 教職員の研修が学校関係者評価に与える成果を考える。

学校法人ひかり幼稚園 認定こども園曾根ひかり幼稚園

1年次

【事例1】 フォトラーニングの園内研修で保育の質の向上につながった事例

園内研修を中堅の職員が企画する

写真を使って保育を語る
・対話力
・コミュニケーション能力

保育の質の向上につなげ、職員の自己評価を高めていく

保育の中での写真を通して、子ども達の思いや育つ姿などを感じとりながら自分の保育を語っていく。教師として、対話力を身に付けコミュニケーション能力を上げることで全職員のスキルアップをはかる。それが園全体の保育の質の向上につながっていくと考えた事例。



5月の園内研修の様子～年中担当

研修の進め方

- ① 写真を通して自分の保育を語る
- ② 語りながら、子ども達の育ちを感じ取る
- ③ 保育者の関わり方や環境面の改善などがあれば考察する
- ④ 最後に今回使用した写真に「テーマ」をつける



10月の園内研修の様子～年少担当

《園内研修の目的》

全職員で「自園の良さ」や「自園の課題」を共有しながら、更なる改善に向けた次のステップを組織的に始めるきっかけを作ったり、何よりも対話力を身に付け、コミュニケーション能力を上げる事で全職員のスキルアップをはかっていく事を目的とする。

園内研修は苦しみながらするものではなく、全職員の知恵と工夫と行動力を持って「できる事を・できる時に・できる人から」進めていき、その取り組みによってもたらされる園や職員の変化を楽しみながら取り組んでいけるようにする。

《中堅職員が中心となって園内研修を計画する》

園長や主任に言われてするのではなく、自分たちで学びを作り出していくという意識を持って、中堅職員がテーマ決めから実施計画を担っていった。受け身の研修ではなく、主体的な参加を全職員が持てるようにした。

研修を継続していく事が一番の課題で、教師間で連続的な学びができるようにしていく。また、ラフな雰囲気を作り、お茶を飲みながら「みんなが保育を語る雰囲気作り」にも配慮した。

研修の進行は交替制にし、写真を提示した学年の先生が進めていくようにした。



写真を通して子どもの姿や変化をとらえていく



写真にはその時の表情が表れて心情が推察しやすい

《写真を用いた園内研修を実施する》

ホワイトボードに子ども達の活動している姿や、遊びの展開があれば順序に従って数枚を掲示する。その写真を見ながら子ども達の「心情面」「意欲・思いやり」「思考・認知面」の視点から考えて話していく。自分の言葉で語っていく事が先ずは大切で、聞き手の先生も否定的にとらえずに「なるほど、そうなんだ」という気持ちで受容的に聴く事に徹する。



《子ども理解を深める》

全職員で写真を通して子どもの姿を見る事で、それらの子どもの理解を深め、次に担任でなくてもその子に合った具体的な言葉掛けや関わり方ができるようになる。また、発表した先生も、一面的な理解にとどまらず、より多面的な理解に務めようとする姿勢が育ってくる。

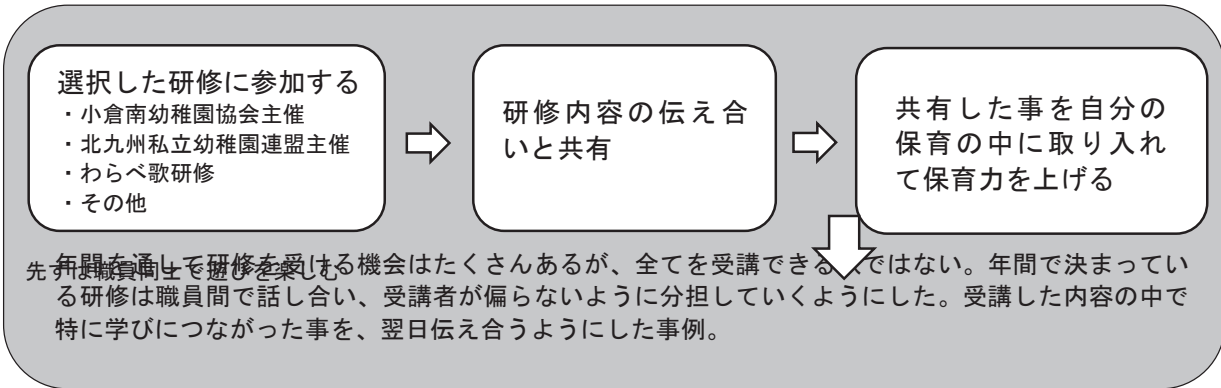
考 察

- ・自らの保育実践の幅を広げるきっかけになると同時に、保育専門職として能力を高めていくきっかけとなったと思われる
- ・一人の先生の語りによって、同僚性や協働性を高め、次への「対話」へとつながっていくことができた。
- ・同じ職場の同僚と語りを共有する事で生まれる「子ども理解」の視点を広げる事ができた。
- ・保育環境をより充実したものとして改善していく意識が育ったと考えられる。

評 価

- ・毎月園内研修を行う事で、より子どもの姿や思いに近づいて深く考えるようになった。その事によって、子どもの成長による変化やのびていきたい部分が見えてきた。
- ・より深く子どもを知ろうとする気持ちが芽生え、子どもに対する理解が高まる。幼児の言葉から感じ取れる思いだけでなく、表情やしぐさから伝わってくる思いや気持ちの大切さに改めて気付かされ、様々な面から感じ取る事を意識するようになり、園内研修が良い影響となっている。
- ・毎日の保育の中でも幼児の成長や育ちに気付いていけるが、写真を通して見る事で、その場面をゆっくり考え気付ける事も多くある。勝手な解釈をしていた事も、他の先生の意見を聞く事で新たな発見につながっていく。そして、その子について職員全員で話し、今後の関わり方について共通理解できた。
- ・幼児の姿に対して、先生はそれぞれ違う見方や意見がある。保育や子どもへの言葉掛けには正解がなく、様々な角度から子ども達を見守る大切さを再確認できた。
- ・自身の自己対話力を身につける事も大切だが、後輩の先生が自分の思いや気持ちを対話しやすくなるように意識する事で、保育や行事の反省会でも園内研修でも、後輩の先生から話を聞くと同時に自分自身は聞く力を身に付けられるように意識する事が大事である。

【事例2】研修内容を共有する事で保育の質の向上につながった事例



小倉南私立幼稚園協会 教師研修会年間予定票

5/21	シャアリングネイチャー	10/16	おもちゃ作り
6/21	特別支援	11/15	軍手人形作り
6/28	わらべうた	11/29	わらべうた
7/4	満3歳児保育	12/3	アンガーマネジメント
9/6	特別支援	1/17	特別支援
9/13	忍者修行	2/21	ヨガ

《研修内容を分担する》

本園が所属している小倉南幼稚園協会は教諭の資質向上の為に研修を年間13回、北九州私立幼稚園連盟主催の研修は年間12回、わらべ歌研修年間12回、と学びの場面がたくさんある。年度当初に、それらの研修を職員間で分担し、全ての研修に園の誰かが参加できるようにした。

北九州幼稚園連盟 研修会計画表

7/22	夏季教師研修大会	11/19	乳幼児研修会
7/26	乳幼児研修会	11/29	ミドルリーダー研修
8/23	子ども園研修	12/3	特別支援研修
9/5	スーパービジョン	2/5	人権研修
10/25	乳幼児研修会	2/10	特別支援研修
11/15	スーパービジョン	3/26	春期教師研修会

《苦手な分野を克服していく》

今まででは研修の選択はつい自分が参加しやすいものを選びがちであった。今年度は、苦手と思う分野や、もう少し学びを深めていくべきものを選択するよう心掛けた。そういう意識を持って研修に参加する事が自身のスキルアップにつながっていくのではないだろうか。つい後回しにしていたものを、今年度はそれらに向き合い、自分の中にとりこむ努力をした。



朝礼後に昨日学んだわらべ歌を伝えている

《研修を受けての学びを伝え合う》

日々の保育や行事の準備などがどうしても優先されてしまい、受けてきた研修内容を報告する場面を持つことがなかなか難しかった。その場面を作る努力もあまりして来なかった事を反省し、研修で学んできた事を「自分だけの学び」に終わらせず、園内で伝え合うようにした。



《自分の保育の引き出しを増やしていく》

伝えてもらった事は保育の知恵の引き出しを増やしていくという気持ちで受け止める。その内容は、保育理論であったり、特別分野のものであったり、実践的な内容だったりする。それらの新たな学びとなった引き出しを、自分の保育の中で活かしていけるように心掛けていく。



子ども達の笑顔が何よりの宝物

《自分の保育の中で活かしていく》

増えた保育の引き出しの中身を自分の保育の中で実践してみる。実践してみた事で子ども達の中で変化があったか、その変化をていねいに受け止めて、良かった事をまた職員に伝え合うようにする。実践の中で自分なりの工夫があれば、そのワンポイントも伝えてみる。保育者自身の変化もとらえ、うまくいった事を喜べるようにする。

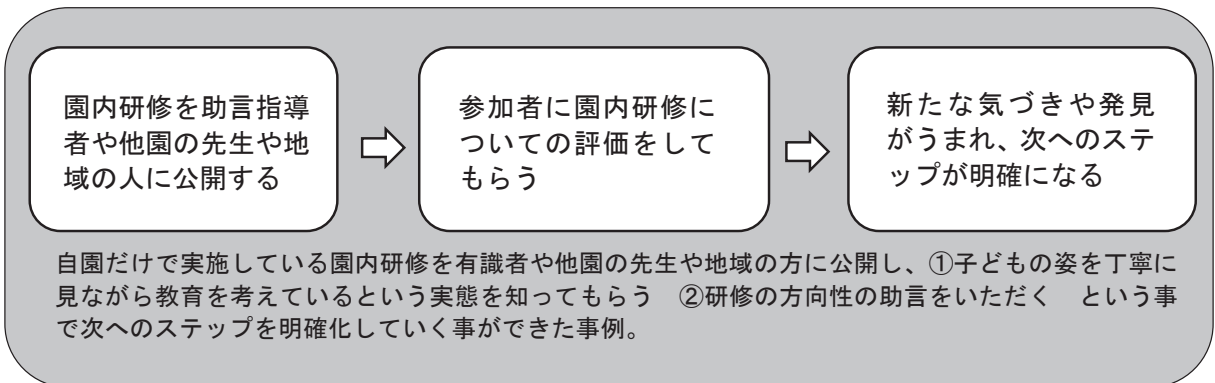
考 察

- ・ 研修内容を伝え合っていくという事で、「これは職員間で共通理解しておいた方がいいだろう」と思う内容を丁寧に研修の中で聞き取ってこようとする姿勢が生まれてきた。そして、それを伝え合う事で、園の職員が同じ意識を持つ事ができるようになる。わらべうたなどの実践的なものは、その季節に合った内容のものをタイムリーに指導でき、どのクラスでもその歌と遊びが繰り広げられていくという事で園全体の共通した保育がうまれる。
- ・ 保育に関する引き出しを増やしていくという意識を持つ事で、自分の保育の質や幅を広げていくことができた。

評 価

- ・ 日々の保育の忙しさに追われて、なかなか伝え合う事ができなかったが、自分の受けた研修の中で一番心に残った事を一つ伝える」という事で、研修の報告会ではなく、「伝え合う」という意識に変えることでその時間を持つ事ができた。
- ・ わらべうたなどの実践的なものは、「とりあえずやってみよう」という意識を持ち、そこで得た保育の引き出しを活用するようになってきた。その事で、どのクラスでも同じわらべ歌遊びが展開され、園庭などで他学年で共通した遊びをする姿が見られるようになった。遊びを実践してみると、学年によるちょっとした工夫がうまれてくる。それをまた伝えていくという良い循環ができてきた。
- ・ 職員間の協働的な保育がすすむと、今まで以上に「園全体で子どもを受け止めて保育していく」という環境が作られていく。それは職員も子どもも保護者も安心感が持てる場所となる。

【事例3】園内研修の様子を公開し、次につながる新たな気づきや発見を得た事例



4時半から園内研修開始

今回の参観者

- ・古賀先生
- ・むつみ幼稚園園長
- ・ひかり保育園主任
- ・神理幼稚園主任
- ・星和台幼稚園主任

《園内研修を公開する》

自園で進めている今年度の園内研修は「フォトラーニング」である。写真を撮った先生がその写真を通して、自分の保育を語っていくという内容だが、果たして現状の進め方で良いのか、又、協議し合う内容が適しているのか、などの評価をしてもらう。

研修を公開する事で、助言指導者や地域の保育者や地域の人と共に保育をより広く一緒に考えていきたい。又、曾根ひかり幼稚園が子ども一人ひとりの思いに寄り添って、丁寧に関わっていく努力をしている事を伝えていく事も大切だと考える。

また、連携していく中で互いの思いを受け止めたり、助言し合ったりしながら地域の保育の質の向上を一緒にはかっていけるようにしていく。



指導助言者の古賀先生から助言を頂く

《公開した園内研修について助言を頂く》

園内研修は約30～40分。進め方や職員間での話し合いの仕方などを一通り見学してもらい、その後、助言・アドバイスを頂くようにする。

それぞれの立場から視点を変えて研修内容を見てくれるので、現状のマンネリ化から脱却できる。また、良い所は認めてもらう事で、自信を持って前に進む事もできる。

助言してもらう事で新たな課題がうまれてくる。それらを職員が共有する事により、園内研修が実りあるものとなる。





年少クラスの園外保育の後の遊びの一場面

《助言してもらった事を次へのステップとする》

助言内容を真摯に受け止め、それを共有して次年度の園内研修の計画を立てていく。評価の実施が園としての集団の育ちにつながっていく。良いと評価してもらった所は自信を持って進めていく事ができるし、課題点をどう克服していくのか、研修を通しての学びを次にどう活かしていくのかを全員で考える事がさらなる保育の質の向上につながっていく。

《公開園内研修での感想や助言内容》

- ・園内研修を継続させるには30分位が良いかもしれないが、1枚の写真でももっともっと突っ込んで語り合っても良いのではないかと感じた。
- ・同じ遊びを継続する事は年少児にはまだ難しいが、遊びは変わっても心の育ちはつながっていく。
- ・子どもの育ちを共有して同じような心の芽が出た時には、園の先生達と一緒に声を掛けてあげることができる。今日の子どもの情報の共有で、どの先生も明日子どもと接する事ができる。
- ・自分の意見が言えるのは園内研修の積み重ねだと感じる。職員間で意見の言える雰囲気作りができています。
自園ではどうしてもベテランの先生が中心となって話が進んでしまいがちである。
- ・自園でもおとなしい先生や静かな先生にも語れるタイミングを作ってあげる必要性を感じた。

考 察

- ・園内研修を公開する事は、保育と一緒に考える良い機会だと思われる。お互いの園同士で刺激し合いながら良い面を伸ばしていけるだろう。相乗効果で園同士の保育の質が高まっていくと思われる。
- ・近隣園なので、園のある程度の情報を知った上で助言してもらえる。
- ・自園の中だけの園内研修では、間違っているとまでは言わなくてもズレている事に気が付きにくい。自園の中だけの自己満足に終わっている事もあるのではないか。そういう面を有識者や他園の先生に客観的に見てもらって助言してもらう事で方向性を修正する事ができる。また、良い所を認めてもらう事で、その部分では自信を持ってこれからも継続していく力となる。

評 価

- ・今回は公開の幅をもう少し広げて、養成校の先生・子ども園課の担当者・近隣の住民などを招いて実施する事で、より専門的な学びができたり、地域に密着した意見を受ける事が可能になってくる。地域の中での幼稚園として保育の質の向上をはかることができる。
- ・自園の学びを公開する事で、「子どもの理解」をさらに深めていこうという意識が育ち、今後の園内研修の大切さを感じ取る事ができた。
- ・他の園との同僚性を高め、互いに育ち合える関係ができるようにすることが、今度の課題である。

令和元年度の研究成果

教職員が受けた研修を伝えて共有し合う日々の保育を職員間で振り返る

「対話」の中で

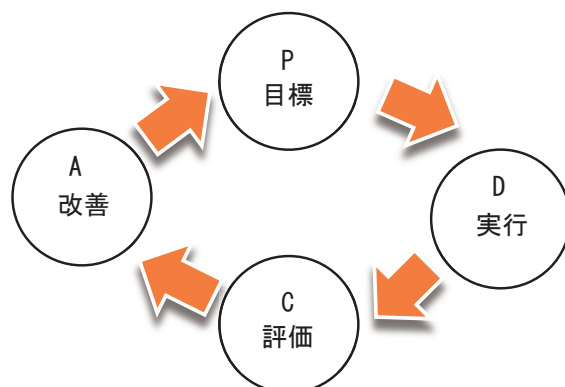
- 子どもの姿の変化や自分の保育の捉え直し
- 同僚性の中で、「より良い保育」に向けて取り組む関係
- 子ども達をより多角的な視点から考察
- 職員間で幼児の変化を感じ取り、次への課題

園内研修の公開

曾根ひかり幼稚園が外に開かれた公教育の一端を担っているという意識

次年度の研究に向けての課題

- ① 伝え合った研修内容や、園内研修で主体的に対話的な深い学びをしていく。そして学び得たものが自分の保育現場で活かされているかを確認していく。
- ② 「PDCA サイクル」を職員が理解し、実現化していき、子ども理解を深めていく。そして、子どもの変化・自分の保育の変化を感じ取っていく。



- ③ 園内研修を前年度より多方面に向かって公開し、さらに教職員の幼児教育の専門性を高めていく

Ⅰ 年次の成果と考察

その場で得られた「成果」を共有することの必要性が大切である。ここでいう「成果」とは、対話や日常的な「記録」によってもたらされた「教育実践」の変化とそれに伴う子供・環境・保護者さらには地域の変化なども意味する。こうした具体的な変化に(変化しなかった場合も含め)自覚的になり、同僚間をはじめ保護者とも共有する仕組みや取組が必要と思われる。その際、全園の「共通語」となる『幼児理解に基づいた評価』(2019)において示された評価観を踏まえつつ、『幼稚園教育要領』や各園の『保育理念』等に示された内容をもとに「成果」の検証を図っていくという姿勢が重要となる。

《研究課題のとらえ方》

- ① 外部研修で学んできた事を「研修報告会」という堅苦しい形ではなく、研修の中で特に心に残った事や全職員で共通理解をしておいた方が良いと思われる事を一つで良いので気軽に「伝え合う」ようにして、研修で学んだことの共有化を図り、保育者としてのスキルアップをはかる。
- ② 毎月園内で実施する園内研修のフォトラーニングを通して、同僚性の中で教師間の対話力を身に付けながら、全職員で幼児の姿をていねいに掘り下げ、幼児理解を深めていく。
- ③ 本園の園内研修を地域や他の園の先生に公開し、新たな学びを得たり共に育ち合う関係性を作ったりして、評価項目の透明性や客観性を担保する努力をする。

《令和元年度の研究成果》

- ① 研修内容を全職員で共有し合う事で共通した教育の理念が深まり、また実践的な保育の引き出しが増えたりして、同僚性の中でスキルアップしていく事ができた。
- ② フォトラーニングを通して、職員間での「対話」がたくさん生まれた。経験年数に関係なく、新卒の先生でも、経験年数が多い先生でも、感じた事や子どもの変化を互いに伝えられるようになってきた。
対話を通じての学び合いの中で、子どもの姿や自分の保育の捉え直しができ、これを毎月の園内研修で積み重ねていく中で、子どもたちをより多角的な視点から考察していく事ができるようになった。そして、職員間で、子どもの変化を感じ取り、次への課題を見いだす事へとつながった。同僚性の中で「より良い保育」に向けて取り組む関係の形成が
- ③ 研修の様子を公開した事で、曾根ひかり幼稚園が外に開かれた公教育の一端を担っているのだという意識を職員間で持つ事ができた。さらにコーディネーターに助言を頂く事で、園内研修のあり方に自信を持ち、新たな次への課題や方向性が見えてきた。

《令和2年度の研究課題》

- ① 伝え合った研修内容や園内研修で主体的で対話的な学びを継続していく。そして、学び得たものが自分の保育の中で活かされているかを確認していく。
- ② PDCA サイクルを職員が理解して園内研修を通して実現化していき、さらに子ども理解を深めていく。その中で子どもの変化や自分の保育の変化を感じ取っていく。
- ③ 園内研修を前年度より多方面に向けて公開し（養成校の先生・地域の人など）、曾根ひかり幼稚園の教育を地域の中に発信していく。又、他園の先生達にも公開することで、共に育ち合う関係性を創っていく。



《令和2年度の研究成果》

- ① 今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の為に、研修はほとんどがリモート研修となり、研修会場にわざわざ出向いて行かなくても園内で研修を受けられるようになったので、多くの職員が研修を試聴する事ができたのはありがたかった。お互いに伝え合う機会を持たなくても研修の学びを共有化できた。
- ② 今年度から本園は認定こども園になり、経験年数3年以上の職員が分野別リーダー研修を受けようになったので、その中で学んだものを伝えるようにした。職員はそれぞれ自分が得意とする学びを深めたい分野で受講しており、さらに専門的な知識や能力が高められた上に、伝えるというマネジメント力が上がった。
- ③ 昨年度の園内研修のようにフォトラーニングを発表して終わりにするのではなく、職員間で「次はどうしたら良いだろう」と課題を見出し、発表者はその課題にチャレンジして、次の研修に持ち寄るという「実行⇒評価⇒改善⇒目標」を実現化してきた。このPDCAサイクルを園内研修で職員間で考えていく事で、若手の職員も子どもの見方・考え方・保育の進め方・改善策を多角的に学ぶ事ができた。又、発表者はそれぞれの意見を聞く事で、自分では気付かなかった部分の幼児理解が深まり、援助や助言の仕方の新たな方法を知る事ができた。次の保育にどうつなげるか、そしてやってみた成果がどうだったかを職員間で共有する事で、より子どもの気持ちに寄り添ったいい保育ができるようになった。
- ④ 本園の園内研修会を地域や近隣の園へ公開し、参加を頂きながら客観的な助言をもらう機会を数回予定していたが、コロナ禍の中で感染予防の観点から実施する事ができなかったことは残念であった。

《本事業の取り組みで得られた変化》

- この2年間の研究の中で大きく変化したところは、保育者自身が自分の保育を自分なりに語れるようになったという事である。今まで、自分のクラスの子どもは自分で育てていくのだから、問題点も担任自身で考え解決しながら保育していかなければ、という思いが強い傾向にあった。しかし、職員間で意見を出し合う事で、違う視点での新たな方向性を見出し、次への目標や課題を持てるようになった。これを繰り返していく中で、自分のクラス以外の全ての子どもを全職員で育てていくのだという意識が高まった。そしてその変化を通して子どもも保護者も安心感が持てる園作りがすすめられたことになった。
- 地域の幼稚園や評価委員を園内研修会に招待して意見を聞けることで、思わぬ自園の良さに気付いたり励ましをもらったりした。また、本園の教育目標や研究課題について、アドバイザーが本園を訪問して保育参観して指導を受ける機会を今回頂いた。幼稚園教育要領に沿いながら本園の保育について具体的に指導頂く機会は、公教育としての私立幼稚園の意義について学ぶ良い機会だった。
- うまくいかなかった時も、何気ない場面でも職員間で対話することができるようになり解決の糸口を見つけたりして、保育者としての自信を取り戻す事もできた。自分の保育を振り返って問い直す中で、自分の保育の良さにも気付けるようになった。
- 先輩の先生が自分の考えを言う前に、後輩の先生の話をしっかり受け止めようという関係性ができ、相手の意見を否定するのではなく「一緒に考えていこう」という語り合う風土が生まれ出されてきた。
- PDCAサイクルを研修の中で取り入れながら考える事で、今まで以上にこどもの内面の育ちを考え、学びを保証した保育をすすめられるようになった。子どもの見方の変化が、教育の質の向上にもつながっていくのだと感じる。

(学) ひかり学園 認定こども園曾根ひかり幼稚園 園長 篠原 美登里

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人 ひかり学園

認定こども園 曾根ひかり幼稚園

1. 本園の教育目標

教育基本法等の幼稚園教育に関わる根拠を踏まえ、仏教（浄土真宗）の教えを心のよりどころとし、次のような幼児像を求めることで、心身ともに調和のとれた健全な幼児を育成する。

- ・ 明るい子…人と仲良しくし、誰とでも遊べる子
- ・ 強い子…はきはきと自分の考えを言える子
- ・ たくましい子…衛生的で健康な子

2. 本年度の重点的に取り組む目標

- ① 認定こども園という新しい組織の中での職員間の協力体制をつくる
- ② 教育の質の向上をはかる
- ③ 新しい園舎での安全管理を行い、「安心・安全」を守る
- ④ 地域に本園の保育・教育を伝えていく

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

評価項目	評価	取り組み状況・結果
職員間の協力体制をつくる	B	認定こども園になって職員の人数が増えたので、各カテゴリー（学年・正規・パート・担当など）で話し合いをしていき、共通理解をしていくように進める事ができた。また、職員共通で見る「連絡ノート」を作成して書面化する事で、保育の事や職員の動きなどの共通理解ができるようになった。
教育の質の向上をはかる	A	園内研修ではいろいろな事例を聞き、職員一人ひとりが自身の考えを持ったり、他の先生の意見を聞く事ができるので、保育者としての引き出しを増やす事ができた。また、子どもの見方や捉え方が変わって、成長の手伝いを丁寧にしていくという意識がどの保育者にも育ってきた。
安全管理を行う	A	コロナウイルスの予防として健康チェックの徹底であったり、パーティーションを使うなどで、子どもも感染予防の対応を意識する事ができた。 新しい園舎内での危険だと予測できる所を、子ども達と共に見つけるという活動を行い、大きなケガや事故の予防ができた。
地域に本園の教育を伝える	C	本年度に関してはコロナ禍の中での園運営だったので、認定こども園となった園の存在は知らせていても、地域との関わりは例年に比べるとほとんどできていない。その代わりに、一番近い保護者に対しては、園の様々な情報を常に発信し続けられたと思う。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の4つの重点目標の内、①②③はそれぞれ意識して取り組むことができたが、④についてはコロナ禍で地域とのつながりをもったり、園の広報をしていくことがほとんどできなかった。 ・ 今年度の一番大きな変化は、園内研修を通して計画⇒実施⇒評価⇒改善のPDCAサイクルの理解を全職員で深め、日々の保育の中で小さなPDCAサイクルを実行していきことができるようになってきた。この事で、子ども一人ひとりに対する見方や援助の仕方がより子どもに寄り添ったものとなり、職員の保育の質を上げることができたのではないかと思われる。 ・ この2年間の研究の中で大きく変化したところは、保育者自身が自分の保育を自分なりに語るようになったという事である。今まで、自分のクラスの子どもは自分で育てていくのだから、問題点も担任自身で考え解決しながら保育していかなければ、という思いが強かった。しかし、職員間で意見を出し合う事で違う視点での新たな方向性を見出し、次への目標や課題を持てるようになった。これを繰り返していく中で、自分のクラス以外の全ての子どもを全職員で育てていくのだという意識が高まった。そしてその変化が子どもも保護者も安心感が持てる園作りがすすめられたことになった。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
職員間の協力体制をつくる	認定こども園になっての初年度は、未満児クラスと以上児クラスとの連携がうまくいかないところも多々あった。22 は園長とそれぞれの主任とが話し合いを定期的にを行い、共通理解をはかって職員に伝えていくようにする。また、正規職員とパート職員が互いの仕事内容を理解し、役割分担がスムーズにいくようにする。
研修を伝え合い、職員間で保育の質の向上をはかる	研修の伝え合いや園内研修によって、保育の質が上がっていく事が自園の2年前からの研究で実証された。子ども達のより良い保育・教育をすすめるためには、保育の質の向上は必須である。今まで以上に「伝え合う事」「保育を語り合う事」を充実させていく。
地域に本園の教育を伝える	今年度はコロナウイルス感染症対策で、地域との連携がとりにくかった。ホームページは毎日トップページを更新し続けたが、園の前を通る地域に人達にも園の様子が伝えられるように掲示板等を設置し、広報していくようにする。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・コロナの影響でほとんど親が参加できる行事ができず、悔いの残る1年となった。しかし、行事は少なかったものの、たくさんの規制の中、何度も職員会議を重ねて「子どもの為に」と計画を実行していたので、内容の濃い1年だったと思う。
- ・子どもの事を一番に考えてくれる幼稚園である事を評価したい。
- ・ホームページの毎日の更新は、親にとっては見えない園生活を確認できてとても嬉しいし、楽しそうな子ども達の姿を見ると安心する。

学校関係者評価委員（曾根市民センター館長）

学校関係者評価委員（小倉南交通安全協会役員）

学校関係者評価委員（中曾根自治会会長）

学校関係者評価委員（保護者会 前年度会長）

学校関係者評価委員（保護者会 今年度会長）

委員会実施日 令和3年2月19日

事例3. 保護者や地域とのかかわりの中で学校関係者評価を考える。

(学)聖ヨゼフ学園認定こども園聖ヨゼフ幼稚園

【研究の目的】

本園は、北九州市西部に位置する閑静な市街地にあるキリスト教を基盤に置いて教育活動を推進している。

平成30年度より幼稚園型認定こども園に移行した。

学校関係者評価は、点数をつけておこなうものでもなくましてや園毎のランク付けに使われるものでもない。子供たちが健やかな成長をむする場所として、その園が努力していることを保護者や地域の方々に広く理解していただくための方法であるにとらえている。本園が大切にしている独自性・見学の精神を大切にしつつ、公教育を推進している場所として地域に発信しないといけない。

しかしながら、本園は市街地にある小高い丘の上にあり、立地的になかなか地域へ具体的に発信しにくい場所にあたり、今までの活動の中で地域との交流にねらいをおいた活動がなかなか実践できていなかった。

そこで、本視点を設定して保護者や地域の方々との積極的な交流を通して、保育内容の客観性・透明性をどう構築していくかということの研究し、保育の質の向上につなげたい。

【地域の状況】

近隣のおもな施設

- ・ 一宮神社
- ・ 青山市民センター
- ・ 青山小学校（小学校交流会）
- ・ 熊西中学校
（市指定災害時避難場所）
- ・ 八幡西警察署
- ・ 八幡西郵便局
- ・ スーパーや飲食店 など



クラス編成と 職員体制

2020年6月現在

○クラス編成○

	ふじ	ばら	ゆり	もも	ひまわり
年長	10	11	9	10	
年中	9	9	9	9	
年少	9	9	10	10	
1・2 歳児					14
計	28	28	28	29	14

○職員体制○

	常勤	非常勤	全員数
園長	1		1
副園長	1		1
主任	2		2
クラス 担任	7		7
フリー	4	4	8
事務員	1		1
園務員		1	1
バス運転手		派遣2	2
調理員		派遣4	4
計	16	11	27

おもな年間行事

- 4月 始業式 入園日 クラス懇談会
- 5月 1・2年生同窓会 親子遠足
- 6月 内科検診 歯科検診 保育参観
人形劇観覧 小学校交流会
- 7月 個人面談 終業式
夏休み(1号認定児)
- 8月 始業式
- 9月 運動会
- 10月 お泊り保育 いもほり
ヨゼフランド[作品展・バザー]
- 11月 七五三 小学校交流会
- 12月 生活発表会 クリスマス会 終業式
冬休み(1号認定児)
- 1月 始業式 保育参観
- 2月 クラスドッチ(年長児)
小学校交流会 個人面接 お別れ遠足
- 3月 お別れ会 卒園式 修了式
春休み(1号認定児)

- ・身体測定、避難訓練、お弁当の日[毎月]
- ・体操教室、音楽教室、宗教教育は外部講師
による指導を隔月で行っています。



テーマ設定の理由

本園はかつて“お山の幼稚園”と呼ばれていたように、皇后崎公園という大きな公園の広い敷地に取り囲まれた自然豊かな小高い場所位置している。園が住宅地域から少し離れており、加えて自然環境が豊かであることもあり、積極的に園を取り巻く地域へ足を運ぶことがなくとも困ることなく過ごしてきた。また本園がカトリック修道会の付属幼稚園で系列の老人ホームとの交流があり、交流についても地域との関わりを意識することがあまりなかった。

平成30年度に認定こども園に移行することが決まり、園舎建て替えの際には山を下り、約8ヶ月間近く住宅地での仮園舎生活を行うこととなった。保育環境が変化したことにより、新たな育ちをした子どもたちの姿から、子どもがより健やかに成長していくためには、地域とのかかわりが重要であることが分かった。しかし、新園舎に戻ってきてからは、マンション建設、道路拡幅工事、大規模な公園改修など幼稚園を取り巻く環境は子どもたちの安全に十分でなく、園外に出かけるリスクを考えるうちにまた地域交流が遠のき、結局は園舎と遊歩道でつながる公園に出かけるくらいになってしまった。

そのような折、学校関係者評価支援事業のモデル園となり、『保護者や地域との関わりの中で学校関係者評価を考える』というテーマで保育に取り組むこととなり、「地域交流」を意識したカリキュラム・マネジメントを行う機会を得た。取り組みの中で、子どもの主体的な活動を保障することと“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”を意識すると、子どもの育ちが学びの姿としてあらわれ、その姿から子どもと共に育つ保育者について改めて考えてみることにした。

そのために、職員が一丸となり園全体で取り組むこと、すなわち職員間の共有が必要不可欠であることを理解しつつも、認定こども園に移行して2年目にあたり、職員会が以前より少なくなったことはもちろん、全員が集うことでさえままならなくなった現状の中、職員全体がどのように共有していくかが大きな課題となった。中堅の職員が増えたとはいえ、新卒職員3名を含む縦割り構成の職員がワンチームになるための“共有“にどう取り組んでいくかを検討の目的に加えて考えていく。

取り組みの手掛かりと方法

- 幼児教育アドバイザー古賀 和子先生の指導を受けながら計画をたてた

研究1 地域交流の取り組みから

1. 地域交流の実践
2. 自己点検自己評価表の実践（資料として保護者アンケート）
3. 学校関係者評価委員の評価・公表

研究2 職員間の共有

1. 視覚的言語化の取り組み
2. 言葉による伝え合い

		取り組み	活動	園の行事（保護者参加）	学校関係者評価
STEP 1	9月5日	園の存在（取り組み）を知ってもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会やバザーなどのお知らせ ・避難訓練や運動会練習時間を前もって知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 ・ヨゼフランド（作品展・バザー） 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展について評価
STEP 2	11月5日	地域の施設との交流を試みる	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便局に行こう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会 ・年長児クリスマス会の折り懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会について評価
STEP 3	1月5日	各クラスごとに地域交流を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・一宮神社にお詣り ・老人ホーム訪問 ・教会でお祈り ・みんなのSDGs 公園でゴミ拾い作戦など 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観 ・全園児個人面接 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート実施（年長児）
STEP 4	2月	カリキュラム編成 自己点検重点項目の見直し、選定			<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート実施（全園児）
					<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・自己評価 ・学校関係者評価委員会開催 ・令和元年度 学校関係者評価シート作成・公表

令和元年度 聖ヨゼフ幼稚園 学校関係者評価 年間スケジュール

目安となる月	3月以前	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
評価の流れ						評価の準備 重点目標等の 設定			教育活動の実 践・見直し			評価・公表	
評価体制の構築								委員会設置	評価項目の検 討・設定			自己評価を 基に研修会 職員でディ スカッション 実施	まとめ・公表 シート作成 報告書作成 公表
自己評価						重点的に取り 組む目標設定	重点的な目標を十分考慮した教育活動			見直しした重点的な目標など を十分考慮 した教育活動			報告
学校関係者 評価								作品展につ いて評価 (文書に て)		発表会につ いて評価 (文書にて)		第1回(学 校関係者評 価委員)	
保護者対象 の活動										年長組 アンケート 実施	年中・年少 アンケート 実施		
設置者による 支援・改善										年長組 アンケート 実施	年中・年少 アンケート 実施		評議員会にて 意見発表
その他								作品展		生活発表会			

〈研究Ⅰ. 地域交流の取り組みから〉

Ⅰ. 地域交流の実践

八幡西郵便局へ行こう！ ～勤労感謝の日にありがとうを伝えよう！～



はがきを書く



切手を貼る



グループ決め会議



役割分担を決める



郵便局へ到着！



言葉を伝える・手紙を預ける



ドキュメンテーションと
クリスマスプレゼントを渡す

『郵便局へ行こう！』 捉え直し 子どもたちの変化

- ・自分たちで意見を出し合う積極性
- ・感謝の気持ちを伝えようとする
- ・言葉で表現する喜びを感じる
- ・社会のルールや仕組みに興味をもつ

【感想】

- ・勤労感謝の日についての理解が深まった。保護者にだけでなく、郵便局を訪れ社会でたくさんの方が仕事をして下さっていることを知ることができた。
 - ・郵便局の仕事（切手、配達、ポスト、窓口業務など）について知ることができた。
 - ・交流当初と活動後の郵便局の方の対応が変化した。
 - ①ドキュメンテーションやリースをすぐに飾ってくれた。
 - ②今後の交流についての提案をしてくれた。（絵画の掲示）
- 地域交流を通して一方だけが分け与えるのではなく、互いに分け与えることができたように感じる。

【課題】

- ・年間カリキュラムの中に組み込んでいき、年長児だけでなく園全体の取り組みにしていく。
- ・事業のひとつにするのではなく、どうやって継続していくかを考えていく。
- ・職員全体で地域交流の取り組みについて共有し、取り組んでいけるようにする。

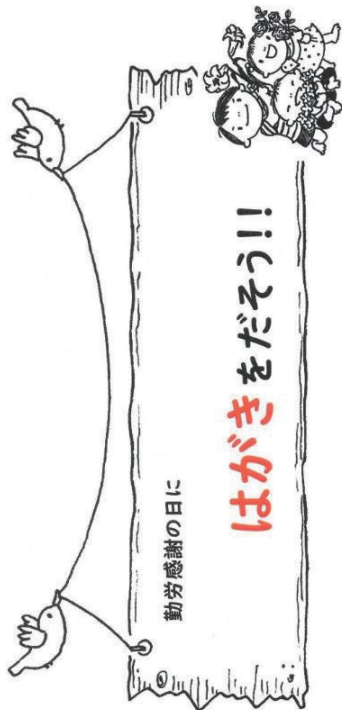
○振り返り会

【成果】

- ・初めて郵便局を訪れた、初めて切手を貼ったなど初めての経験になった子どもが多く、とても貴重な体験となった。また、実際にはがきが家に届き喜ぶ保護者の反応を見て、更に喜びと充実感を味わうことができた。言葉で自分の心を人に伝えられることを実感した。
- ・グループや代表者、お礼の言葉を自分たちで決めることで、話し合いをしたりじゃんけんで決めたりする姿が見られ、折り合いをつけながら友だちと関わることができた。子どもたちの自然な姿を通して、育ちを感じるとともに保育の幅が広がった。

【古賀先生より助言】

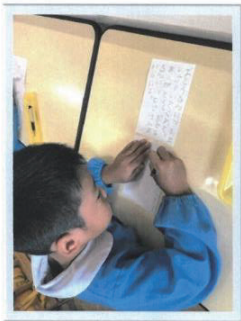
- ・小学校につながる体験を通した学びができた。
- ・まわりとの関わりを通して、子どもの学びや育ちがいたるところにあった。
- ・活動を通して、職員の子どもの見方や関わり方が変わった。保育の質の向上につながる。
- ・幼児期に育てて欲しい10の姿をいつも頭に入れ保育を行う。
活動の経過の記録（子どもの言葉や職員の関わり、それによる子どもの変化など）をきちんと取り、その10の姿がどんな風にあらわれているのかを振り返り保育に生かしていく。また、それを保護者に伝えることで幼稚園理解につなげる。
- ・活動の見直しと位置づけを行うことで、子どもたちの発達に必要な体験ができていないか、どんなところが育まれているのかを確かに見ていく。
- ・活動中の子どもたちの言葉や行動を観察することで、この発達をしっかりと見る。



家族のために、毎日お仕事を頑張ってくれるお父さん、洗濯・お料理…おうちのことをなんでもしてくれ
るお母さん。そんなお父さんやお母さんに内緒で「ありがとう」のはがきを一生懸命書きました！

はがきは、八幡西郵便局さんで買った切手を貼って投函します。子どもたちは、はがきが届く勤労感謝の
日が待ち遠しくて仕方ありません。わくわくドキドキでいっぱいです！また、子どもたちはこの活動を通
して、おうちの人だけでなく、社会ではたくさんの方がお仕事をしてくださっていることも知ることが
できました。はがきを投函するまでの子どもたちの楽しそうな様子をご紹介します。子どもたちに快く
ご協力頂き、本当にありがとうございます。 認定こども園 聖ヨゼフ幼稚園

①はがきを書く！



はがきは一度下書きをして、
消書きをしました。
丁寧に心を込めて書きました！

②切手を貼ろう！



自分たちで買いに行った63円切手を一枚ずつ切り離します。
やぶれないように慎重に…
切手の裏に水をつけるとペタペタするのを初めて知った子どもたち。
本物の切手を貼るのも初めて！と緊張気味で切手を貼りました。



③投函に行くグループを決めよう！

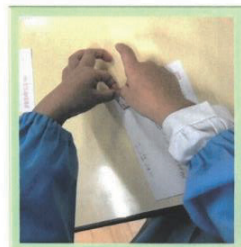
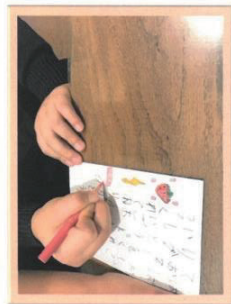


〇〇〇グループが
いいひと〜？
はいっ！ はい！！

お誕生日で
グループ分けしよう！

いや、血運加で
分けたらどう？

30分に渡る話し合いの末、郵便局に投函に行くグループは
＜なりたいたいものと同じ人＞のグループで分かれることに決定しま
した！他にも好きなケーキが同じ人でも分かれる、など
なかなか楽しい話し合いになった年長の子どもたち38名です。



はあ〜
ドキドキするっ！



郵便局に行くぞ！



エイ！ エイ！
オ-----！！

三学期の地域交流の取り組み



一宮神社



黒崎教会



聖ヨゼフの園老人ホーム



皇后崎公園のごみ拾い

<ばら組SDGs清掃活動>

子どもたちにプラスチックのごみ問題について伝えると、子どもたちからも「そのニュース知ってる」「お魚がそのごみを食べてぼくたちも食べられなくなっちゃう」など子どもたちの方からニュースについての意見が出た。教師からSDGsについて話をし、その中に17の目標があり、一つずつのマークに子どもたちが興味を持ち始め、SDGsの中で子どもたちが出来る出来ないかを話し合い、「ごみ拾いに行きたい」という声が上がった。そして園の隣にある皇后崎公園のごみ拾いに行くことになった。

子どもたちから出たごみ拾いに行くために必要な物…

- ・ごみ袋がいる
- ・手が汚れたらいけないから軍手が必要
- ・小さいごみや危険なごみを拾う時は掴むものがある

など、準備を進めていくうちに子どもたちの方から意見が出てくるようになった

グループ分けの時にも、上靴のつま先の色でグループを決め女の子だけのグループが出来たり、年長児が一人に対して年少児が大勢など様々なグループが出来たが、下の子のお世話をし「ここにごみがあるよ」と教えてあげることで、年長児が主体となって活動していく姿に子どもたちの変化が見られた。

当日はごみ拾いが楽しいという意見や、ごみが多く落ちていることに気が付き「ここ、ごみ公園だね。」という意見が出た。

後片付けも子どもたちで行い、トングを洗ったり、軍手を洗濯機に回して干したりなどした。また、子どもたちからは“遊びに行くときはごみ袋を持っていく”“ごみはごみ箱に捨てる”“海のごみ拾いに行きたい”など次の目標が出来た。子どもと一緒に楽しめたことや町づくりが出来たことがまた一歩踏み出せたと思う。

自分自身の保育への勇気にも繋がり、保護者の方にも活動をすることを事前に知らせることで準備をして下さったり、ドキュメンテーションを渡したら、ヨゼフノートというやり取りをするノートに、

- ・子どもたちが話していることが良くわかった
- ・SDGsのことについて子どもと家庭でも話し合ってみた

などの意見を頂けた。

幼稚園で活動した事を、ドキュメンテーションを使い一歩を踏み出し発信したことでこんなにも、家庭や地域に広がった事を実感出来た。

ドキュメンテーション

ばら組 SDGs 清掃活動

2020年2月5日 皇后崎公園

2学期にプラスチックのごみで海が汚れているという話をばら組で話したときに「そのニュース知ってる！」という声があがりました。その話から「SDGs」のことを知らせると17のマーク(目標)に興味を持ち始めた子どもたち。「みんなでできることはないかな？」と、考えていくうちに「皇后崎公園を綺麗にしよう！」と計画を始めました。グループを決める時も、「上靴の色が同じグループにする」と決まり「軍手があるね」「トンクもある？」「ごみを入れる袋があるね」とどんどん計画を進めていくばら組の子どもたちでした。

2020年2月7日
聖ヨゼフ幼稚園



<着替え・軍手をつけて準備中…>

Cさん・ひよこさんの軍手をつけてあげるAさん、Bさん。グループのメンバーを紹介します。

ゆき…藤、宇都宮、久永、上坂、仰木、島山、佐藤、白石、高野須
いちご…中村、石川、田中、野田、塚本、城原、青原、日井、日曜、山下
あおい…西川、遠藤、松田、高田、大野
あおおに…大内(真)、村上、木村、大内(真)、沖

女の子ばかり、Cさんひよこさんばかりの隔ったグループでしたが、楽しそうでした！



<まだまだいっぱいあるよ>

「SDGs！SDGs！」とオリジナルソングを作って歌う程ごみ拾いを待ち望んでいた子どもたち。「お休みのお友達も行けなくて残念だけど、頑張ろう！」と、話していました。棚り道は、誰も知らない裏山の探検へ！！平尾さんが綺麗にしてくれる畑道(通称：だんだん畑)をロープを使って登り、予定にはない体験もでき、喜んでいました。ここは、またぜひ遊びに来たいと思っています。



<ごみ拾いへ出発～！！！！>

グループ毎にどこから拾うか話して決め、いざ出発！

・たばこの吸い殻は、トンクを使う
・ガラスなど危ない物は先生に知らせる

2つ約束をしましたが……見つけたらすぐに拾う子ども達。こんなにもごみの拾い合い(楽しい！?)をする子どもたちには、感動しました。



急にごみを拾い出したらすみません…

「拾うの楽しい！」「たばこのごみばかり～」
「ここ、ごみ公園やん！！」と沢山の子もたちの声が聞こえました。

誰一人嫌がらずにごみを拾う姿から、1年間過ごしてきた仲間と力を合わせ、目標に向かって自分を惜しみなく使う姿に成長を感じました。私自身も子どもたちと一緒に街づくりの一步を踏み出せたことが貴重な経験となりました。これからもこの経験を広げていきたいと思っています。



<こんなにたくさん集まりました☆>

グループ毎に集めたごみは、大きなごみ袋いっぱいになりました。「重い！」「こんなに捨ててあったん！？」と改めて、ごみの多さを痛感しました。拾ったごみの中で一番多かったのは…… たばこの吸い殻 でした！他にも、プラスチック類(お菓子やパンの袋)、ガラス、ライター 小さな物から大きな物まで集めて拾っていた子どもたちです。「またSDGsのごみ拾いしたい！」「今度はもっと遠いところに行きたい」と早速新しい目標を立てていました。



<片付けも自分たちで…>

Aさんはトンクを洗い、B・Cさんひよこさんは軍手を干しました。「みんなで使う公園が綺麗になって、心が綺麗になった」とお部屋に戻ってからも温かい時間を過ごすことができました。これからは何かとを考えました。

・外で食べる時はビニール袋(ごみ袋)を持っていく！
・ごみ箱がなかったら家に持って帰る！

※当日は急なメール配信にもかかわらず、ご協力頂き、活動を行うことができました。本当にありがとうございました。

地域交流活動を終えて…

研究の考察と今後の課題

成果 (わかったこと)

- ・子どもは園の身近な社会を知りたい
- ・子どもは知らない人との出会い、交わりを楽しみにしている
- ・園が“育てたい子ども”の成長を地域が手伝ってくれる

子どもがより豊かに育つために地域の協力が必要

考察

- ・子どもが喜ぶ姿、変容していく姿を見て充実感や達成感が生まれ、保育のやりがいを感じられるようになった
- ・子どもの要望に応えることで責任感が生まれ、初めての取り組みでも恐れずに保育に取り組んだ結果、保育の幅が広がった
- ・子どもの成長した姿と“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”を関連付けて捉えることが大切だと改めて気づいた
- ・こなす保育ではなく、子どもとともに作り上げていく保育を心がける

課題

- ・一方的ではなく、対話的な共有を行う
- ・子どもの連続した育ちや“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”を意識したカリキュラム編成を行う
- ・経験や年齢による違いを知り、互いに学び合う関係を築いていく

保護者アンケートの実施

様

2019年12月19日
聖ヨゼフ幼稚園

本日は、A組クリスマス会へのご参加ありがとうございました。保育に参加し、聖ヨゼフ幼稚園の教育について感じたこととお聴かせ下さい。皆様からの意見は、今後、教育の質の向上のために生かしていきたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。

○年間目標

- ・今年度の目標である「優しい子どもをめざす子どもたちが、まずは神様だけでなく、家族や先生、友だちに“ありのままの自分”が受け入れられている喜びを実感できるよう環境を準備し、園生活の中で人や自然などを思いやる心を育む。
- ・モンテッソーリ教育の特徴である学び方を具体的に“手を使う”ことで実践し、人格形成の基礎を育てる。

○本日の保育のねらい

- ・イエスキリストの御誕生を心から喜び集った人々と祝う。
- ・クリスマス会の中で惜しみなく自分の体と心を使うことを喜ぶ。

評価内容	とても そう思う	そう 思う	あまり そう思わ ない
1 クリスマス祈りの式では、場に合った心を使う姿が見られましたか？			
2 昼食作りを、友だちと楽しんでいる姿が見られましたか？			
3 話し合いの中で考え合いを言葉で伝えたり、相手の話に耳を傾けたり、言葉による伝え合いを楽しんでいましたか？			
4 共同で使う道具などを待たせたり譲ったり、または準備や片付けなど友達と協力する姿が見られましたか？			

(お子さんからの質問です)

5 今学期の行事についてお子さんが喜んで取り組んでいることが伺えましたか？			
運動会			
お泊まり保育			
ヨゼフランド			
七五三			
郵便局へ行こう！			
生活発表会			

喜んでいただくことが分かるエピソードはありますか？

聖ヨゼフ幼稚園の教育について、意見や感想があればお聴かせ下さい。

組 A・B・C ※〇で囲んで下さい

2020年1月27日
聖ヨゼフ幼稚園

A・B・C組三学期保育参観へのご参加ありがとうございました。保育を参観し、聖ヨゼフ幼稚園の教育について感じたことやお子さんの姿を通して見られた成長などに関してお聴かせ下さい。皆様からの意見は、今後、教育の質の向上のために生かしていきたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。

○園の年間目標

- ・今年度の目標である「優しい子どもをめざす子どもたちが、まずは神様だけでなく、家族や先生、友だちに“ありのままの自分”が受け入れられている喜びを実感できるよう環境を準備し、園生活の中で人や自然などを思いやる心を育む。
- ・モンテッソーリ教育の特徴である学び方を具体的に“手を使う”ことで実践し、人格形成の基礎を育てる。

○参観のねらい

- ・活動の様子や園での友だちとの関わりなどを見てもらい一年の成長を感じてもらおう。
- ・縦割りの環境の中でそれぞれの発達に合った園生活を安心して過ごす。

評価内容	とても そう思う	そう 思う	あまり そう思わ ない
1 自分で自由にお仕事を選び、準備できていましたか？			
2 作業中は、集中している様子が見られましたか？			
3 分からない時、困った時には意思表示をしたり、またすぐに助けを求めず自分で考えようとしていましたか？			
4 準備から片付けまで分かることは一人でやってみようとしていましたか？			
5 保育者は子どもたちとの信頼関係を築けていましたか？			
6 保育者は、子どもたち一人ひとりの育ちに寄り添う姿勢が感じられますか？			
7 まとめの時間の教材作りは、モンテッソーリ教育をより理解するきっかけになりましたか？			
8 資料プリントは、子育てのヒントになりましたか？			

※これより以下は該当するアンケートにご回答下さい。

9 縦割り活動では、楽しんで活動に参加していましたか？			
10 集会では、友だちと一緒に話を聞いたりお祈りで心を合わせていましたか？			
11 クラスの子どもたちから質問です ふじ：おしごとを頑張っていましたか はら：一人で片付けまでできていましたか ゆり：よく手を使っていましたか もも：おしごとを頑張っていましたか			

今回の参観をご覧になって、聖ヨゼフ幼稚園の教育についてご意見やご感想があればお聴かせ下さい。



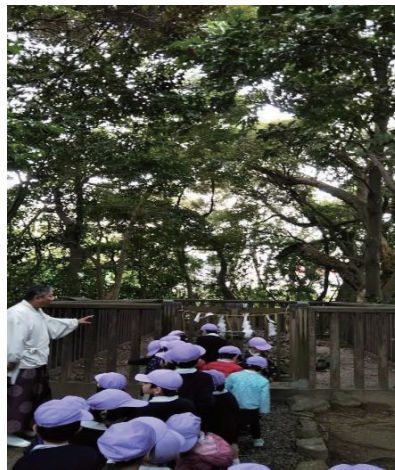
保護者との交流

年長児対象の保護者アンケートより（一部抜粋）

- ・どの行事でも自分だけでなく、お友だちのことをたくさん教えてくれました。人のことを共に喜ぶ姿が見られました。
- ・さまざまなことを自分で選択して、出来るようになることがとても自信になっているようです。
- ・子どもたちの力を信じていただき、見守っていただき感謝しています。園舎は新しくなりましたが、教育方針は変わっていないことを再確認できたようなとても温かいクリスマス会でした。
- ・まだまだ不慣れな子育ての中、たくさんの気づきがあり日々反省ですが、参観や行事での子どもの成長を感じとても感謝しています。

保護者へ発信するときの心構え

- ・タイムリーに行う
- ・保育は生もの
フレッシュなうちに家庭に届ける



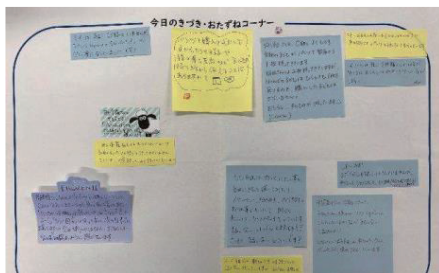
〈研究2. 職員間の共有〉

1. 視覚的言語化の取り組み：ラベルワーク

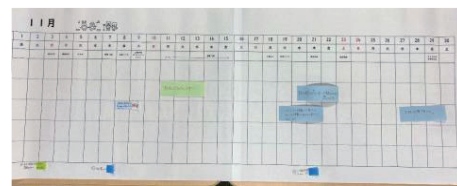
幼児教育の無償化となった今、国で子どもを支える方針であるが故、園の建学の精神、保育の方針は、どの職員でも答えることができ、園の事はどの先生に聞いても分かるという状態を作っていくべきである。

その中でポイントとなってくるのがミドルリーダーの役割である。ミドルリーダーが色々な人の言葉を聞いたり、意味の解釈を伝える大事な役割と共に、主任や園長と相談し、真ん中にミドルリーダーがいて、下から上に、ミドルから下という役割が求められる。そういったミドルアップダウン型の組織に移行する事で園は活性化される。このことから職員間の共有の必要性を強く感じ、ミドルリーダーを中心とした視覚的言語化

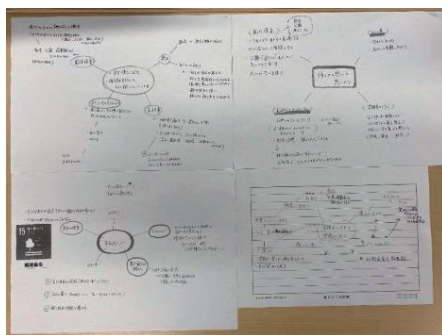
ラベルワークを通して日常の子どもの様子、行事の反省と喜びの共有などを行った。



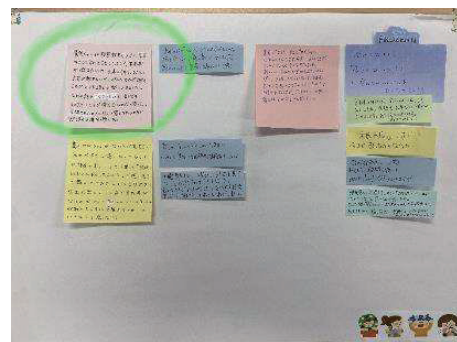
今日のきづき・おたずねコーナー



クラスの取り組み



担任による話し合い



喜びの共有〈新任職員からのふせん〉



行事反省会



年度末反省会〈新任職員グループ〉

考察

- ・共有により信頼関係がよくなった
- ・子ども理解が深まった
- ・新任職員の成長を感じた
- ・互いに育ち合う仲間となった

課題

- ・中堅同士の共有を行う
- ・発信しやすい雰囲気作りをする

まとめ

「幼児教育の質の向上のための評価実施支援事業」のモデル園を引き受けるにあたり、二つの思いが胸によぎったことを鮮明に覚えている。一つは、学校評価についての理解が足りないまま毎年行っている現状をアドバイザーの先生方の助言を頂きながら学ぶことができるまたとない機会に恵まれたこと。もう一つは園の保育を公開するだけでなく、それを外部の学識経験者の方々に評価をされることへの恐さでとても複雑な思いでモデル園としての歩みが始まった。

指導助言者である古賀和子先生の訪問を受けた際、認定こども園であることや幼児教育無償化の施行は自園が公教育の一貫である自覚をもたなければならず、園としては教育について外部への説明責任があるということをもっと最初に通告された時、これまでの学校評価に対する認識の甘さに気づかされた。健やかに育っている園であることを積極的に伝える努力をし、地域から手伝ってもらえる園になることが子どもたちの成長の助けになるという更なる助言がこの事業への取り組みの積極的な理由づけとなり、ようやくスタートラインに立つことができた。

取り組むテーマ「保護者や地域との関わりの中で学校関係者評価を考える」にあたり、園では年長児の活動として地域にある郵便局との交流を実践したが、その体験がその後の子どもの成長だけに留まらずその後の保育にも大きな変化を及ぼすことになるとは予想もできないことだった。少しずつ主体性が芽生え、積極的に園生活を送ろうとする子どもたちのエネルギーに後押しされた担任が、三学期には自ら地域交流の場を保育に取り入れる姿が見られた。

取組を通して見られた変化

園児 ・積極的に園外の人や地域に関わろうとする姿が見られるようになった

- ・子ども同士で話し合い、解決に向かおうとする姿勢が見られるようになった
- ・明るく生き生きとして園生活を送るようになった
- ・卒園作品など個人の活動では、人に影響されることなく自分の興味、関心があるものに忍耐強く取り組む姿が見られている

職員 ・子どもの興味、関心事に柔軟に対応し、活動に取り組めるよう計画を立て実践することができるようになった

- ・主体性をもって話し合いの場を持ったり、課題を持ち越したりせずすぐに取り組もうとするなどフットワークが軽くなった
- ・業務的な共有から内容について分かち合う共有に変わってきた
- ・成果が見えたことが自信につながり、やりがいが出てきた

今回、子どもたちの育ちが職員の“保育のやりがい”につながったことを目の当たりにして、改めて問われている「保育の質の向上」という意味の理解に至ったのは園にとって大きな収穫となった。それを違う視点で押し上げてくれたのは交流の場を与えてくれた地域であり、行事の折々に園まで足を運んで本園を知ろうと努めて下さった評価委員の方々の温かい助言の数々だったことは紛れもない事実で、学校評価をする意味、しないといけない理由も未熟なりに十分理解することができた。保護者との関係性を築くこともこれ迄行ってきた方法にアンケートやクラスだよりなどを配布することがさらに距離を縮める効果があることも実感することができた。年度途中からの取り組み故に、課題も多く残ったが、次のステップへの具体策になっていくことと捉え、次年度に臨みたい。

1年次の成果と考察

こうした取り組みに関する情報発信は園内に留めず、保護者をはじめとする地域社会にも積極的に発信しつつ、幼児教育の当事者間で共有し、改善し、新たな計画を生み出しねそして実践していくことの繰り返しを行っていくことが重要である。その際、発信媒体の工夫や改善、地域住民や関係者との対話時間の確保もまた重要なポイントになることを心掛けたい。

2年次

<研究課題のとらえ方>

1. コミュニティーの一員として共に育つ、育ててもらおうという考え方を再確認し、地域との関わりや学校関係者評価のとらえ方を変える。
2. 学校関係者評価を実施するにあたり自己点検自己評価をもとに推進し、その内容を保護者や地域社会に公表することで園の教育について継続的・組織的に見直して改善していく。
3. PDCAサイクルの視点から学校関係者評価の振り返りを行い、実践的な学びを通して保育の質の向上につなげる。

<令和2年度の研究課題>

1. 前年度、研究課題についての自己評価項目において、職員の自己評価が低かったため、具体的な保育の実践方法や保育内容を示し、職員間で共有することで自分たちで自分たちの保育・教育を運営していく。
2. 保護者との連携をより強めるため、様々な方法で子どもたちの成長を周知することに努め、また保護者アンケートを実施することで、家庭との連携と信頼関係の更なる構築を目指し、保育の質の向上につなげていく。
3. 保育のより良い改善のため、日々の振り返りや共有、そしてその積み重ねを通してカリキュラムマネジメントを行っていく。

<令和2年度の研究結果>

1. 新型コロナウイルス感染拡大で新学期のスタートが大幅に遅れ、加えて感染防止の観点から保護者や地域と直接対面して関わるができない状況となったことで保育計画の変更を余儀なくされる事態となった。しかし中止という選択ではなく、コロナ禍でできることを職員間で再検討、共有し新しい取り組みにも躊躇なく向かえたのは、昨年度の保育の実践経験が各々の自信・意欲につながった成果の表れと言える。
2. 八幡西郵便局から局の壁面装飾を依頼される関係性を構築できたことは、昨年度の実践による成果と言える。テーマ「ぼくの、わたしの町」を掲げ調査のために近隣の警察署・公園など散策を重ね、全園児で製作を手懸けられたことは、地域を更に深く知るよい機会となった。また、コロナ禍で行事や保育参観が減った中、飾られた作品を通して保護者にも園の保育を見て頂く機会となり成果につながった。

3. 緊急事態宣言が解除されている期間は、評価委員の先生方にご協力を頂き、市民センターや小学校、老人ホームなどに年長児が出向き、自分たちで掘った芋を届ける、校庭を歩かせてもらう、校長先生のお話を聞く、飼育生物を見せてもらうなどできる範囲内で交流の場をもつことで、直接園児の育ちを見て頂く機会を作った。交流ができない時期は、園だよりやドキュメンテーションなどをこまめに郵送し、園の保育を地域の方に知ってもらえるよう心がけた。
4. 郵便局の絵画製作を含め、地域交流の活動を進める際は、計画・準備・実践において、役割分担など園児が話し合う場を作り、お互いに自由に意見を出し合ったり、折り合いをつけたりしながら、子どもが主体的に活動できるよう、職員自身も保育計画を見直し役割を意識しながら保育に取り組めるようになった。
5. 園に足を運び保育を直接見ってもらう機会が減った保護者に対して、ドキュメンテーションなどで様子を知らせたり、SNSを始めて園の様子をより知ってもらえるよう積極的な働きかけに努めた

<本事業の取り組みで見られた変化>

- ・ 2年間の本事業の取り組みを通して得られた大きな変化は、“開かれた園”となったことである。特定のかかわりに留まっていた地域との交流から、園ととりまく環境の全てを“地域”と捕らえることで、そこにある施設、そこに住む人々とのかかわりが子どもを豊かに育ててくれるサポーターであるという認識が変わったことである。地域に園を開いていくことで、保育内容や職員の意識が変わり、子どもの園生活に大きな影響を与え、予想を超えた成長が見られたことは保育の充実感につなげることができた。
- ・ 日々の保育や行事ごとに行ってきた職員会や反省会はただの振り返りではなく、“自己評価”というとらえ方に変化した。それにより子どもの姿や保育者の在り方を振り返り、職員間で共有することで次への目標、改善が明確になり保育の質の向上につながった。
- ・ PDCAサイクルを取り入れながら保育を実践することで、多面的に子どもの姿をとらえ、職員一人ひとりの子ども理解が深まるとともに、より園の教育方針や年間の重点目標を意識した保育の実践を行うことができた。
- ・ 保護者との連携を強めるため、SNSの活用や手紙によるこまめな周知により、子どもたちの成長をさらに共有することができた。それにより家庭でも保護者と子どもの共通の話題が増え、園への理解が深まり円滑で充実した保育につながった。
- ・ 地域社会とのつながりが強まり、自園の子どもたちの社会性が広がるとともに、地域社会に受け入れられる安心感を十分に得ることができ、社会との関りを心から喜ぶようになった。また地域社会にも幼児教育の重要性を知ってもらう機会にもなったと考える。

(学)聖ヨゼフ学園認定こども園聖ヨゼフ幼稚園 園長 森 純子

令和元年度 学校関係者評価報告書

学) 聖ヨゼフ学園 認定こども園 聖ヨゼフ幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の愛の精神を幼児の人格形成の基本目標とする。ありのままの自分が受け入れられ、かけがえのない存在として大切にされることにより、感謝する心・思いやりの心・生命を大切に作る心・祈る心を育てる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

認定こども園としてだけでなく、10月から施行された無償化制度により本園が公教育を行う施設であることを自覚し、保護者や地域の眼を通して保育内容の客観性・透明性を構築していけるよう取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	地域や自然や社会とのかかわり	園と地域の関係性に着目し、地域に園を開放していくことで幼児の地域や社会への関心が高まり、地域とのかかわりを更に持つことで幼児の健やかな成長につながることで保育の質の向上につながった
2	保護者への対応	行事の機会に保育方針を伝えたり、保育の取り組みを写真やクラスだよりで知らせた。またアンケートや個人面接などで、保育者の思いを知るなど信頼関係の構築に努めた。
3	保育の計画性	保育カリキュラムをただ実践するだけでなく、成長していく幼児の姿から更にカリキュラムを発展し、実践する躍動感のある保育ができた。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

自己評価だけでなく評価委員の方々の助言や評価が全職員の意識改革や保育の更なる向上につながり、保育者としてのやりがいや前向きな課題の発見となった。このことを次年度にぜひ生かし、より質の高い保育を提供することにつとめることを全職員で共有した。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	地域との連携	地域に愛される園を目指し、具体的にイメージできるように努める
2	保育の計画性	幼児の生活が豊かになるようなカリキュラム計画を作成する

6. 学校関係者の評価

園が長い歴史の中で培った良さや先生たちが子どものために労力を惜しまないということを前面に押し出し知ってもらうように努めていく。ただ保護者はヨゼフの教育方針をもとに子どもの育ちが見えることを納得している。保育の計画性の部分では、縦割り保育だけでなく横割り保育についてもたくさんの経験ができるよう、育ちや発達段階を意識して計画を立てていく。

学校関係者評価委員 印

学校関係者評価委員 印

学校関係者評価委員 印

学校関係者評価委員 印

委員会実施日 令和2年2月25日

事例 4. 公開保育を通して学校関係者評価を考える。

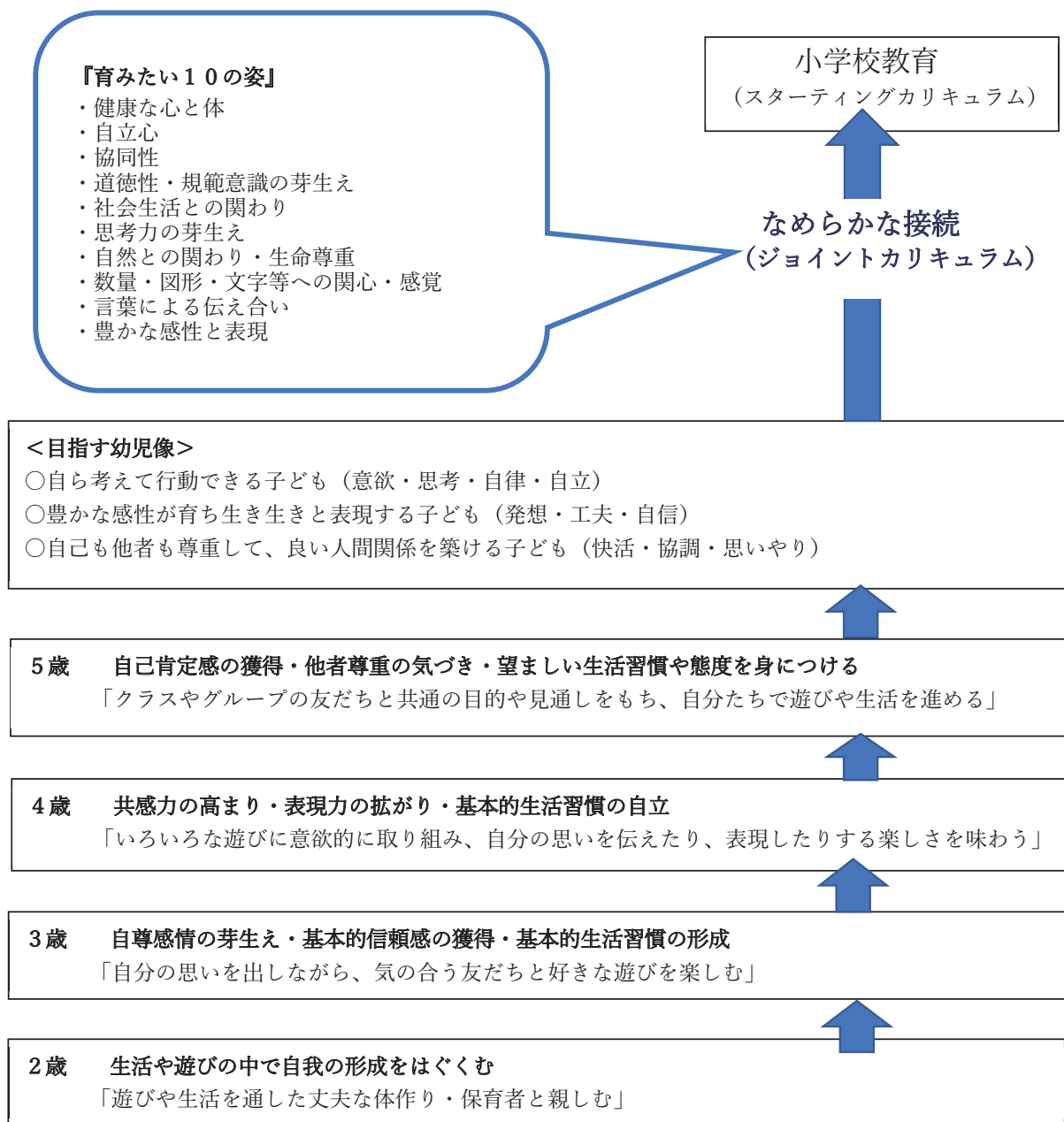
学校法人真観学園 霧ヶ丘幼稚園

1 年次

◆ 令和元年度の重点目標

教育目標：

豊かな生活体験や遊びに幼児が主体的に関わり、未来に向かってたくましく生きる
基盤を育てる。



◆園内研修① 公開保育に向けての話し合い・助言

日時：令和元年8月23日 10:00～

参加者

アドバイザー 古賀和子先生
 教育研究委員長（徳力団地幼稚園 園長）高原恵子先生
 曾根ひかり幼稚園 園長 篠原みどり先生
 教育研究委員（東筑紫短大付属幼稚園 園長）小島久須美先生
 霧ヶ丘幼稚園 園長 淵 和子
 主任 吉田江津子



*今年度の学校関係者評価を充実させるため、新たに以下の3点を加えるよう助言を頂いた。

1、学校関係者評価委員として、保護者（3名）だけでなく、新たに地域の関係者へ依頼して地域の理解者を増やす。

霧丘小学校の校長先生と霧丘市民センター館長さんをお願いして承諾を頂いた。

2、年間スケジュールを作成すると計画的に学校評価が進められる。

スケジュールを立ててみると年度初めから年度末までの学校評価の流れについて見通しがもてるようになった。

（資料1：学校評価年間スケジュール）

実施時	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
評価の流れ	評価の準備、重点目標等の設定							教育活動の実践、見直し					評価、公表
評価体制の構築								委員会設置		評価項目の検討、設定		自己評価、集計分析を基に研修会にて全職員ディスカッション	まとめ、公表シート作成、報告書作成、公表
自己評価	重点的に取り組む目標設定		重点的に取り組む目標等を中心とした教育活動						見直しした重点的な目標等を中心とした教育活動			報告	
学校関係者評価			(2020年度)委員会予定						第1回委員会 （9月18日）				第2回委員会（閉会式評価） 3月18日 AM10:00～
保護者対象の活動		重点目標等提示						年少組アンケート実施、公表		年少組アンケート実施、公表	年中組アンケート実施、公表		ひよこ組アンケート実施、公表
改善者による改善・改善								評価委員会にて意見聴取			評価委員会にて意見聴取並びに改善策実施		評価委員会にて意見発表
その他								園内研修	公開保育 11月29日				

3、保護者の意見を取り入れる。（保護者が幼稚園教育をどのように捉えているのかが、よく分かる。）

霧ヶ丘幼稚園では、保護者に幼稚園への理解を深めるため保育参加をして、クラス子ども達と一緒に遊ぶ機会を設けてきた。今年度から体験した後にアンケートに回答して頂き、意見をまとめた（保護者の評価）



1日に3、4名ずつの保護者参加です。



お父さんの参加者もいます。

(資料2：保護者アンケート)

年長組保護者の皆様 令和1年10月 霧ヶ丘幼稚園

本日は、ご参加ありがとうございます。
 保育に参加し、霧ヶ丘幼稚園の教育について、感じたことをお聞かせ下さい。
 皆様からのご意見は、学校関係者評議員会に提出し、本園の教育の質向上のため生かしていきたいと思っております。
 ご協力、よろしくお願ひ申し上げます。

***霧ヶ丘幼稚園の教育目標**
 「豊かな生活経験や遊びに幼児が主体的にかかわり、未来に向かってたくましく生きる児童を育てる」

***目指す幼児像**
 ① 自ら考え行動できる子ども(意欲・思考・自律・自立)
 ② 豊かな感性が育ち、生き生きと表現する子ども(発想・工夫・自覚)
 ③ 自己も他者も尊重して良い人間関係を築ける子ども(快活・協調・思いやり)
 (一人一人の個性を大切に、お互いを認め合う温かいクラス集団を育てます。)

本園では、子ども一人ひとりもっている輝きを大切にしながら、人や自然との触れ合いを通して、自分の殻をくぐくんはっていきけるような教育を続けてきました。
 子どもに寄り添い気持ちを読み取り、温かい援助指導のできる教師が、じっくり意欲を育て創造力を育むよう環境を整えています。
 園での家庭では味わえない様々な経験とその日々の積み重ねを大切にしたい保育は、よく観る、よく聴く、よく考える子どもを育てています。

※本日の保育のねらい(はな組)
 ・友達と考えを出し合いながら、遊びを満ちていく楽しさを味わう。
 ・友達と共通のイメージを膨らませながら、ハロウィンに向けて意欲を出し合い、友達と一緒にハロウィンの遊びをパーティーを作っていくことを楽しむ。

	評価内容	評 価			
		◎	○	△	×
あなただけの考えを伝える...	1 自分のやりたいことに夢中になって遊んでいましたか？				
	2 遊びの中で自分の思いを伝えたり、相手の考えを聞いたりして遊びを進めていましたか？				
	3 ルールのある遊びの面白さがわかり、友達と一緒にルールを作ったり、守ったりして遊んでいましたか？				
	4 友達と一緒に同じ目的に向かって、協力して遊ぶ姿が見られましたか？				
	5 (衣装の衣装や道具作りなど)自分で考え、色々な材料を工夫しながら取り組んでいましたか？				
みんなの考えを大切に...	6 身近な生き物を大切にしていたりしたか？				
	7 嬉しいの中で、考えたことを言葉で伝えたり、相手の喜ぶ顔を見たりし、言葉による伝え合いを楽しんでいましたか？				
	8 子ども同士、共通のイメージを持ち、ハロウィンパーティーを作ろうとしていましたか？				
	9 ハロウィンに向けて楽しみにしている様子が、感じられましたか？				
	10 (子どもたちからの意見です)自分たちで考え、工夫して作った特別な衣装や遊びは、ありますか？				

霧ヶ丘幼稚園の教育について (自由記述)

◆園内研修② 教職員スキルアップ研修

- * 保育者の資質向上のため、古賀先生 (アドバイザー) に保育を観ていただき、指導・助言を頂いた。
- 10月15日：年中組4クラス 午前9時30分～12時保育参観 午後4時～5時30分講評
 - ・子どもの視線の先から子どもの思いを読み取り、どのように関わっていくかを常に考え実行していく事が大切。
 - 10月16日：年長組4クラス 午前9時30分～12時保育参観 午後4時～5時30分講評
 - ・「共有」子どもの年齢によってその意味は異なるということを理解しておこう。
 - 10月23日：年少組 (3クラス) 2歳児 (2クラス) 午前9時30分～12時保育参観 午後4時～5時30分講評
 - ・気持ちと言葉をつなげていくことを大切にしていく。
 - ・担任の傍やクラスの中が、安心であることが一番大切。

◆園内研修③ 第一回 自己点検自己評価の実施 (公開保育前)

10月31日：全体研修 テーマ「自己点検自己評価」
 今まで年に1回の自己点検自己評価だったが、本年度は、公開保育前と後で2回実施することにした。
 本研修で改めて自己点検自己評価の在り方を学び直して第一回目を実施した。
各自の自己点検自己評価は、アドバイスを頂きながら自分の保育をふりかえり、課題を見つけてより良い保育の実現に向けて公開保育の目標を定めていった。



園内研修の様子

(資料3 自己点検・自己評価表：)

【 第1回 自己点検・自己評価表 】

年少児（りす1）組 担任（N・M）	
反省	・遊びに参加できず、じっと遊びを見ている子どもを表面的にしか理解していなかった。 その子が何を観ているのか、どうしてそこが気になるのかをその子の目線や表情から読み取り、声をかけたり、援助したりしていかなければと思った。 ・日案に書いている「ねらい」についても、子どもに育ててほしい姿(願い)が自分自身に定まっていなまま保育をしていたことに気付いた。
課題	・教育課程、指導計画、月案、週案、日案とつながっていることを頭に入れながら、子どもに育ててほしい姿を今一度考え、その育ちに向けて日々の遊びや生活を考えていく必要がある。 また、一つ一つの遊びに「どんなねらい」があり、「そこから何が育つのか」を明確にして、その日の保育を振り返り、反省と課題をふまえて、明日の保育を展開していく。
目標	・遊んでいる子どもの目線の先を注意して、一人一人の心に寄り添いながら保育していく。 ・1日の保育を振り返りながら、次の日に向けて課題をもち、子どもの育ちが感じられる保育を目指していく。

*考察～古賀先生の助言から学んで・・・

公開保育を前にした研修会で、子どもの姿に寄り添うポイントや指導案の記載の仕方について助言を受けた。指導案における『ねらい』は、その姿がその保育の中のどこに現れているかを評価することが重要なのである。例えば子どものどの姿を見て『楽しんでいる』と評価するのか。どのように援助したら『楽しめるのか』、どういふ姿が出たら『楽しめた』と評価できるのか…と常に考える事。それから『このような活動や体験をすることで、このような気持ちが芽生えて欲しい』と意識しながら指導案を立てていく必要がある。

今回の指導を受け、自分の保育を指導案で可視化し、日々評価して、次の保育へつなげていくことを通して、日々の保育が変わり始めたと感じる。それと共に何より重要なのは、保育を考えていくプロセスの原点は「子どもの姿」であるということが再認識された。それから子どもの見方が変わり、子ども理解が深まり、子ども目線を大切にしたい保育になってきた。担任一人一人の公開保育へ臨む目標が明確になってきたことを強く感じた。

◆公開保育

*北九州市私立幼稚園連盟ミドルリーダー研修（令和元年11月29日）

<文部科学省 2019年度幼児教育の質向上のための評価実施支援事業>

幼稚園のテーマ「子どもの主体性を育てる保育の創造～公開保育をとおして」

日時： 令和元年11月29日（金） 午前10：00～15：00

会場： 霧ヶ丘幼稚園

3、参加者

北九州市私立幼稚園 ミドルリーダー教諭 53名

中村学園大学教授 那須信樹先生、福岡女学院大学教授 坂田和子先生

教育アドバイザー 古賀和子先生

教育委員会、子ども家庭局、教育センターより3名 北九州市私立幼稚園連盟事務局 山中さん

学校関係者評価委員：霧丘小学校校長 陰平実先生、霧丘市民センター安東布司子館長

*公開保育の様子・・・・・・



年少児 りす1組



年少児 りす3組



年中児 きく組



年中児 さくら組



年長児 ほし組



年長児 はな組



年長児 ゆき組



年少児 りす2組

*公開保育における協議会（一部抜粋）

— 年少組 —

- ・保育が面白い。
 - ・熱中する遊びのコーナーがあるから、子どもが落ち着き、集中して遊んでいる。
 - ・教師の援助が素晴らしい。子どもの言葉に耳を傾け、寄り添い、共感している。すべての子どもが受容されているという安心感に包まれている。
 - ・各学年集会の場を設けられている。そこでは、子どもが教師の話をつただ聞くだけの場ではなく、子ども同士が相手の思いを聴き、自分の思いを伝える事ができる。「聴く力」「伝える力」の育ちの大切さを感じた。
 - ・外遊びになっても、わらべうたを取り入れたじゃんけんをしたり、パン屋さんごっこをしたりと、保育室の遊びが途切れていない。総合玩具の方に向かう子は少なく、今の遊びのイメージを大切に友だちと遊びを選び、共有することが出来ているように感じた。
 - ・子どもたちが、一つの遊びに偏っていない、遊びを転々としていないところに主体性を感じた。
- 年少児が遊びを選んでそこで、じっくりと遊んでいる姿が見られ、子どもたちのやりたいことを保育者が汲み取り、タイミングもよく環境を整えているのだと感じた。



— 年中組 —

- ・子ども同士でイメージの共有ができています。
- ・子どもたちがいくつかあるコーナーの中から自由に選んでいた。自分で選んでいるので各自が責任を持ち準備から片付けまでルールにのっとって取り組んでいた。
- ・子どもの主体性が尊重されている。（教師の主体性も）
- ・遊びを広げていくための環境設定（エサ販売、エサやり場、うんち、掃除用具）がされている。
- ・子どもが「作りたい」「使いたい」と思った時に“使えるもの（素材や道具）”が手の届くところにある。
- ・子どものつぶやきを大切に保育に繋げ広げるようにしている。
- ・子どもの思いを大切にしている。子どもが自分で考えて取り組んでいる時には、すぐに教師が介入せず、まず子どもの状態を見守り、まず体験させてみている。崩れたり、壊れたり、失敗することもあるが、子どもはその失敗を学びとし、次に活かしている。
- ・子どもたちがとても動物園ごっこを楽しんでいるように感じた。
- ・部屋中の環境、どこを見ても動物園に関係していた
- ・2年目と思えない保育だった。（落ち着き、環境構成も行き届いていた）
- ・子どもたちが主体的、主体性をもって遊びに取り組んでいた。
- ・置いてあるおもちゃが手作りで工夫されていた。また、自分たちで遊べる環境だった。
- ・自分の好きな遊びが見つかるような環境構成がなされている。



— 年長組 —

- ・子どもたちの遊び方に迷いが無い。子どもたちがお話の世界を楽しみやすい環境構成がなされていた。
- ・子どもたちが自分たちで作上げた世界観を感じた。
- ・教師の存在があつてこそその子どもの姿であろう。クラスの安心、安定感を感じた。

・静かに語り掛ける教師の声にも驚いた。自分は、いつも大きな声を上げている。

・子どもが楽しそうに遊んでいる姿が印象的で、主体的に遊ぶ姿を実感した。

・子ども一人一人を理解していないと成り立たない保育だということを強く感じた。教師の努力の賜物だと思う。

・子ども同士で工夫したり、進めていこうとしたりする姿に主体性を感じた。自分の保育でも連続性を意識してイメージを膨らませていきたい。

・本日の保育を観て、子どもたちの遊びたい気持ちを育むのは教師の問いかけや環境構成が大切だと感じた。

・遊びの中で子ども同士のトラブルがあった。内容は深刻であったが、そのときにすぐ教師が入って行って 解決しようとするのではなく、状況を見守り、のちにクラスの子どもたちと共に考え合っていた。年長児の心の育ちにつながる関わりであった。

・チケット作り、コップ人形作り、桃作りなどそれぞれの場所で思い思いの遊びをしているように見えたが、全員が共通のイメージを持ち それぞれに楽しんでいるのがすごいと思った。

・子どもたちが自分のしたい遊びを心から楽しんでいる様子に感心した。

・子どもたちが自主的に遊びを進めている姿を見て、感心した。

・担任の先生が穏やかな声で接していて、声掛けの仕方が参考になった。

・今日、霧ヶ丘幼稚園に来ることが出来なかった園の職員に、今日の保育を見せてあげたい、と思った。



◆第1回学校関係者評価委員会（令和元年11月29日 公開保育当日）

学校関係者評価委員2名の方にも当日の公開保育に参加していただき、ご意見をいただく。

（学校関係者評価委員アンケート：資料4）

学校関係者評価委員の情報		令和元年11月29日		評価内容			評 価		
霧ヶ丘幼稚園		園長： 潮 和子		出	出	出	出	出	出
子 ど も た ち は	1	子どもたちは、自分のやりたいことを思い切って遊んでいましたか？							
	2	子どもたちは、それぞれの年齢に応じて、友達と一緒に遊びを楽しんでいましたか？							
	3	子どもたちは、のびのびと園生活を楽しんでいますか？							
	4	子どもたちは、自分でできることは、自分できていると感じますか？							
	5	子どもたちは、先生や友だちと心を合わせ、年齢に応じて量による表現を楽しんでいますか？							
	6	子どもたちは、身近な自然に触れて、遊びを楽しんでいますか？							
保 育 者 は	7	保育者は、子どもたちとの信頼関係を築けていますか？							
	8	クラスにおける環境構成は、それぞれの年齢に適していると思いますか？							
	9	保育者は、子どもたち一人一人の育ちに寄り添う姿勢が感じられますか？							
評 価 者	10	子どもたちからの意見です。 【はな組】 私たちは、エールマーゴに必要ものを自分たちで考え、工夫して作り、楽しんでいますか？							
		【中巻組】 ほくたちは暮余の時に人の話を聴き、一緒に考えていましたか？							
霧ヶ丘幼稚園の教育について（自由記述）									

本園では、子どもが一人ひとり持っている輝きを大切にしながら、人や自然との触れ合いを通して、自分の輝っこをぐんぐん広げていけるよう環境を創ってまいりました。

子どもに寄り添い気持ちを受け取り、温かい援助を通してできる教師が、じっくり環境を育て創造力を育むよう環境を整えています。

園での家庭では味わえない様々な経験とその日々の積み重ねを大切にしたい保育は、よく観る、よく聴く、よく考える子どもを育てています。

***学校関係者委員ご意見**

- 久しぶりに（我が子の幼稚園時代以来）幼稚園の保育を見せてもらった。室内や園庭で子どもたちが生き生きと幸せそうに遊んでいるのを見て、幼児期にふさわしい環境だと感じた。
- 意欲的に遊んでいる姿は、小学校に入ってからも意欲的に授業に参加する姿勢につながるのではないかと考えた。しっかり遊んで伸びて欲しいと思った。

***考 察**

公開保育では、緊張しながらも子どもたちの生き生きとした表情や反応に助けられて、担任たち自身もやりとりを楽しみながら保育をしている様子が伺えた。たくさんの参加者を気にする事もなく子ども達はいつも通り伸び伸びと遊んでいて、どのクラスも参加者の温かい表情や笑顔に包まれていたのが印象的だった。

午後からのグループ協議では、参加者から多くのご意見を頂き、今まで気づかなかった自園の良さや自分の保育の良さに気付けることができた。自分の保育を認めてもらえたことと、保育を反省し、改善し、次の保育への目当てへと繋がって行く保育の在り方を再確認できたことは、若手教師の自信に繋がったと考える。

また第一回自己点検自己評価から目標を意識して毎日の保育に取り組んできたことで、教師のPDCAサイクルがうまく機能し始めてきた事や、保育を公開するという目標へ向けて、教職員一丸となって子ども一人一人をしっかり見取り、課題を見つけ話し合い、援助の在り方や関わりを考えたり環境構成を工夫したりする態度が養われると共に、よき同僚性も築かれてきたように感じる。

評価委員の方々（霧丘小校長・霧丘市民センター館長）には、私立幼稚園の教育に対する理解を深めてもらえる良い機会となった。

◆園内研修④ 教職員の第2回 自己評価（公開保育を終え「今後に向けての目当て」を考える）

日程：令和元年12月2日 園内研修

（第2回 自己点検・自己評価表：資料5）

年少児（りす1）組 担任（N・M）	
反省	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに参加できず、じっと遊びを見ている子どもを表面的にしか理解していなかった。その子が何を観ているのか、どうしてそこが気になるのかをその子の目線や表情から読み取り、声をかけたり、援助したりしていかなければと思った。 ・日案に書いている「ねらい」についても、子どもに育ってほしい姿(願い)が自分自身に定まっていなまま保育をしていたことに気付いた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程、指導計画、月案、週案、日案とつながっていることを頭に入れながら、子どもに育ってほしい姿を今一度考え、その育ちに向けて日々の遊びや生活を考えていく必要がある。 また、一つ一つの遊びに「どんなねらい」があり、「そこから何が育つか」を明確にして、その日の保育を振り返り、反省と課題をふまえて、明日の保育を展開していく。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・遊んでいる子どもの目線の先を注意して、一人一人の心に寄り添いながら保育していく。 ・1日の保育を振り返りながら、次の日に向けて課題をもち、子どもの育ちが感じられる保育を目指していく。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育では、多くの先生方に保育を観ていただいたことで、自分の保育に対する姿勢や子どもへの関りが認められ嬉しかった。この体験は次へのステップに繋がり、意欲が増した。 ・子ども達と共に遊び、子ども達はその遊びのどこに魅力を感じ、夢中になっているのかを子ども目線で感じ取り、自分自身も楽しみながら遊び（保育）を豊かに展開できるようになりたいと思う。その為にも、子ども達が何に興味関心があるのかを見極め、また、それを感じ取れる柔軟な感性を持ち続け、真剣に子どもと向き合いながら保育を進めていくことを大切にしていきたい。 ・1人1人に寄り添いながら、肯定的な言葉かけを続け、より一層自信が付くような保育を目指し、子どもが安らげるそんなクラス（環境）作りを心掛けていきたい。

◆園内研修⑤ 公開保育から見えてきた課題

今後の課題は、若手教師の育成である。

公開保育での振り返りの中で、園外の人からの様々な意見に触れ、担任の自信や気付きに繋がっていることは実感できる。

しかし、若手教師は、意欲や思いがあふれすぎてまとまらず、一杯いっぱいになっているようにも思える。また、経験年数の違いに圧倒されるのか、焦りも感じられる。

これまでは、経験年数に関係なく共に学び合う姿勢を大切にしてきたつもりであったが、時間がない時には、つい指導や教える形になっていて、若手の教師の自信の妨げになったり本当に理解しているかどうか曖昧なままにしてしまったりしていた。比較の対象ではないと考えながらも、豊かな経験値を持つ教師の保育と若手教師の保育を比較しがちであったことを猛省した。

これを良い機会に教師一人一人が更なる自信をつけて、自分なりに考え目標を持って保育できるような園内研修に取り組んでいきたいと考え、坂田先生をお招きして園内研修を行った。

◆園内研修⑥ 養成校にも保育を公開

12月17日(火) 10時～12時 保育参観 15時～17時 指導助言

講師：福岡女学院大学教授 坂田和子先生・大学院生4名

<坂田先生の講評>

○霧ヶ丘幼稚園の保育から感じたこと……

- ①子どもが、安易に遊具で遊ばず、自分たちなりに難度をあげて遊ぼうとする姿から、『何かに挑戦する意欲』を感じた。
- ②生活の中に根付いているわらべ歌。
- ③人と人との応答的なかわり合いをしている。子どもが安心して、情緒の安定感を感じる。

○指導・助言

- ・『子どもの心が動くのを待つこと』が幼児教育である。
- ・子どもの言葉を受け止め、意識的に目的を持って子どもを見ていく中で気付いた子どもの姿、行動、気持ちなどの『気付き』をメモ（記録）を利用しましょう。
- ・細やかな気付きの記録とともに教師としての経験も積み重ねていきましょう。

○手応え感覚（ポジティブ感情）

- ①充実感…「さすががしい」「気持ちいい」などの言葉にならない満たされた感覚。
- ②達成感…「なるほど」「わかった」「できた」「できそうだ」などを支える感覚。
- ③自己有能感…「自分はできる」自分を肯定的に受け止める感覚

*考察

公開保育を無事終了したということで、園全体が安心感に包まれているように感じる。担任達は自分の保育に自信が付いてきた分、保育の楽しさを実感し始めているようだ。本日、坂田先生や大学院生さんの参観におけるやりとりでも笑顔で答えているのが印象的だった。今年度取り組む本園の課題の中に、「記録のとり方」が上がっていた。

坂田先生の助言の様に『気づき』のメモを是非活用していきたいと思う。



ライン沿いで遊ぶ子どもの姿（撮影：坂田先生）
集めた砂にラインパウダーを混ぜ、サラサラ砂を作っているところ

◆保護者のアンケート（保育参加終了後、保護者の意見）

*霧ヶ丘幼稚園の教育について…（自由記述部分一部抜粋）

― 年少組 ―

保育参加期間：令和元年12月3日、4日、5日、6日、9日、10日（6日間） 回答数：71名

- ・クラスの中に「どんぐりどらや」の世界観が表現されていてすごいと思いました。どんぐり・葉っぱなど季節感のある自然のおもちゃがたくさんあって楽しそうに遊んでいたのが印象的でした。
息子はなかなか幼稚園になじめず精神的に不安定になることも多々ありますが先生方がたくさん声をかけてくれ、対応してくれるのでありがたいです。
- ・自然に触れて遊ぶことや家庭での遊びとは違った様々な経験をさせてくれる保育に感謝しています。
特になりきって遊ぶごっこ遊びは、友達と協力しあう心や一緒に遊ぶ楽しさをしり、一人っ子では難しい人間関係の築きが出来ることが嬉しく思います。
- ・絵本の世界が部屋の中で現実になっていて大人でもわくわくする空間でした。当然子ども達は生き生きと心から楽しんでいてきちんと役割があり学びにもなっていました。一つ一つの活動にメリハリがありとても良いと感じました。
- ・友達とコミュニケーションをとりながら、生き生き伸びのび遊んでいるように感じました。
遊びを見ていると、発想力が豊かでおままごとでもリアルで驚きました。子どもが褒められた時とても嬉しそう
で、褒めることで次の意欲につながっていて、褒める事の大切さを感じました。
- ・絵本の世界を楽しんでいる子ども達と遊べて楽しかったです、子どもが土日幼稚園に行きたがる気持ちがわかりました。ドキドキワクワクの連続なんだろうなと感じ、これからもたくましく成長できたらと思います。
- ・ひとりひとりの興味関心がある遊びをいろいろな遊びの中から選び、気が済むまで遊びつくる体制をとって下さるので、子どもの『得意』を伸ばしていただき感謝しています。自然体験やわらべうたなど家では出来ない体験が出来て、この園に通わせて良かったと思います。
- ・子どもが一人にならないように、たくさん声を掛けていただきました。先生が広い視野を持って子ども達に接して下さっていることが分かり安心しました。また、ダメなことはダメとはっきり注意されていることは、最近の教育事情ではなかなか難しいことだと考えられる中、しっかりと注意していて大変関心しました。
- ・どの先生も同じ教育目標に向かって「目指す幼児像」に近づけるように努力して下さっているなと思います。その子が持つ個性を受け止めて下さっていると思います。
- ・絵本の世界や自然の中で季節を感じ、様々なイメージを膨らませるお手伝いをしてくださることが素敵だと思います。幼稚園で先生や友達と思切り好きな遊びを出来る子ども達はとても幸せだなとうらやましい気持ちで我が子たちを見守っています。

― 年中組 ―

保育参加期間：令和2年1月15日、16日、17日、20日（4日間） 回答数：55名

- ・普段子どもから聞いている、遊びの様子を実際に見て参加させていただいて楽しかったです。
カルタやおはじきなどの昔遊びに子ども達が熱中している姿が印象的でした。ルールを守らないと楽しめない遊びなので一人一人が守って協力して遊んでいて成長を感じました。
劇遊びへの話し合いも、お話に描かれていない人物の気持ちを皆で想像して意見を出し合う、すると子ども達が自然と劇に入り込めるようにしていたので、とても工夫されているなと感じました。
練習という固い感じではなく、遊びの延長で取り組めるようになっていたので子ども達もとても楽しんで参加できるなと感じました。
- ・賛否両論あると思いますが、運動会や劇遊び参観などが親目線の見栄えのいいものではなく、通常の保育に支障にない程度(練習ばかりになっていない)で行われている点や、教師から言われたことだけではなく、子ども

達が意見を出し合いながら作り上げている点が良い。

- ・先生達の視野が広く、よく子どもの様子を見ているなと思いました。
その中で、子ども達の良さを最大限に引き出そうとしていて、感心しました。
教育目標もしっかりと定められていて、今後家でも意識して関わって行こうと思いました。
- ・クラス全体が和気あいあいとしていて、毎日こんな風に遊んだり話したりしているんだなと、園での日常が垣間見られた貴重な時間でした。すごく良い環境の中で保育が行われていることが感じられました。
- ・普段あまり体験できない、土遊び、野菜を育てて収穫して調理して食べたり、動物を育てたり様々なことを経験させていただいてとても楽しいそうだなと思いました。息子も楽しそうに話してくれて良い経験もできる幼稚園に出会えてよかったです。
- ・取り組みを通じて、子どもの成長が目に見えて分かり嬉しく思います。子どもの意見を取り入れて、工夫されているので子ども達も愛着を持って取り組み楽しめるのではないかと思います。
- ・家庭ではやってあげられない程の生活経験や遊びを学んで、年中になって年少の時よりも幼稚園での楽しさを感じている息子を見ると、とても遅くなっていく姿が嬉しく思います。
- ・年少の時に比べてクラス皆が個々ではなく、皆で協力しあいお互いの存在を認めて、一つのことに取り組む姿に感動しました。自分なりの意見を皆の前で発表できることも素晴らしいことだと思いました。意義ある時間を毎日過ごしていることに感謝致します。

— 年長組 —

保育参加期間：令和元年 10 月 23 日、24 日、25 日、28 日（4 日間） 回答数：59 名

- ・子ども達自身で考えさせ、意見を聞き、子ども達主体でさせてくれている印象です。ハロウィンの衣装も一人一人違って、それぞれのこだわり、工夫があって、すごいなと思いました。自分で考える力、友だちと話し合い協力する力がついてきていると思います。これからも友だちと楽しく、様々な経験をして成長していくのかなと楽しみです。
- ・上の子に続き、二人目を通わせていますが、安心して預けることができます。畑で育てた野菜を料理したり、梅ジュースを作ったり、モルモットや他の動物のお世話をしたりと家庭ではなかなかできないことを経験させてくれてありがたく思っています。命の大切さや恵みの有難さを子ども本人が身を持って感じることで心豊かに育てられていると思います。今回の保育参加で、いつもお姉ちゃんに頼っている子が上手にあっていう間に衣装作りを終えているのを見てとても驚きました。いつもと違う様子を見ることができて嬉しかったです。
- ・子どもたちの意思を尊重し、自由に伸び伸びと遊ばせてもらって、とても良いと思います。そんな中で、みんなが自分で考えて行動できているように育っていると思います。自由に好きな遊びをしたり、クラスで話し合いをする時間があったり、色々な経験をさせてもらっています。毎日楽しいようで「幼稚園に行きたくない」といったことは一度もありません。
- ・体操教室などで農事センターに連れて行っていただいたり、平尾台へ登山したり…と自然の中で伸び伸びと五感で感じる教育はとても素敵だと思います。調理などのイベントも多々あり、息子は覚えてきたことを私に得意気に再現して教えてくれるので、良い経験を与えて頂いているなと感謝しています。
- ・ハロウィンパーティーに向けて～パーティー後の息子の生き生きとした表情が忘れられません。家では第 2 候補だった衣装を作っていました。パーティー後は「誰々の衣装が〇〇で凄く良かった！」とお友だちを素直に褒めている姿もなかなか良かったです。
- ・初めての母の日のお祝い会で、園長先生のお話を聴き、自分の育児についてハッと考えさせられました。素晴らしい保護者さんはたくさんいらっしゃいますが、私のように育児でいっぱい悩む保護者さんもおられると思います。教育や育児について、もう少しだけお話を聞ける機会があればありがたいなと思っています。

- ・霧ヶ丘幼稚園の先生方は、子どもたちのやりたい気持ちを尊重し、そのためにはどうしたら良いのか、自ら考えて目標を達成できたという喜びを感じさせてくれます。大人目線で近道をさせるわけでもなく、遠回りしてでも自分で乗り越えた子ども自身が思えるよう、じっくり待って見守って下さっていることは、日々の先生とのやり取りや子どもの話や家での様子からも感じとることができ、ありがたいです。
- ・先生による自己肯定感の高まるような声掛け、友だちと共感できる環境が大変すばらしく、家庭でも見習うべきところがたくさんありました。個々の意思を尊重した素敵な作品ばかりで大変感動いたしました。
- ・子どもの3年間の成長を感じることが出来たのも、先生方との日々の関わり合いのおかげだと思います。家族以外の信頼できる大人（幼稚園の先生方）が居るということが、大変ありがたいです。
- ・本人たちが試行錯誤しながらやる姿を見守って下さるのが、とてもありがたいと思っています。
メディアに対する制限は、少し強いかと思うことはありますが、五感を使って吸収できるのは、今しかないと思いますので、意見を取り入れていこうと考えています。
- ・とても良い環境の中で、一人一人が伸び伸びと、またお互いを高め合いながら生活していると感じます。年長になると、小学生になることを意識して、お勉強系も（少しでも）取り入れていただけると親としてはうれしく思います。
保育の中で難しいようであれば放課後の習い事として選択することができるようになれば…と思います。
(書き方や英語、算数など)
- ・子ども達の意思を尊重し、自由に伸び伸びと遊ばせてもらって、とても良いと思います。
ただ、数年前に比べると秋のお泊り保育が無くなったり、年長組の生活発表会が劇参観へ変更されたりして、少し物足りなさを感じるところもあります。また、年長組においては、小学校を前提とした取り組み（文字の練習など）を行ってほしいです

* 考 察

保育参加では、本日の遊びの目標と取り組み方を事前にお話して「できるだけ、ご自分のお子さん以外の子ども達と遊んで下さい」とお願いして、クラスの多様な子ども達と関われるよう配慮をしている。子ども達は「けんちゃんのお父さん」などと自分から声をかけ、親しみ遊びに誘っている。子ども達は、友達のお父さんやお母さんと喜んで遊び、どのクラスも和やかな雰囲気の中、大人も子どもも集中して遊んでいる姿が見られる。

参加後の保護者からのアンケートは、霧ヶ丘幼稚園の保育を理解していて好意的な意見が大半ではあったが、一部幼児教育からかけ離れた意見が見られた（赤字記載）。この活動や遊びから子どもはどのような学びがあり、どのように成長していくのか、もっともっと伝播していく必要があることを強く感じた。そうすることで、幼稚園の教育を理解して頂き、家庭の遊びにつなげていくことや、幼児期の我が子に必要な環境や関わり方に保護者が気付き子育てに活かすことができると考えた。ついては子どもの幸せにつながるものである。

◆第2回 学校関係者評価委員会

* 自己点検・自己評価の結果を報告書としてまとめ、評価委員会に提出して説明しご意見をいただく。

日時：令和2年3月18日 10:00開始

場所：霧ヶ丘幼稚園 園長室

参加者：学校関係者評価委員

霧ヶ丘小学校 校長 陰平実様

北九州市立 霧ヶ丘市民センター館長 安東布司子様

霧ヶ丘幼稚園保護者 6名

霧ヶ丘幼稚園 園長 淵 和子

主任 吉田江津子

以上 10名

◆成果と課題

<成 果>

- 公開保育という明確な目標に向けて教職員一丸となって「子どもの主体性を育む保育」に取り組んできた。教職員間の対話を大切にしてきたことで、お互いに認め合い、学び合い、同僚性を高められたように感じる。
- 自己点検・自己評価、学校関係者評価について学びを深め、若手保育者に幼稚園における教育課程・指導計画等の位置付けが確認でき、日常の保育もPDCAサイクルが機能し始めたように感じる。
- 教師のスキルは、努力や経験と共に上がり、豊かな保育が展開されている。その成果は、子どもたちの姿で確認できた。自己点検・自己評価でそれぞれが挙げた今後に向けての思いを着実に保育に活かし始めている。

<今後の課題>

- 2年続けて公開保育を実施して自園の保育をふりかえるよい機会を頂いたが、教職員の公開保育へのハードルがまだ高いように感じられる。教育課程や保育を地域や保護者に説明する責任があることや、理解し参画してもらえることの安心感等を伝えていきたい。
- 保育する楽しさを味わい、職員間の対話が弾んだり、部屋の環境構成や翌日の準備に集中したりして、終業時間をオーバーしてしまう日が目立ってきた。子ども達の降園後の研修や話し合いも大切に取り組んで欲しいという気持ちと、結婚、出産しても長く勤められる職場環境作りをしたい気持ちとがある。今、幼稚園には経験値を無駄にしないで成長し続ける保育者が求められている。保育の質を向上させながらも、仕事と家庭との両立できる働き方をどのようにバランスをとっていかかが、今後の課題として挙げられる。

1年次の成果と考察

学校関係者評価を推進するにあたっては園長や主任教諭等指導的立場にある教師によるマネジメントによって組織的に展開していくことが求められる。各園の取組は可能な範囲で保護者・地域に公開していくことを目指していくことが客観性・透明性を高めるために必要なことである。日常の保育を公開することをはじめ、園内研修等を公開型にするなどして内側に閉じた園運営だけでなく、開かれた園運営によって幼児教育を拓くすなわち幼児教育の質の向上を目指すという「方向目標」の地域における共有が今後期待できる。

2 年次

○ はじめに

全日本私立幼稚園連合幼児教育研究機構では、私立幼稚園に相応しい学校評価として ECEQ を開発した。ECEQ とは、Early Childhood Education Quality System の頭文字で、「公開保育を活用した質向上システム」として、各県ごとに徐々に機能し始めている。このシステムの一番の目的は、PDCA サイクルに基づいて組織的かつ継続的な教育活動をしていくことが、幼稚園の質向上に繋がるというものである。本園は、福岡県の ECEQ 公開保育を実施するにあたり、学校評価と関連させながらの実施を考え試みた。

1 主題及び副主題設定の理由

教育課程の見える化と言われて久しいが、地域や一般の方々に幼児教育を理解して頂くのは、大変難しい。保護者も幼稚園で幼児と共にあそびや活動を実体験する経験を積みながら、また幼児の活動をドキュメンテーションで読み、我が子の成長を確認しながら、幼児教育の重要性を理解してもらえるようになる。ついでには公開保育を通して、社会に開かれた教育課程を意識しながら学校評価の実施を試みたい。

2 研究のねらいと方法

(1) 研究のねらい

- 公開保育を通じて自園や自分の良さや課題に気づき、その良さをさらに伸ばしたり、課題解決したりするための方策を見出していく力を付ける。
- 園として教育の質を向上し続けていくための組織風土をつくりあげていく。

(2) 研究の方法

- ECEQ 公開保育に向けて、コーディネーターの事前職員研修や園長へのヒアリングで(園や自分の良さや課題を明らかにする) ⇒ 公開保育準備(自分の課題を参観の視点とした問づくり) ⇒ 公開保育(問を中心に保育を参観し、問にフィードバックした付箋を貼る) ⇒ 協議(各クラスの保育を問いとフィードバックを中心に話し合う)⇒振り返り(公開保育終了数日後、協議の記録を基に振り返る)

学校関係者評価委員にも公開保育に参加してアンケートに答えてもらう(第一回評価委員会)

3 研究の実際と考察

(1) 「PDCA サイクルが卒園式前日、当日まで機能した年長組の保育実践について」

年長組 2月に明らかになったクラスの課題に省察→改善計画→実践を繰り返しながら、卒園式前日当日まであきらめずに PDCA サイクルが機能し続けた結果、集団や一人一人の子どもの豊かな成長が確認できた。

(2) 「若手保育者の自信につながった公開保育」

本園は、保育経験の豊かな担任がモデルとなっているところがあり、若手の保育は中々認められない状況にあり、自信を失うところも多かった。今回は、多様な幼稚園の園長主任クラスの先生方から参観され、付箋に記載されたフィードバックや参観後の協議される中から、自分の保育の良いところを挙げられ、認められるという経験は、保育者としての自信や成長に繋がった。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 年度末の第2回学校関係者委員会では、公開保育(第1回学校関係者委員会)で保育を観て頂いているので、委員会の協議の質が深まり有意義な時間となった。

(2) 課題

- 2年続けて公開保育を実施して自園の保育を主体的に振り返る機会を頂いたが、教職員の公開保育へのハードルが、まだ高いように感じられる。教育課程や保育を地域や保護者に説明する責任があることや、理解し参画してもらえる安心感等も伝えていきたい。
- 保護者参加の後にアンケートを取った。本園の教育を理解して下さっている方々が大半であったが、幼児教育とかけ離れたように感じる回答が少なからずあったので、幼児教育の重要性を伝播していく必要を再認識したところである。

5 本事業に協力園として参加して

今年度管理職の自己評価の課題は、「若手保育者の育成」である。毎年一人から二人の退職入職を繰り返すうちに若手保育者と連携が取れていない部分が明らかになり、学校評価も形骸化されている状況だったと反省した。今回この事業を推進するにあたって、ECEQ 公開保育のシステムを導入し、コーディネーターと共にステップ1からステップ5までのステップを丁寧に踏んでいくことで、例年になく充実した自己評価ができたことと、学校評価に組み込まれた公開保育においては、学校関係者評価委員、外部評価者からの温かい視線や意見に触れたことで、地域に生かされている幼稚園であるという使命を改めて認識することができた。

(学)真観学園 霧ヶ丘幼稚園 園長 淵 和子

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人真観学園 霧ヶ丘幼稚園

1. 本園の教育目標

豊かな生活体験や遊びに幼児が主体的にかかわり、未来に向かってたくましく生きる基盤を育てる

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

- 1、教職員の資質向上にむけての取り組み
- 2、一人一人の発達に応じた指導・援助のため、子どもを理解する力を高める
- 3、子どものしなやかな体作りを意識し、日常の保育の中に取り入れ体力向上を図る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
教職員の資質向上のための取り組み① (自己課題をもち改善するように務めているか)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任数が多い学年(新人3名を含)は、課題やその意味を丁寧に伝え職員間で共有し、改善に取り組んできたことが課題⇒改善の良いサイクルが機能し始めていた。 ・目の前の子どもたちの姿から自分の保育を振り返り、常に課題をもち取り組んできた。その成果が子どもの育ちに見られたことが次の保育への励みになってきている。 ・失敗することがあっても繰り返さないよう自分なりに改善策を見つけ、保育者としての意識を高めているところである。 ・課題に向けて取り組んできたつもりだが、忙しさ等様々な理由で十分に改善に向けて発揮できなかったところもある。
教職員の資質向上のための取り組み② (研修で得たもの保育に活かしているか)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだことは即実践するように心がけてきた。上手くいったこと、いかなかったことなどその理由を振り返り、次の日へ繋がるようにしてきた。 ・研修での学びもあるが、日々の生活の中で、他のクラスの保育を見たり、先輩や同僚と会話したりして自らの課題に気づき保育に取り入れていったことが、自分のスキルアップに繋がったように感じる。(遊びの環境・子ども理解・特別支援等) ・新任研修の中で受けた「子どもの遊びを価値づける」大切さを実感できた。今後もその姿勢を大切にしていきたい。
教職員の資質向上のための取り組み③ (園内・園外研修への積極的な参加)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みや問題が起きた時は、一人で悩まず、先輩や同僚に相談しながら取り組んできたことが自分の学びへと繋がっていった。 ・在宅中での取り組みや期間中に学んだことを伝えあった園内研修は、伝える側も受ける側にもそれぞれの学びがあり、教職員のチーム意識を深める良い機会となった。 ・ZOOM等の研修会が始まった時は嬉しかった。学びを止めてはいけないと改めて感じた。
一人一人の発達に応じた指導・援助のため、子どもを理解する力を高める (子どもを肯定的に認め理解に務めているか)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期の子どもたちの姿から、自己肯定感を高める必要性を感じ、今年度は肯定的な関りを従来以上に大切にしてきた。 その成果として、卒園前の子どもたちの姿に手ごたえを感じる事ができた。 ・子ども一人一人の思いに寄り添い、子どもが安心、安定した園生

		<p>活を送れるように努めてきた。しかし、自分の関りは適切であるかどうか常に自問自答している毎日である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に自分の保育を振り返ると課題が上がってくる。 (関りが少ない子どもとより深く関わること。短所ばかりが目立つ子どもへの理解を深めること等。) そこから次への保育を考えられるようになってきた。 ・子どもを理解するための力を今後も引き続き高めていきたい。先輩や同僚に相談していく中で視野が広がり、子どもの見方が良い方向に変わってきた。 ・教師という存在は子ども達にとって最大の環境である。 (担任の気持ちが子ども達に大きな影響を与える。常に気持ちにゆとりをもつこと。ここは課題である。)
一人一人の発達に応じた指導・援助のため、子どもを理解する力を高める (気づきのメモ等の記録をとり、保育や援助に活かしているか)	C	<ul style="list-style-type: none"> ・職員数の多い2歳児クラスは、各クラスに誰でも記入しやすいメモを設置。そのメモは子ども理解に大いに役立っている。 ・記録を元に取り組んできたことが子どもの育ちにつながった時に改めて記録の重要性を感じた。 ・日々の忙しさに追われ、慌ただしく過ごし、メモすら取れず、記録が少なく指導要領を記入する時悩むことがあった。 ・後でつけようと思っても細かな部分を忘れてしまう。即メモをとる習慣をつけていきたい。
子どものしなやかな体作りを意識し、日常の保育の中に取り入れ、体力向上を図る	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを中心とする身体活動を十分に取り入れてきた。 楽しく体を動かすことを体験した子どもたちは、以降の活動にも積極的に参加し、体力向上に繋がっていた。 ・園外保育での歩く体験、柔軟運動を意識した室内での遊び、園庭や広い場所での鬼ごっこ、タイヤ引き、可動遊具を使つての遊び等、様々な遊びの環境を整えていった。 その成果か、日ごとに子どもの体幹がしっかりしてきたように感じ、大きなケガなく過ごすことが出来た。 ・自粛明けの子どもからは『疲れた』という言葉がよく聞かれたが、現在はほとんど聞かれない。 ・しかし、個人差は大きい。また人や物にぶつかることはある。幼児の発達を踏まえながら力の加減をコントロールしていけるような遊びを工夫していきたい。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A: 達成している B: 一部達成している C: 一部改善を要する D: 改善を要する

評価	理由
B	<p>・コロナ禍ではあったが、園長のリーダーシップの元、職員全員が保育に真摯に取り組み、それぞれが成果を感じ、新たな課題を見出している。一昨年より学んだ、(目の前の子どもの姿からの) PDCA サイクルを保育に活用することが定着してきたように思われる。</p> <p>また、研修会が少なくなってきたことが影響し、経験値の高い教師ほど現状に甘んじず、常に自己研鑽に努める傾向が見られ、若い教師においては同学年での教師間や先輩教師の保育を観て気づいたことを実践したり、先輩教師に相談したりと教師相互の対話を通じた学び合いが保育の質向上に繋がっていた。これからも良い意味で同僚性は高めていきたい。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・幼児のしなやかな体作りは、転倒などのケガが減るなど成果が見られるので、今後とも取り組みたいと思う課題である。 ・記録の活用においては、習慣化していないことに大きな課題が残る。さらに園全体で重点的に取り組む必要がある。
--

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の在り方 幼児への対応	幼児一人一人を肯定的に認め理解につなげることへの成果が見られ始めた。 次年度は、より丁寧に関わり、幼児の自己肯定感を更に高めていけるよう教師の意識（幼児の人権に配慮した関り）の見直しをはかりたい。
幼児理解に活用できる記録の状況	記録の重要性は痛感しているが、どうしても目の前のことに追われてしまう。 とっさに記録する時は機会を活用する、就業時間内に記録のための時間をもつ等考えていきたい。
組織運営	大きな行事の前になると幼稚園全体が慌ただしくなる。気持ちにゆとりが持てるようにするにはどうしたらよいか、教師全体で現状を考え、行事の見直しも含めた計画的な仕事配分への取り組みも考慮していく必要がある。

6. 学校関係者評価委員会の評価

公開保育や自己評価の報告から、子どもが幼稚園で大切に育てられていると実感することが出来た。今年度は、コロナ渦の対応に苦慮される中、子どもも保護者も教職員も様々な思いで過ごしてこられたのだろうと推察される。どんな中でも目の前の子ども達の成長を願い、(様々な葛藤はあっただろうが)保護者と幼稚園が理解し合い、協力して子どもを育てて頂けることが望ましいと考える。

子どもの運動能力の向上は生涯にわたっての健康への意識や運動に対する意欲につながる。これから豊かな人生を送るための基盤となる大切な課題であるので、これからも意欲的に取り組んでいって欲しい。

コロナは、人々の様々な生活に影響を及ぼした。特に子どものステイホームからのメディア依存は更に深刻になってきている。子ども達の心身の健康への影響が危惧されるところであるので、今後も啓発に努めて欲しい。

委員会実施日 令和 3年 3月 3日

学校関係者評価委員
学校関係者評価委員
学校関係者評価委員
学校関係者評価委員
学校関係者評価委員

2 幼児教育アドバイザー訪問報告

目的) 私立幼稚園の教育運営は、各々の見学の理念や独自性が存在し、一律に行われてはいない。それぞれが自園の良さを確認しつつ地域や保護者の実情を鑑みながら推進されている。よって幼児教育の内容指導のニーズは同じではなく、その園に合わせた指導援助が必要となる。

方法) 本事業の中でアドバイザーの役割を担う役割を設定し、4つの協力園の定期的な訪問を行い、教育活動の改善や円滑な学校関係者評価の推進を助言していく。

●報告1

令和元年度「幼児教育の質の向上のための評価支援実施事業」

事業協力園への訪問、協議を通して報告

1 「学校評価」「学校関係者評価」についての各園の受け止めや現状について

- ・各園の取組状況が大きく異なっていたという実態があった。
- ・「評価」という文言に対して「外部から指摘される」「私学としての独自性がそこなわれる」という思いが、「園を開く」ことへの抵抗感につながっていた。
- ・教職員が学びを共有する時間や場をもつこと自体が難しく、保育を実践する先生方に、日々の保育実践との関係性の理解が十分ではない現状があった。

2 事業協力園への訪問、協議を通しての成果について

- ・『私立幼稚園のための学校関係者評価参照書（H22・3）』を活用して理解が深まった。
- ・学校関係者評価の目的と意義を十分に周知するとともに、教職員全体で目的を共有するために場や時間を確保する努力がなされた。
- ・園を取り巻く環境を視野に入れた学校関係者評価委員の選定や学校関係者評価委員会の開催等の実現に向けて「園が動いた」ということが大きな成果であった。

3 各協力園の取組の実際について

<霧ヶ丘幼稚園>

- ・公開保育の実施は、自分の保育観や実践の振り返りになり、教師自身が自己課題をもち実践していくという、保育の質を向上させる評価体制につながった。

<曾根ひかり幼稚園>

- ・研修参加者が研修内容を伝えるということに留まりがちだったこれまでのあり様から、年限の発達の過程に応じて内容の取扱いや実態に応じた保育の展開をしていく等、工夫改善をし、研修内容が保育実践に生かされ、保育の質向上につながった。

<聖ヨゼフ幼稚園>

- ・「園を開く」にあたって、保育を通して園の独自性を丁寧に説明していく努力がみられた。そのことは、保育者が子どもの主体的な活動を重視した保育の展開を工夫しようとする意欲や実践力につながった。

<こみね幼稚園>

- ・教職員の「自己点検・自己評価」の実施に向けて時間を確保し、一歩ずつ進めていくための手順や具体について話し合い共通理解していった。「チーム・こみね」を一人一人が自覚し、教育目標を意識した保育実践に取り組もうとする気持ちにつながった。

4 「協力園訪問」という取組を終えて

- ・訪問者は「私学の独自性をよりよく発揮するために一緒に考え合う」という立ち位置であることが理解されると、園の困り感をたたき台に話し合っていけるようになった。
- ・課題解決に向けては、「自園」の考えだけにこだわっていることへの気づきや、新たな取組への挑戦意欲を喚起する役割を担う「人」が必要であったと考える。

●報告2

令和2年度「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」

訪問要請園への訪問実施（20回）を通して報告：古賀和子

1 訪問実施の経緯について

(1) 訪問要請園の要望から

- ① 保育の質の向上につながるように保育実践を通しての指導助言
- ② 継続した訪問
- ③ 振り返り会を職員の学びの場にするために参加しやすい時間の確保

(2) 各訪問要請園への訪問の実際について（詳細は別途資料 P105～P111参照）

<むつみ幼稚園>

園長・主任と懇談、3歳児学級保育参観・協議、5歳児学級保育参観・協議

<霧ヶ丘幼稚園>

園長・主任と懇談、3歳児学級保育参観・協議

<東筑紫短期大学附属幼稚園>

園長・主任と懇談、4歳児学級保育参観・協議、5歳児学級保育参観・協議

<上津役幼稚園>

園長・主任と懇談、3歳学級保育参観・協議、5歳児学級保育参観・協議

<こみね幼稚園>

園長・主任と懇談・令和元年度の取組を踏まえた令和2年度の取組について

2 要請訪問実施の成果（○）と訪問者としての取組を終えて（◇）

○保護者の保育参観と違い、園の保育実践を「園外の人が見る」ことに、園も保育実践者もとても緊張感があった。訪問の継続は、園内でなかなか時間の確保が難しい「保育実践を通して学び合う機会」という捉えに変わっていき、今後の園内研修の在り方として、活用が期待される。

○指導案を書き、ねらいを意識して保育し、事後の協議会において、自分の保育の振り返り（保育の評価）を自分の言葉で伝える。保育を公開することで「できた・できない」ではなく、発達の過程・環境の構成・教師の援助等の在り方について「考え合う」きっかけとなっていた。また、自園の課題や願いを共有することにつながったと考える。

◇自分の保育を客観的にみてもらい、自分では意識していなかった子どもへの言葉かけや具体的な援助の「よさ」を価値づけられることで、自信がもてるようになっていく若年教諭の心情が受け止められた。

◇「園を開くことで得た自園の取組のよさや改善点への気づきが多かった」という訪問園からの感想があった。共に語り合い共に課題を一つずつ克服していく役割が幼児教育アドバイザーにあると考える。私学は公教育を担うという立場からも、自園の建学の精神や独自性を発揮して、地域や保護者に信頼される園となっていくために「園を開く・保育公開する」ことが求められていると感じている。

【No.1】令和2年9月10日(木) 10:30~11:30

事業名	令和2年度 幼稚園教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究 (幼稚園における学校関係者評価に関する調査研究)
訪問記録	報告者：古賀和子
訪問園	(学) むつみ幼稚園
訪問日	令和2年9月10日(木)
時間	10:30~11:30
帯同者	北九州市私立幼稚園連盟 教育研究委員長 高原恵子先生
訪問園 対応者	園長：井上裕子先生
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の事業内容(取組)の共通理解 事業2年次の取組について定例会(本年度事業計画)の内容の確認について 昨年度の学校関係者評価結果報告書をもとに、園の概要理解 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の「重点的に取り組む目標・計画」から ①指導計画の捉え直し、丁寧な保育をすすめる ②全職員で幼児一人一人を受け止め共通理解する ③様々な手段で保護者に園行事や保育内容を伝え、保育を理解していただく ・昨年度の「評価項目の達成及び取り組み状況」から ①保育の在り方 ②教師の資質や保育の質の向上 ③保護者への対応 ・昨年度の「幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果」から ・昨年度の「今後取り組む課題」から ①職員間の協力 ②地域との連携強化 ③教職員間の協力と教師のスキルアップ
本年度の 取組の 主な手順	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な今年度の取組の方向性 <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価担当者の設定 ・今年度の学校関係者評価の実際 自園理解(建学の精神・園としての持ち味) 教職員で共通理解 ◎自園の教育理念の特長を継承し課題を改善する ・今年度の重点目標の設定 教職員の自己点検・自己評価についての項目等共通理解 学校関係者評価委員 年間計画(予定表)の作成、周知 ◎学校関係者評価アドバイザーの訪問に係る重点目標の設定
次回訪問	2回目：令和2年10月13日(火) No.7・10:30~11:30(保育参観) No.8・15:00~16:00(振り回り会)

【No.2】令和2年9月10日(木) 15:00~16:00

事業名	令和2年度 幼稚園教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究 (幼稚園における学校関係者評価に関する調査研究)
訪問記録	報告者：古賀和子
訪問園	上津役幼稚園
訪問日	令和2年9月10日(木)
時間	15:00~16:00
帯同者	なし
訪問園 対応者	園長：北関智佐先生
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の事業内容(取組)の共通理解 ・事業2年次の取組について定例会(本年度事業計画)の内容の確認について ・昨年度の学校関係者評価結果報告書をもとに、園の概要理解 ○ 昨年度の今後取り組む課題から具体的な今年度の取組の方向性 <ul style="list-style-type: none"> ①地域との連携強化 ②指導計画の捉え直しと丁寧な保育の推進 ③教師の資質や保育の質の向上 ④教職員間の協力と教師のスキルアップ ○ 具体的な手順の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価担当者の設定 ・今年度の学校関係者評価の実際 自園理解(建学の精神・園としての持ち味) 教職員で共通理解 ◎自園の教育理念の特長を継承し課題を改善する ・今年度の重点目標の設定 教職員の自己点検・自己評価についての項目等共通理解 学校関係者評価委員 年間計画(予定表)の作成、周知 ◎学校関係者評価アドバイザーの訪問に係る重点目標の設定
本年度の 取組の 主な手順	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の重点目標の設定 ・重点目標に関わって、学校関係者評価アドバイザーの訪問、研修日の確保・実施 ・コロナ禍における地域との関わり ・発達の連続性からカリキュラムの見直し
次回訪問	2回目：令和2年10月20日(火) No.9・10:30~11:30(保育参観) No.10・15:00~16:00(振り回り会)

【No.3】令和2年9月11日（金） 10:30～11:30

事業名	令和2年度 幼稚園教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究 (幼稚園における学校関係者評価に関する調査研究)
訪問記録	報告者：古賀和子
訪問園	認定こども園筑紫短期大学附属幼稚園
訪問日	令和2年9月11日（金）
時間	10:30～11:30
帯同者	なし
訪問園 対応者	小島園長先生 吉田先生 富田先生
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の事業内容（取組）の共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・事業2年次の取組について定例会（本年度事業計画）の内容の確認について ・昨年度の学校関係者評価結果報告書をもとに、園の概要理解 ○ 昨年度の今後取り組む課題から具体的な今年度の取組の方向性 <ul style="list-style-type: none"> ①認定こども園としてのカリキュラムの見直し・改善 ②指導計画の捉え直しと丁寧な保育の推進による子どもが遊びこめる環境づくり ③保育公開による保育実践を通じた教師の資質や保育の質の向上 ○ 具体的な手順の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価担当者の設定 ・今年度の学校関係者評価の実際 ・自園理解（建学の精神・園としての持ち味）教職員で共通理解 <p>◎自園の教育理念の特長を継承し課題を改善する</p>
本年度の 取組の 主な手順	今年度の重点目標の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標に関わって、学校関係者評価アドバイザーの訪問、研修日の確保・実施 ・「ちくしのこころ」の具現化を意識した保育実践 ・コロナ禍の保育の在り方やワークライフバランスを考慮した効果的でかつ効率的な指導計画作成や振り返りの持ち方、記録の在り方
次回訪問	2回目：令和2年10月22日（木） No.11・10:30～11:30（保育参観） No.12・15:00～16:00（振り返り会）

【No.4】令和2年9月11日（金） 15:00～16:00

事業名	令和2年度 幼稚園教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究 (幼稚園における学校関係者評価に関する調査研究)
訪問記録	報告者：古賀和子
訪問園	(学) 谷川学園 こみね幼稚園
訪問日	令和2年9月11日（金）
時間	15:00～16:00
帯同者	北九州市私立幼稚園連盟 (学) 真観学園 下上津役幼稚園 副園長 岩佐 妙子先生
訪問園 対応者	谷川 徹治先生 谷川 美津子先生
本日の 主な内容	○ こみね幼稚園の具体的な2年次の取組について教職員で共通理解するための資料作成について <ul style="list-style-type: none"> ・内容の検討
具体的な 内容	○ 資料の内容について（以下でよいか内容の検討をする） <ul style="list-style-type: none"> ①学校関係者評価担当者を決める。 ②1年次の取組の成果と課題について、教職員で共通理解する。（手だて） <ul style="list-style-type: none"> ・主任が時系列で整理し作成したプレゼンを、教職員全員で見える園内研修の機会を確保し、1年次の取組の成果と課題を共有する。 ・自己点検・自己評価」に取り組んだことで得られた「先生たち自身の気持ち」について、ラベルワークをし、意見を出しやすい場づくりをする。 ・1年次の取組を通じた「学校関係者評価」の実施について園長の思いを話す。 ・今年度の重点目標を共通理解する。 <p>保育者が自らの保育実践を振り返り、自己評価を行うことによって、日々の保育実践の改善を図る。</p> <p>（このことを通して、子どもの育ちや学びをとらえ、幼児理解を深めること によって、自らの保育の長所や課題に気付く。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修日の定期開催については、場や時間を確保する。
次回訪問	2回目：令和2年9月18日（金） 10:30～11:30



【No.5】令和2年9月18日（金）10：30～11：30

事業名	令和2年度 幼稚園教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究 (幼稚園における学校関係者評価に関する調査研究)
訪問記録	報告者：(令和2年度幼児教育アドバイザー) 古賀和子
訪問園	(学) 谷川学園 こみね幼稚園
訪問日	令和2年9月18日（金）
時間	10：30～11：30
帯同者	北九州市私立幼稚園連盟 (学) 真観学園 下上津役幼稚園 副園長 岩佐 妙子先生
訪問園 対応者	谷川 徹治先生 谷川 美津子先生
本日の 主な内容	○ 学校関係者評価担当者（主任）作成の園内研修資料（ブレゼン）の内容検討 特記：このブレゼンは、令和2年度事業で行われるシンポジウムにおいて（9月25日（金）第1回シンポジウム）において1年次事業協力園であった「こみね幼稚園」が提案発表することとなった。そこで、この園内研修資料を提案発表内容とし、取組を周知する。
具体的な 内容	○ 資料（ブレゼン）の内容について、検討、加除修正、確定 ①検討 ②加除修正 ③確定 ○ 提案の軸：取組のありのままを伝えよう ・無理をすると「チーム・こみね」にならない ・「はじめのいっばい」であることを恥じない 「ここから」を大事にしたい ・継続に必要なことを「チーム・こみね」で共有して、「次の一步（二歩目）」を歩みだそう



【No.6】令和2年9月28日（月）10：30～11：30

事業名	令和2年度 幼稚園教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究 (幼稚園における学校関係者評価に関する調査研究)
訪問記録	報告者：古賀和子
訪問園	霧ヶ丘幼稚園
訪問日	令和2年9月28日（月）
時間	10：30～11：30
帯同者	なし
訪問園 対応者	淵園長先生 吉田先生
	○ 今年度の事業内容（取組）の共通理解 ・事業2年次の取組について定例会（本年度事業計画）の内容の確認について ○ 昨年度の今後取り組む課題から具体的な今年度の取組の方向性 ①教職員の資質向上にむけて ・自分なりに考え目標をもった保育実践 ・若年教諭を支える体制づくりの工夫 ・子ども理解を基盤にした保育の展開 公開保育を通じた保育者の力量（ ②保育公開による保育実践を通じた教師の資質や保育の質の向上 ・若年教諭の保育公開 ・保育観や保育実践力の向上 ○ 具体的な手順の確認 ・学校関係者評価担当者の設定 ・今年度の学校関係者評価の実際 ・自園理解（建学の精神・園としての持ち味）教職員で共通理解 ◎自園の教育理念の特長を継承し課題を改善する
本年度の 取組の 主な手順	今年度の重点目標の設定 ・重点目標に関わって、学校関係者評価アドバイザーの訪問、研修日の確保・実施 ・新規採用教員の保育実践を学び合いの場の確保
次回訪問	2回目：令和2年11月6日（金） No.17・10：30～11：30（保育参観） No.18・15：00～16：00（振り返り会）

【No.7】令和2年10月13日（火）10：30～11：30 【No.8】15：00～16：00

2020・10・13（火）むつみ幼稚園 園内研修
4歳児 ばら1組 保育実践を通して

古賀より
保育公開
ありがとうございます

1 本日のねらいについて

- ・各コーナーの素材や遊具で遊ぶことをとおして、幼児に育てほしい内容となっている。
- ・ねらいの主語を書くと、1、3は「一人ひとりの幼児が」であり、2、4は「友だちと」である。

※ その視点をもって幼児の実際の遊びの様子をみていくことが大切。

※ すると、評師の視点がはつきりしてくる。「4歳児の「ばら1組」の「10月第3週」のねらいとして 2にある「工夫したり協力したり」と、4にある「出し合ったり遊びを共有したりしながら」というところはとうとうであったか、幼児の遊びのみとよりから評価し、カリキュラムの改善につなげていくことが大事。

2 遊びのみと（発達のとらえ）について

- ・「遊びに取り組んでいるかどうか」という姿を確認していくことではなく、『どのように遊んでいるか』『どのような思いで遊んでいるか』『どんな表情や行動をし、言葉のやりとりがあるか』『遊ぶか』などを遊びに寄り添うことで、遊びをみて（発達をとらえて）いくようにする。

3 そのためには、じつくり幼児が遊びに取り組んでいる様子をみようとする。

- ・「何をしよう」とし、どうしたいと思っているのかな」ととらえ、「ねらい」にむけて、「この子は」「あの子には」「あの子たちには」どんな援助をしていこうか」と考えながらかわるることが大事。

【写真を通して】考えてみましょう

- 1 枚目：園庭で「ここにカマキリがいた」という言葉で心が動く。今までの虫との関わりの経験から「～かもしれない」という推論で行動している。
- 2 枚目：園庭で：砂を盛り上げているうちに感じた砂の感触から「手洗い」の真似。その後、赤フルイで「サラ砂」「粒砂」「赤い砂」と発見、探究的に遊びを楽しんでいる。
- 3 枚目と4枚目：「自分なりのこうしたいという思いをもち」「実現のために素材を選び」「根気よく」「作り上げていった」発達の姿がとらえられる。
- そして、この子たちには「自分に自信をもつ」ということにつながる援助（価値づけ）が今後必要。友達の中でも自己発揮できるように願いながら。
- 5 枚目：この3人は、遊びが変わっても一緒に活動している。今後は友達関係のあり様に着目。互いが自分の思いを出し入れたり受け入れたりできる関係性であるが見守りながら。
- 6 枚目：自分の「思いを文字であらわす」、「正しく書こうと文字表で確かめる」、「相手意識がある」ので「丁寧に色をぬる」などの発達の姿がとらえられる。

※7枚目について：

この写真（状況）から、子どもたちにどんな力が育とうとしているか、考えてみましょう。

【No.9】令和2年10月20日（火）10：30～11：30 【No.10】15：00～16：00

2020・10・20（火）上津役幼稚園 園内研修
ひよこあか・ひよこあお 保育実践を通して

古賀より
保育公開
ありがとうございます

絵本の読み聞かせや運動会ごっここの延長線上に、子どもたちが喜んで活動に取り組んでいけるような環境が遊戯室に設定されています。

保育室から遊戯室に移動する間も、わくわく感があり、子どもたちは本当に楽しい時間を過ごしたいと思います。

本日のねらいについて

- ・日案の「全身を使った遊びを楽しむ」という「ねらい」を達成するための手立てが「教師や友達と一緒に」ということですね。この時期は「なんだか面白そう」「ほくもやってみよう」「わたしだって」という気持ちが高まっています。「先生と一緒にだから」という拠り所が幼児にとっては「頑張る気持ち」に向かう一番のポイントです。今日の幼児の姿にもよくあらわれていましたね。
- ・保育の評価では「教師の関わり方は適切であったか」「環境の構成はふさわしいものであったか」「あらかじめ教師が設定した指導の具体的なねらいや内容は妥当なものであったか」などについて
- ・本日の保育の実態を下記の視点で保育を振り返り、異年齢の先生方と共有していくことがとても大切です。それは年齢が上がらば「リセットして治まる」ことではなく、発達の「連続性」をもって保育をつないでいくことが何より重要だからです。このような機会を活かし、同僚性を発揮して意見交換し、幼児理解を深めていきましょう。

【写真を通して】振り返ってみましょう

- 1 枚目：身近な環境を生かす
- ・発達に応じた環境の構成
 - ・主体的な活動の誘発
- ◆ 「語り掛ける環境」「問いかける環境」
- 2 枚目：「環境を通して行う教育」を写真からとらえてみよう
- ・大・中・小・特小などある中で本日の保育で選んだのは、「中」
 - ・各道具の配置
- ◆ 遊びを楽しみながら、幼児にどんな力が育ってほしいと願いながら環境を構成するのか
- ◆ 年限が違ったらどのように考えるか
- 3 枚目：「自立（の芽生え）」をとらえ、「つないでいく」ということを大切にしよう
- 4 枚目：5枚目
- ・実際の遊びの姿を写真で改めて見てみよう
 - ・幼児の目線や体の動き等に着目して見てみよう

【No.11】 令和2年10月22日（木）10：30～11：30 【No.12】 15：00～16：00

2020・10・22（木）東筑紫短期大学附属幼稚園 園内研修
5歳児 さくら1組・さくら2組 保育実践を通して

古賀より
保育公開
ありがとうございました

本日のねらいについて

- ・本日の「友達と協力し合って制作活動に取り組み楽しさを感じる」という「ねらい」の、「協力し合って」というところ、5歳児にとって重要な「育ちに向かう姿」を捉えるポイントがあったと思います。が見られていた。
 - ・保育の評価では、「教師の関わり方は適切であったか」「環境の構成はふさわしいものであったか」「あらかじめ教師が設定した指導の具体的なねらいや内容は妥当なものであったか」などについて、振り返り評価するとともに、そこに、「価値づける」ということをいつも意識していくことが大切です。
- 具体的な場面を、言葉で伝えていくことで、一人一人のよさも伝わっていきますね。

【写真を通して】振り返ってみましょう

- 1枚目：一つの遊びに向かって取り組んでいくということについて
「これを作らない」という思いはある。作り始めると、自分の思い（こうしたい）があり、「話し合って」ということより、もくもく作っていく様子がみられた
- 2枚目：教師のかかわりから
自分なりの考えを実現させて取り組んでいるが、「どうしたいのかな」「お友だちの考えも聞いてみようか」等の問いかけがあることで、ふっと考える姿があった。
- 3枚目：友達関係のありようは
自分のできることを、知っていることを丁寧に教えている姿があった。
- 4枚目：5枚目
「友達と共通の目的に向かって」を意識した取組
役割を分担したりしながら協力して取り組む姿があった。
自分だけで推し進めていくのではなく、自分と友達の作っているものの関係性が理解できている様子がみられた。
- 6枚目：「優しさ」を価値づけよう
大きく縁に沿って切ると切ることが少し難しいA子に対して、自分のハサミではなく、A子のハサミで切っていた姿に参観者として感動した。A子も「してもらおう」のではなく、紙をしっかりと持ち、しっかりと見て「一緒に」取り組んでいる姿があった。この双方の心の育ちをしっかりと価値づけしていくことが大切だと感じた。

【No.13】 令和2年10月23日（金）10：30～11：30 【No.14】 15：00～16：00

2020・10・22（木）東筑紫短期大学附属幼稚園 園内研修
4歳児 ばら組・きく組 保育実践を通して

古賀より
保育公開
ありがとうございました

本日のねらいについて

- ・4歳児の保育の難しさを感じました。まだまだ、「先生・先生」と言っています。先生が来てくれて、先生と一緒に遊ぶと嬉しい、でも、自分でやる力も十分にもっていません。発達の違いも大きくなっていて、教師が気付かないこともあるかもしれません。言葉で理解させようかと思っています。思い込んでいると、子どもの姿、特に表情をよく見ながら思いを受け止めて行きます。
- ・「遊びに必要なものを作ったり工夫して遊んだりする」ためには、教師も一緒に仲間になり楽しんで、遊びに必要ないものを投げかけたりしていくことが重要です。答えを示すのではなく、この時期、「そうか」「そうか」「じゃあ、こうしようか」等、子どもなりに思いを言葉や行動に出していき、るように問いかけがかわっていくことが大切だと思います。

【写真を通して】振り返ってみましょう

- 1枚目：眼差しや表情から思いをうけとめよう
「どうしたらいいかなあ」と悩みながらも周りをみて、自分なりに解決しようとしている様子をみてどこをどのように援助していったら良いかみんなで考え合ってみよう。
- 2枚目：長い時間かけて、自分でやり遂げていった姿をとらえ、価値づけよう。
達成感を教師も共有しよう。「がんばりをみていたよ」という教師からのサインは、子どもにも自信と意欲をつけるきっかけになると思っただ。
- 3枚目：「友達と一緒に」の姿の中に、「分担して取り組む」姿もあった。
友達同士のやり取りを把握することで、関係性や言葉での伝え合いの様子が受け止められた。
- 4枚目：5枚目
「友だちは何をしているのだろう」「どんなやり方をしているのだろう」等、興味をもって関わっていくとすると姿を受け止めよう。
- 6枚目：「やっぱり先生と一緒に楽しい」を受け止めよう
先生の動きを子どもたちはよく見ている。「なんか面白そう」と感じて、自分も一緒にしてみようと思う気持ち、発見や工夫を生み出していると感じた。

2020・10・27（火）むつみ幼稚園 園内研修
5歳児 さくら1組 保育実践を通して

古賀より
保育公開
ありがとうございます

園長先生をはじめ、同僚の先生ばかりでなく、学校関係者評価委員の校長先生、市民センター館長さんが参観される中で、本当に落ち着いて保育をされていました。

むつみ幼稚園の日々の保育が、「子どもとともにある保育」であるからだと思います。子どもたちと先生の互いの信頼関係から「いつものように」ができるのだと思います。

本日のねらいについて

- ・ 週案の「…共有しながら遊ぶ楽しさを味わう」という「ねらい」は、5歳児にとって重要な「育ちに向かう姿」です。お部屋さんごっこ「コーナーのねらい」にはここが反映されています。
- ・ 保育の評価では「教師の関わり方は適切であったか」「環境の構成はふさわしいものであったか」「あらかじめ教師が設定した指導の具体的なねらいや内容は妥当なものであったか」などについて、振り返り評価することが大切です。
- ・ また、遊びに表れた姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）からとらえることも、5歳児のこの時期に重要なことだと思います。
- ・ 本日は保育の実践を複数の教師と共有しています。このような機会を活かし、同僚性を発揮して意見交換し、幼児理解を深めていきましょう。

【写真を通して】振り返ってみましょう

- 1枚目：子どもたちとの前日の遊びの振り返りから、今日の遊びの場が設定された。
「お店の人になりたい」幼児がどっとあつまった。子どもたち自身はそうした状況の中でどのように遊びに取り組んでいくのか見守り、状況に応じた教師の援助がみられた。
話しを「よく聞く」5歳児の育ちの姿も見られた。
- 2枚目：じっくり取り組んだり、自分なりの考えを実現させて取り組んだりしながら、満足感と達成感を味わいながら遊びを楽しんでいる。（カードをしている幼児の後ろの机でも、国旗づくりに取り組む男児と女児がいる。女児は教師の援助を受けて遊びに取り組んでいたが、3枚目の姿とのギャップがみられていた。）
- 3枚目：年長児のこの時期（5歳児後半）だからこそ、友達関係のありように心をかけて見守っていくことが大切になる。
（気が合い遊びを高め合う関係性・追従的な関係性・他児の幼児を受け入れる、受け入れない等の関係性）など、朝の遊びの中でじっくりみとり、個別に対応している。）
年長児のこの時期（5歳児後半）：「友達と共通の目的に向かって、遊び方を考えたり、役割を分担したりしながら協力して遊ぶ」気持ちを育てたい。
- 4枚目：むつみ幼稚園の教育方針の一つに位置付けられている「縦割り保育活動」の成果が朝の遊びの姿にしっかりと出ている。
今年長児が年中・年少児を見つめる目や思いを聞こうと寄り添う姿があらちでとらえられた。

2020・11・6（金）霧ヶ丘幼稚園 園内研修
3歳児 りす1組 保育実践を通して

古賀より
保育公開
ありがとうございます

まず、新採の先生にとって、先輩の先生とのTTでの学級経営がなされていることは、なんて豊かな教職一年目を過ごすことができるだろうと思いました。

幼児たちへの教師の応答的な言葉かけや遊びへの関わり方など、『見て・聴いて・感じて・まねて・とらえて・やってみる』ことができ、学びとれていくのですから。

＜保育の評価（振り返り）＞

- ・ 「教師の関わり方は適切であったか」
「環境の構成はふさわしいものであったか」
「あらかじめ教師が設定した指導の具体的なねらいや内容は妥当なものであったか」
などについて、振り返ることが大切です。
- ・ このことが、「そこで、明日は」と「ねらいと内容」が明確になります。
- ・ また、遊びに表れた姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）からとらえるという視点から振り返ることも大切だと思います。
（砂とかかわって遊ぶ姿や「どんぐりむらのはんやさん」にかかわる遊びを楽しむ姿から）

＜本日の保育の振り返りのポイント＞

- ・ 「思い」を残すと遊びはつながる…こうしなかった・まだやめたくない・どうしよう等
片付けの時間になった→あっけなく作ったものや遊んでいた場をこわす（片付ける）でよいかな
幼児の気持ちを揺さぶる（思いを確かめる）問いかけも必要
- ・ 「見立て」が十分にできる「モノや場」があると遊びは広がる
とてもよく環境が整えられていたと思う。幼児の「自分から」の姿を誘発していた。
・ 遊びの「過程」にかかわると「価値づけられる」（意欲や心情の価値づけ）
自分でやってみようとしていたね・何回もやってみていたね・そうやって考えていたね 等

【写真を通して】振り返ってみましょう

- 1枚目：2枚目は
・ 砂との関わり ・ 友達とのやりとり ・ 考えたり試したり ・ 達成感 等の視点から
- 3枚目：友達のかかわりの姿から
・ 言葉のやりとり ・ イメージの共有のあり様 などの視点から
- 4枚目：環境の構成や教師の援助から
・ 「見立て」「つもり」を誘発する環境 ・ 温かまなまざしや共感的な応答

【No.19】令和2年11月10日（火）10:30~11:30

2020・11・10（火）上津役幼稚園 国内研修

5歳児 保育実践を通して

保育公開
ありがとうございます
古賀より

コロナ禍、地域の施設や小学校との交流活動はできなくなっていた中で、「どんな方法ならやれるか」について年長組教師たちが考え、工夫し、子どもたちに投げかけ、実現させていったことが何より素晴らしいことだと思います。

- 1 本日のねらいについて
 - ・「近隣の老人福祉施設を訪問し、自分たちができなくて、喜んでもらいたいという気持ちを語りで表現しようとする」ということが、実際に訪問し建物の3階からも顔を見つけて拍手を送ってくださる年長者の姿を見ることで、子どもなりに感じるところが多くあったようでしたね。とても、張り切って、大きな動作でどの子どもも踊っていましたね。
 - ・感じ取るということを大切にしたい保育実践だったと思います。
- 2 事後の様子について
 - ・園に戻ってから、話し合い、意見を言い合うことが5歳児にとって大きな学びの場になったと思います。また、「自分がしたことで喜んでもらえた」ことは自己肯定感を育むことになっていったと感じました。
 - ・「つながる」ために、教師が「つなぐ」手だてをとっていくことが、とても大切ですね。

【写真を通して】振り返ってみましょう

- 1 枚目：「体験する」ということの意味について改めて考え合ってみよう
施設の前庭で踊りを踊らせてあげよう、「元気になってね」の思いを伝えようとして活動していた子どもたちの姿に感動した。
- 2 枚目：「思いをつなぐ」保育活動について考え合おう
 - ・訪問で終わり、よく頑張ったね、で終わりではなく、子どもたち一人一人が、今体験して感じた思いを言葉にして、具現化していくよう手だてをとることが大切で、各クラスとも、実践されていた。

【No.20】令和2年11月18日（水）16:00~17:00

2020・11・18（水）上津役幼稚園 国内研修

保育後の研修会の時間の確保
ありがとうございます
古賀より

1 職員で共有することの意味を考え合おう

- ・ 預かり保育他、多様な保育形態で子どもたちを預かっている現状の中で、研修会の時間を確保してくださった園長先生にまず、感謝したいと思います。
- ・ 日々の保育実践において、様々な問題を抱えていてもなかなか共有する場や時間がないのが現実です。

2 他学年の実践に学ぼう

- ・ 5歳児の施設訪問の実践をたまたぎに、保育について考え合うことができたことは自分の保育を振り返り返るポイントを理解し、日々の保育に生かそうとするきっかけにもなったと思います。
- ・ 5歳児の取組を知ることは、5歳児の思いを知ることになり、担任だけではなく園の皆が年長児へ言葉をかけ価値づけることで、5歳児の育ちを促すことにつながることを意識しましょう。

3 「チーム・上津役」を意識しよう

- ・ 日々の保育実践は園の教育目標、育てたい子ども像に向かっていくことを意識し、共通理解していくことが大切です。教育課程、指導計画、日々の保育のつながりを考え合う教師集団になることが、「チーム・上津役」で子育てすることになると思います。教師自身も一人で悩まず、仲間に援助を求めましょう。

3 研修会報告（一部）

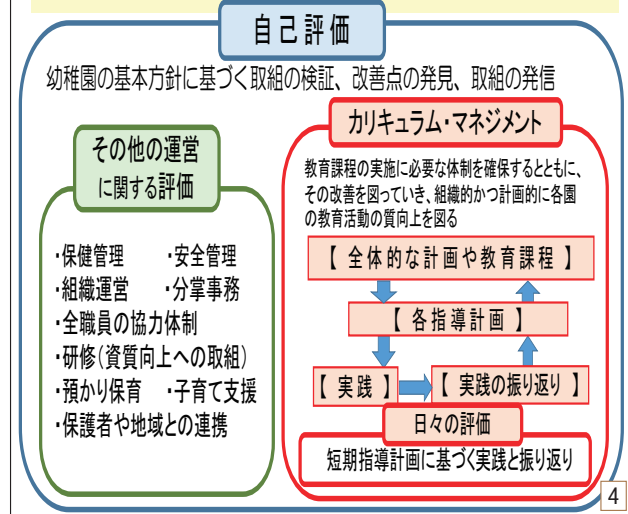


学校関係者評価の意義と具体的な推進について

岡上直子

1

学校評価（自己評価）の流れ



4

学校評価の目的

- 各園が、自らの教育活動その他の園運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や取組等を評価 ⇒ **組織的・継続的改善**
- 自己評価及び学校関係者評価の結果の公表・説明により、説明責任を果たす ⇒ **園・家庭・地域の連携協力による園づくりを進める**
- 各園の設置者等が、園評価の結果に応じ、園に対する支援や条件整備等の改善措置を講じる ⇒ **一定水準の保育・教育の質を保証、向上を図る**

2

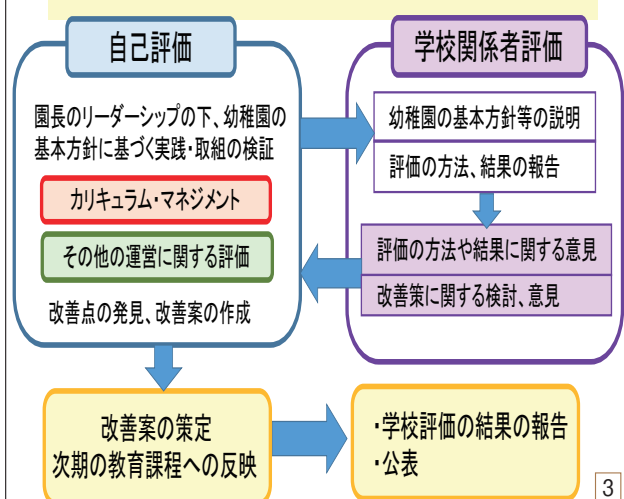
学校評価に関する規定

(学校教育法施行規則第66条から68条を準用)

- 第66条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。
- 2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。
- 第67条 小学校は、前条第1項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するように努めるものとする。
- 第68条 小学校は、第66条第1項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

5

学校評価の流れ



3

学校評価とカリキュラム・マネジメント

(幼稚園教育要領 第1章 総則 第6 幼稚園運営上の留意事項 1)

各幼稚園においては、園長の方針の下に、園務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、教育課程や指導の改善を図るものとする。また、各幼稚園が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や幼稚園運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。

6

カリキュラム・マネジメント

(幼稚園教育要領 第1章 第3 1教育課程の役割)

- 各幼稚園においては、6に示す全体的な計画にも留意しながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること、
- 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、
- 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下、「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。

7

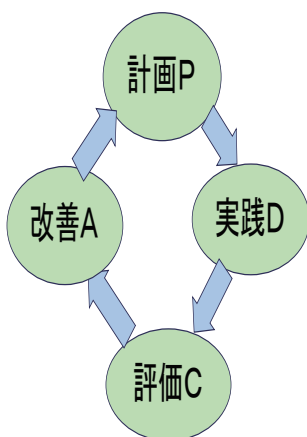
学校関係者評価の必要性



10

学校評価の好循環と実効性

各園が実態に即した評価内容・方法で学校評価を実施することで、学校評価のPDCAが循環し、各園の保育・教育活動その他の園運営が組織的・継続的に改善され保育・教育の質が保証される。



8

自己評価

- 各幼稚園の教職員が行う評価
- 園長のリーダーシップの下で、当該園の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さについて評価を行うもの
- 自己評価を行う上で、保護者や地域住民を対象とするアンケートによる評価や保護者との懇談会を通じて、保護者の幼稚園教育に関する理解や意見、要望を把握することが重要

11

学校関係者評価

- 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価
- 自己評価の結果を評価すること等を通じて、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、
- 学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深めて相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進することを目的として行うもの。

9

学校評価で評価する項目の例

「幼稚園における学校評価ガイドライン」(平成23年度改訂)より

- | | |
|--------------|---------------|
| •教育課程・指導 | •教育目標・学校評価 |
| •保健管理 | •情報提供 |
| •安全管理 | •保護者・地域住民との連携 |
| •特別支援教育 | •子育て支援 |
| •組織運営 | •預かり保育 |
| •研修(資質向上の取組) | •教育環境整備 |

12

評価項目の例2

「私立幼稚園の自己評価と解説」(平成18年)より

設置者・園長

- I 教育内容
- II 地域の幼児教育センターとしての役割
- III 安全管理
- IV 人事管理
- V 財務管理

教職員

- I 保育の計画性
- II 保育の在り方、幼児への対応
- III 教師としての資質や能力・良識・適性
- IV 保護者への対応
- V 地域の自然や社会とのかかわり
- VI 研修と研究

13

方法1

ECEQによる保育の質向上と学校評価

- ヒアリングと事前研修で自園のよさや課題を明らかにする。
自園の運営や教育活動に関する振り返り・自己評価
- 公開保育をすることによって参加者から意見を聞く。(肯定的な意見、質問や示唆的な意見)
外部からの意見聴取
- 公開保育において参加者から得た感想や意見を基に、全保育者で振り返り、自園のよさや課題についてまとめる。
外部の意見を参考にした自己評価

カリキュラム・マネジメント 保育の質向上

16

自己評価の具体的な方法

方法1

- 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が推進しているECEQのシステムを活用して、公開保育を通じて、園長や教職員が自身の振り返りと参加者の意見を参考にしながら外部の自園のよさや課題を捉える方法

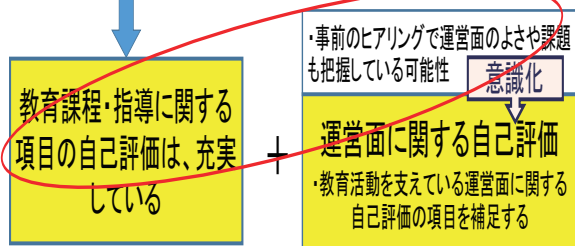
方法2

- 幼稚園の教職員が、教育活動や運営等に関し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組(項目)の適切さについて振り返り、評価する方法

14

ECEQ実施の成果を活かして 学校関係者評価につなげる

施設や保育活動を公開し、保育者の学びや保育の質の向上に寄与



自己評価結果としてまとめ、学校関係者評価委員会に報告

17

学校関係者評価の推進に向けて

—各研究協力園の意気込み—

- ECEQの中での保育者の学びと効果が、保育の質の向上に影響を与えるかの検証
- 様々な課題をもち研修に参加したことが、保育の質の向上にどのように寄与していくかの検証と、教職員に過重な負担にならない評価や公表の模索
- 私学の独自性・建学の精神を大切にしながら、保護者や地域の眼を通して保育内容の客観性・透明性をどう構築していくか、積極的な保護者や地域とのかかわりの中で検証
- 園の特色や課題が表現できるような自己点検・自己評価になるために、何が有効かを実践の中で創り上げながら検証

15

方法2

学校関係者評価として評価する対象となる

自己評価の内容

- ① 重点的に取り組むことが必要な目標等の設定
- ② 自己評価の評価項目の設定
 - ア) 自己評価の評価項目・指標の設定
 - イ) 成果への着目と取組(プロセス)への着目
- ③ 全方位的な点検・評価と日常的な点検
- ④ 自己評価の実施

18

学校評価で評価する項目の例(再掲)

「幼稚園における学校評価ガイドライン」(平成23年度改訂)より

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> •教育課程・指導 •保健管理 •安全管理 •特別支援教育 •組織運営 •研修(資質向上の取組) | <ul style="list-style-type: none"> •教育目標・学校評価 •情報提供 •保護者・地域住民との連携 •子育て支援 •預かり保育 •教育環境整備 |
|--|---|

19

幼稚園における評価

幼稚園教育要領 第1章総則 第4 幼児理解に基づいた評価の実施

幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価の実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、**指導の改善に生かす**ようにすること。その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。

22

評価項目の例2(再掲)

「私立幼稚園の自己評価と解説」(平成18年)より

設置者・園長

- I 教育内容
- II 地域の幼児教育センターとしての役割
- III 安全管理
- IV 人事管理
- V 財務管理

教職員

- I 保育の計画性
- II 保育の在り方、幼児への対応
- III 教師としての資質や能力・良識・適性
- IV 保護者への対応
- V 地域の自然や社会とのかかわり
- VI 研修と研究

20

幼稚園における評価(幼児理解に基づいた評価の実施)②

(2) **評価の妥当性や信頼性**が高められるよう創意工夫を行い、**組織的かつ計画的な取組**を推進するとともに、次年度又は小学校等にその内容が適切に引き継がれるようにすること。



学校評価における評価項目・指標
評価の妥当性や信頼性 & 組織的・計画的な取組

23

評価項目の設定

「私立幼稚園の自己評価と解説」(平成18年)より

設置者・園長用は、I 教育内容、II 地域の幼児教育センターとしての役割、III 安全管理、IV 人事管理、V 財務管理の項目の具体的内容からいくつかの評価項目を設定し、教職員用も同じように評価項目を設定し、全方位的に捉える方法もある。

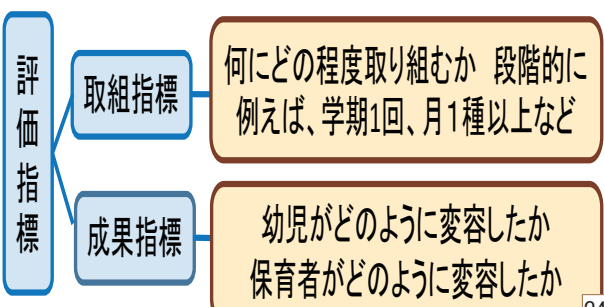
= **教育活動や園運営のよさや課題が概観できる。**

- ・全方位点検のために、3~5年に分けて評価することも考えられる
- ・上記の多様な評価項目のうち**保育の質に関わる内容を評価項目として評価指標**をいくつか設定すると**カリキュラム・マネジメントが充実する。**

21

評価指標の設定

・「評価指標」は、園全体で共通理解し、**客観性を担保できるようにするための基準**



24

評価項目の設定(例)

表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性をはぐむための美しい環境づくり

保育室内外の環境整備、整理・整頓

保育室の掲示板から遊びをイメージできるように

I 保育の計画性、
5 環境の構成

美しさを意識して保育室を整理・整頓すれば、子どもたちは掲示板を見てイメージを広げ、
〇〇して遊びたいと思い、遊びが生まれ、保育室を整える気持ちも生まれるだろう

表現に関する教材開発や積極的な材料提示

面白そうな造形や身体表現の教材を開発・提示

VI 研修と研究
2 教師としての専門性に関する
研修、能力
3 遊具・教材に関する研修・研究

保育者が教材を開発して子どもたちに新しい表現遊びを提示すれば、子どもたちは、繰り返し楽しみ遊びに取り入れて表現が豊かになるだろう

表現の充実につながる用具の購入・整備

保育の展開に応じて必要な用具を予測して購入し、保育・教育の環境整備を行えば、子どもたちが活用し、表現の充実につながるだろう

III 教師としての資質や能力・良
識・適性
2 組織の一員としての在り方

25

取組指標の考え方(例)

保育室の掲示板から遊びをイメージできるように

保育室内外の環境整備、整理・整頓

保育者は、どれくらい掲示板を作り変えられるか、整理できるか？
学期に1回？ ➡ いや、頑張してほしい ➡ 月1回以上できれば最高！

面白そうな造形や身体表現の教材を開発・提示

表現に関する教材開発や積極的な材料提示

保育者は、どれくらい新しい教材開発ができるだろう？
学期に1回？ ➡ もっと頑張してほしい ➡ 月1種以上できれば最高！

表現の充実につながる用具の購入・整備

用具等の購入は、園務分掌の教材係が中心になって在庫状況の確認を行う。保育の展開を予測して園内にある材料や用具等の必要性について、職員同士の連携や主任や設置者への依頼も必要だし、計画的な整備ができれば完璧

28

取組指標・成果指標の関係(例)

・保育者に取り組んでほしい具体的な行動

(例) 表現に関する教材開発・材料提示

・それを保育者がどの程度してくれたら

(例) 月〇〇回程度(取組指標)

・子どもたちが、こんな風になるだろう

(例) 表現を楽しみ豊かに表現する(成果指標)

26

自己評価の総括表(一部)

重点目標	評価項目	評価指標及び評価の結果			
		取組指標	取組結果	成果指標	成果
表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性をはぐむための美しい環境づくり	保育室内外の環境整備・整理・整頓、美しさを意識した掲示板の再構成	4 月1回以上		4 多くの幼児が、保育者や友達と一緒に保育室を整えたり掲示を工夫したりする	
		3 月1回程度		3 多くの幼児が、掲示板を見たり保育室を整えたりして活用している	
		2 2ヶ月に1回程度		2 多くの幼児が、掲示板に興味を示し、見たり感じたりしたことを話している。	
	表現に関する教材開発や積極的な材料提示	1 学期に1回程度	1 多くの幼児が、掲示板等、保育室環境の変化に興味を示さない		
		4 月に1回以上	4 半数以上の幼児が、自分たちの遊びに取り入れれたり表現を楽しんだりしている		
		3 月に1回程度	3 半数以上の幼児が、保育者と一緒に素材や教材を使って遊ぼうとする		
	2 2ヶ月に1回以上	2 半数以上の幼児が、素材や教材に興味を示し、見たり触れたりしている			
	1 学期に1回程度	1 半数以上の幼児が、素材や教材などに、あまり興味を示さない			

29

取組指標設定の具体例

・重点目標「表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性をはぐむための美しい環境づくり」

教材の特質を知らなければ、子どもたちが伸び伸びと表現を楽しむ実践はできない！！

保育しながら、教材開発する余裕はないかも…

月に1回は、時間を作れるかな…。いや、作る！！

「表現に関する教材開発や積極的な材料提示」に関する保育者の取組について、

目標は3—月に1回程度
難しければ、2—2か月に1回、
余裕なら、4—月1回以上！

4 月1回以上
3 月1回程度
2 2ヶ月に1回
1 学期に1回程度

27

成果指標の設定

成果指標は、

取組指標を基にして各保育者が保育実践等に取り組んだ結果、どのような成果を期待できるかについて、

・具体的な子どもやクラス集団の育ち、遊びの充実や教育目標と関連する姿など、具体的な姿から見ようとするもの

・教職員の意欲や職務態度など、資質向上に関連する姿の変容などの視点から見るもの

30

取組の結果と成果の関係

例 取組は「4」頑張ったけれど、成果は「3」だったという可能性もある

取組をどの程度した？	どのような成果が得られた？
4 保育者と一緒に遊び楽しさを共有したり、みんなの中で認め合っていく。	4 ほとんどの子どもが、室内や戸外で体を使った遊びを楽しんでいる
3 楽しい、やってみたいと思う遊具や動きを工夫する。	3 クラスの半数以上の子どもが、室内や戸外で体を使った遊びを楽しんでいる
2 (体を使った遊びを)成長や季節を考慮しながら計画的に取り組む。	2 クラスの半数くらいの子どもが、室内や戸外で体を使った遊びを楽しんでいる
1 体を使った遊びを保育に取り入れる。	1 室内や戸外で体を使った遊びを楽しんでいるのは半数以下である

31

指標は、園長が保育者に求める姿を具体的に

例 重点目標 職員集団としての資質向上(保育力の向上)

・評価項目(具体的方策) 共通課題に向けた園内研修を行う(積極的参加)

・取組指標

1	年間2回	2	3回	3	5回程度	4	6回以上
---	------	---	----	---	------	---	------

・成果指標

4	もっと面白いものを見つけようとするようになった
3	実際に提案されたことを試してみる職員が出てきた
2	職員が教材研究をする姿が見られるようになった
1	遊びを考えて提供するようになった

34

取組の結果と成果の関係

例 取組指標は同じでも、成果をクラスの幼児の割合でみることも可能

取組をどの程度した？	どのような成果が得られた？
4 保育者と一緒に遊び楽しさを共有したり、みんなの中で認め合っていく。	4 室内や戸外で体を使った遊びをしようとする子どもが 80%以上
3 楽しい、やってみたいと思う遊具や動きを工夫する。	3 室内や戸外で体を使った遊びをしようとする子どもが 70%くらい
2 (体を使った遊びを)成長や季節を考慮しながら計画的に取り組む。	2 室内や戸外で体を使った遊びをしようとする子どもが 50%くらい
1 体を使った遊びを保育に取り入れる。	1 室内や戸外で体を使った遊びをしようとする子どもが 50%以下

32

自己評価結果の学校関係者評価委員会への報告(例)

評価項目	取組結果	成果結果	評価結果についての教員・幼児・保護者の主な意見	次年度の改善策
保育室内外の環境整備・整理・整頓と美しさを意識した掲示版の再構成	月1~2回程度 評価平均値 3.75	掲示遊びの中に活かしたり、自ら環境を整えたりする幼児はクラスの半数程度 評価平均値 2.75	幼児の作品掲示は月1回から2回行い、取組としては概ね目標を達成した。 ・掲示版に飾った各自の紙人形を人形ごっこに活かしたり貼ってある歌の歌詞を見て歌ったりする姿は見られた。 しかし、自分たちの保育室を片付けたり整えようとする幼児は60%程度で、取組に工夫が必要と考える。興味も個人差があるので、具体的な援助があると、もう少し成果も高くなったと考える。	幼児が壁面を活用しやすいように工夫していく。 保育室を整えることは、幼児主体にするのは難しく、保育者がモデル提示を積極的にする必要はある。
表現に関する教材開発や積極的な材料提示	月に1~2回程度 評価平均値 3.25	表現を楽しみ豊かに表現するようになった幼児が70%以上 評価平均値 3.25	・材料の提示などは子供の遊びの様子に合わせて積極的にやっていった。動き方が分からなかったり、評価を気にしなくなった幼児もみられるが、身近なものを題材にした動きのある表現遊びは楽しみにする幼児が多くなっており、成果としても概ね達成していると考え。 ・表現の題材(課題)にもよるが、ほとんどの幼児が喜んで取り組むようになってきている。	遊びの中に活かせる教材開発を日常的に繰り返し、表現を楽しめるようにしていく。 一人一人の自分らしさを認め、活かしていく援助をする。

35

取組の結果と成果の関係

例 取組は「2」だったけれど、成果は「3」だったという可能性もある

取組をどの程度した？	どのような成果が得られた？
4 保育者と一緒に遊び楽しさを共有したり、みんなの中で認め合っていく。	4 ほとんどの子どもが、室内や戸外で体を使った遊びを楽しんでいる
3 楽しい、やってみたいと思う遊具や動きを工夫する。	3 クラスの半数以上の子どもが、室内や戸外で体を使った遊びを楽しんでいる
2 (体を使った遊びを)成長や季節を考慮しながら計画的に取り組む。	2 クラスの半数くらいの子どもが、室内や戸外で体を使った遊びを楽しんでいる
1 体を使った遊びを保育に取り入れる。	1 室内や戸外で体を使った遊びを楽しんでいるのは半数以下である

33

学校関係者評価委員会の意見(例)

重点目標	評価項目	学校関係者評価	
		自己評価結果に対する意見	次年度の改善策に対する意見
表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性をくむための美しい環境づくり	保育室内外の環境整備・整理・整頓や、美しさを意識した掲示版の再構成	・取組は、概ね目標を達成しているにもかかわらず、掲示版の活用状況が年長は低く、平均が60%程度で援助が必要であると評価している。評価が厳しすぎると思う。 ・年長児は、作ったものを壊したくないという思いが強く、 せっかく飾った掲示版をきれいなままにとっておきたいという考えられるのではない。	・活用しやすいように工夫することは大切だが、年少児、年長児の発達によって違いがある。 取組は十分であり、このままでよいのではない。 ・成果の評価をする際には、活用の回数だけでなく上記の理由も踏まえ、 評価の指標を工夫する とい。
	表現に関する教材開発や積極的な材料提示	・教材の開発や材料提示は大変だと思うが、月に1回から2回できるのか？それだけ取り組めたことは、よかった。 ・新しい教材開発・提示など、 試みを積極的にすることは大切である。	・教材開発を進めることは重要であり、外部人材を積極的に活用してほしい。 ・高校の美術の教員も優れているし、NPOなどを活用するのもよいと思う。 地域も保護者も協力するので活用してほしい。

36

学校関係者評価委員会の構成

(幼稚園における学校評価ガイドライン H23改訂版より)

- 学校と直接の関係のある保護者等を評価者とするのが適当。保護者が、学校評価と学校運営の改善に参画することが重要。
- その他、学校評議員、地域住民や地元企業関係者、子どもの健全育成・安全確保の観点から青少年健全育成関係団体や警察の関係者等、接続する小学校の教職員や大学の研究者等を評価者として加えることにより評価を受けることも考えられる。
- 学校関係者評価委員会を新たに組織することにかえて、学校評議員や学校運営協議会等の既存の組織を活用して評価を行うことも考えられる。ただし、学校関係者評価の取組が一部だけのものとならず、透明性が高く広がりをもったものとなるよう配慮する。

37

学校評価のまとめと報告・公表

- 学校関係者評価委員会のまとめ(報告書)を作成する。
- 自己評価と学校関係者評価の結果から、自園のよさや課題を明らかにし、よさを次年度の教育課程につなげると同時に、課題を整理し、改善策を検討し、次年度の教育課程に反映する。
- 改善策は、長期的な視点での改善と、できるだけ早く実施すべき短期的な視点での改善を考えるようにする。
- さらに、これらをまとめて学校評価の報告書を作成し、設置者の報告し、公表する。

40

学校関係者評価委員会の構成の例

A園の例

- 保護者の代表者(1名)
- 近隣の住民の代表者(1名)
- 近隣の高校の校長(1名)
- 地域の商店街代表者(1名)
- 民生委員、児童委員等(1名)

<事務局>

園長・副園長

考えられる例

- 幼稚園の評議員(〇名)
- 保護者の代表者(〇名)
- 近隣の小学校の校長等
- 大学の研究者等

<事務局>

園長・副園長(主任)

園児数等、幼稚園の実情に応じて

38

学校関係者評価委員会開催の工夫

<学校関係者評価委員が集まりやすい工夫>

- 保護者への配慮；幼稚園の登園～降園の間の時間、或いは降園時直後
- 学校関係者評価委員の多くが評議員を兼ねている場合、評議員会終了後の時間に開催するなど、利便性を工夫する。
- 評議員会の中で学校関係者評価も行うのではなく、評議員の他の委員を加え改めて、学校関係者評価委員会として開催し、記録も別にする。

<参観の機会設定や情報提供について>

- 参観していただくことで、幼稚園の教育活動の実施状況を知っていただき、評価が適切にできるようにする。
- 園だよりや行事の案内などを、適宜送付(情報発信)する。

41

学校関係者評価委員会の運営の例

〇第1回 7月

- 幼稚園の基本方針(建学の精神)等、運営に関わる概要説明
- 教育計画説明・進捗状況報告
- 学校評価に関する概要説明(学校関係者評価委員会の役割等)
- 意見交換

〇第2回 12月

- 教育活動の実施状況報告
- 保護者アンケート内容検討(行事等の感想なども考えられる)
- 自己評価・学校関係者評価総括表の説明
- 意見交換

〇第3回 3月

- 教育活動の実施状況報告
- 自己評価の結果の検討(自己評価の方法・結果についての意見交換)
- 総括的な学校関係者評価の取りまとめ

39

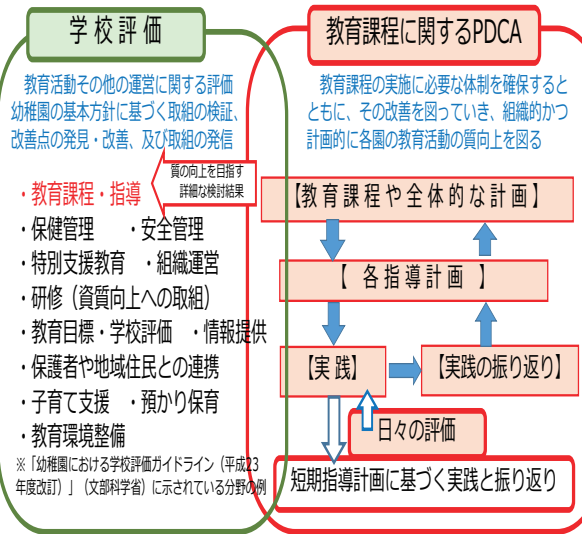
実効性ある学校評価の実施に向けて

—幼児教育の質向上につなげる幼稚園の自己評価と学校関係者評価—

(公社) 全国幼児教育研究協会顧問
岡上直子

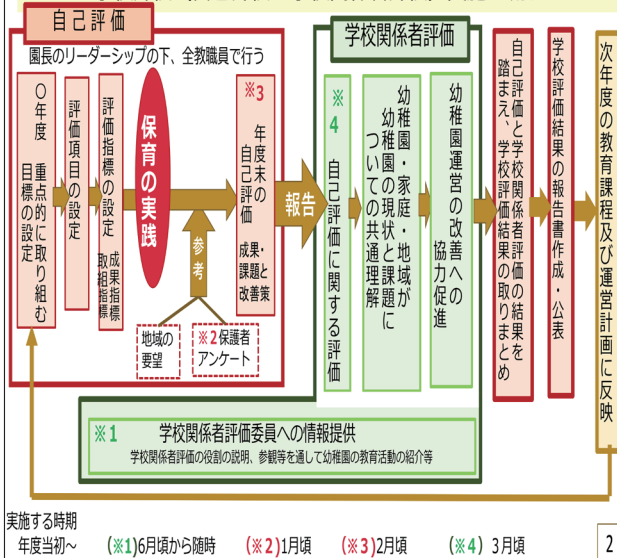
1

教育課程に関するPDCAと学校評価



4

学校評価（自己評価・学校関係者評価）実施の流れ



2

重点的に取り組む目標の設定について



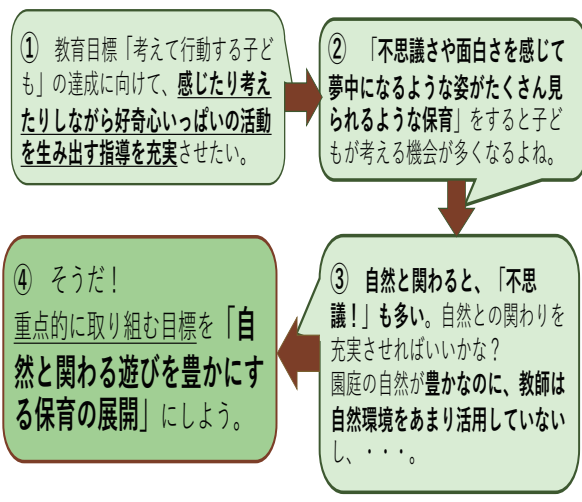
5

北九州市私立幼稚園連盟の資料から 学校評価の形態

自己評価	個人が各自を評価するものではなく園長先生のリーダーシップの下、教職員のみならず園長先生が参加し重点目標・計画に沿って取り組み状況や達成度について話し合い園の自己評価をします
学校関係者評価	保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行なう評価
第三者評価	学校と直接関係有しない専門家等による客観的な評価

3

重点的に取り組む目標の設定の例



6

評価項目の設定 (例)

重点的に取り組む目標を「自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開」とすると、どのような取組 (評価項目) にする?

自然環境を活用できない教師もいるので、「自然と関わる遊びを豊かにする」ために自然と関わる遊びを指導計画の中に位置付けることと、自然と関わる遊び (教材) の研修を充実したいとしたら、……

こんなのは
どうでしょう

- ㊦ 振り返りの充実による指導計画の改善 …… “教育課程・指導” の分野で考えた評価項目
 - ㊧ 自然と関わる遊びや活動に関する園内研修の実施 …… “研修 (資質向上の取組)” の分野から考えた評価項目
- この2つの取組を、評価項目として設定しよう。

7

「振り返りの充実による指導計画の改善」への取組の成果として、どのようなことが期待されるのか

例えば

- ① 幼児が、自然の事象や自然の様子を見るようになった
- ② 幼児が、自然の事象や変化に気づき、表現したり伝えたりするようになった
- ③ 幼児が、調べたり集めたり試行錯誤したりしながら、自然環境に関わるようになった
- ④ 幼児が自然の変化に興味を示したり、自分たちの遊びに取り入れるようになった

10

参考資料

振り返りの充実による指導計画の改善への道筋

- ① 子どもが自然と関わり、自然の事象や変化に気づき、表現したり伝えたりするようになる。自然環境の活用を促す。
 - ② 自然と関わる遊びや活動に関する園内研修を実施し、教師の資質向上を図る。
 - ③ 振り返りの記録を定期的にとりまとめ、自然の関わりに関する幼児の育ちを捉える。
 - ④ 振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える。
 - ⑤ 季節ごとの園庭の自然環境を見直し、指導計画の改善に活かす。
 - ⑥ 振り返りの記録を定期的にとりまとめ、自然の関わりに関する幼児の育ちを捉える。
 - ⑦ 季節ごとの園庭の自然環境を見直し、指導計画の改善に活かす。
 - ⑧ 自然にかかわる遊びを充実させる保育の展開を実現するために、自然に関する知識を深める。(教師の基礎的な知識・技能の視点)
- ③→⑥→④→⑦

幼稚園の実状によって、多様な
取組の道筋が考えられます!

8

自然と関わる遊びや活動に関する園内研修の実施のために、どのような道筋を考える? (案①)

重点的に取り組む目標; 「自然と関わる遊びを充実させる保育の展開」
評価項目; 「教員集団としての同僚性を高める園内研修の実施」とした場合

- ① その日の保育について、振り返ったことを記録する
- ② 保育の振り返りで、幼児の内面について考え園内研修で報告する
- ③ 保育の振り返りの中で、ねらいについて自らの指導と関連付けて報告する
- ④ 指導の振り返りについて園内研修で報告し、幼児の発達について協議する

11

振り返りの充実による指導計画の改善のために、 どのような道筋を考える? (案㊦)

重点的に取り組む目標; 「自然と関わる遊びを充実させる保育の展開」
評価項目; 「振り返りの充実による指導計画の改善」とした場合、

- ① 保育の記録に、幼児が自然と触れ合っている姿について記述し、幼児の興味・関心を捉える (記録の仕方)。
- ② 振り返りの記録を定期的にまとめて、自然の関わりに関する幼児の育ちを捉える。
- ③ 振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える。
- ④ 季節ごとの園庭の自然環境を見直し、指導計画の改善に活かす

9

取組として「園内研修を実施した成果」は、 どのようなことが期待されるのか

例えば

- ① 学級の幼児の興味・関心を捉えようとする
- ② 他の学級の様子を見たり連携したりする姿が見られるようになった
- ③ 幼児の様子や育ちについて、教師同士で話し合う姿が増えてきた
- ④ 保育の中で気付いたことや幼児の遊びが充実したことを伝え合うようになった

12

保護者や地域住民等の意見や要望の把握

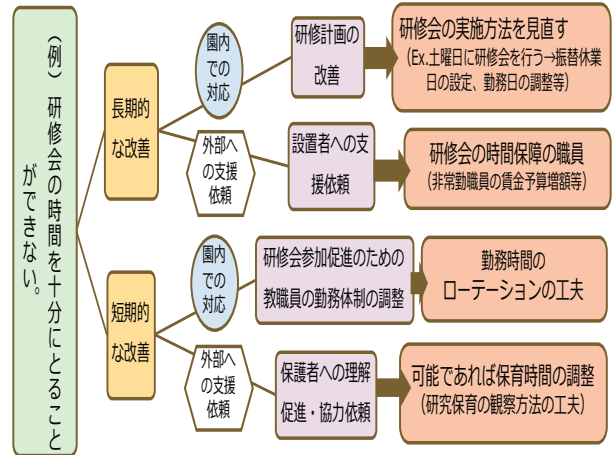
Q 保護者アンケートを、自己評価と考えるといいですか？

- ・地域に開かれた幼稚園として適切な運営をしていくためには、保護者や地域住民と教育活動の目標や方法を共有し、連携を深めたり相互の協力体制を築いたりすることが大切
- ・各幼稚園では、保育参観・参加や行事等を公開し、保護者や地域住民と幼児の育ちや教育活動等に関する情報提供を行うとともに、感想や要望等を聞いたり、アンケート調査を行ったりしている。こうした関わりを通じて捉えた保護者や地域住民の意見や要望等を、自己評価の参考として幼稚園の教育活動その他の運営に反映していくことが大切

A. アンケートは、子どもの育ちにも敏感に気付き的確に評価する保護者の貴重な意見です。
しかし、自己評価は、幼稚園自らが評価するものですから、そのために参考となる資料として活用してください。

13

自己評価の結果から改善策検討の流れ



16

園長のリーダーシップの下に全教職員で行う自己評価

① 協議のための資料の作成

園長（或いは、リーダー的な立場の教職員）は、各教職員の評価結果を整理し、自己評価を総括し共通理解するための資料を作成する。その際、各教職員のコメントは大切な意見として概要をまとめ、取り上げたい内容を整理して記載し、協議の進行をしやすくする。

② 全教職員の協議による自己評価

自己評価の総括表に記載されている事項について取組結果と成果の数値やコメント等の内容から、成果や課題について検討し、年度当初に設定した「重点的に取り組む目標」の達成状況を把握する。また、その結果から、次年度も継続していくことや改善策を検討する。

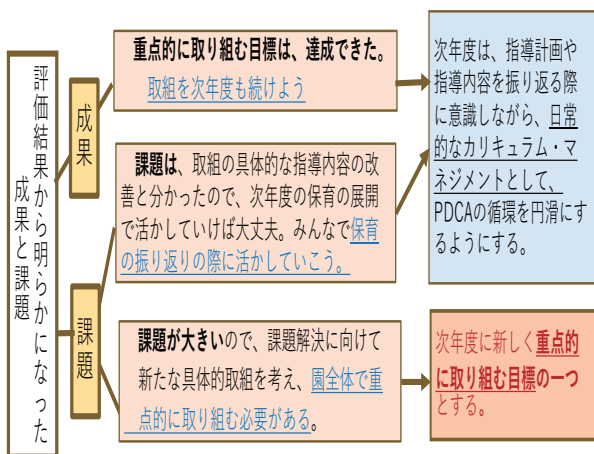
14

提案① 公開保育の過程で行う自己評価を活用して学校評価に！ 一教員の評価を幼稚園全体の自己評価にするために～

評価内容 (評価項目)	公開保育前 (記入日 年 月 日)		公開保育当日 (記入日 年 月 日)		公開保育後 (記入日 年 月 日)	
	評価	評価の理由	評価	評価の理由	評価	評価の理由
(例) 幼稚園教育要領や自園の教育方針を理解している。						
重点的に取り組む目標の達成につながる取組(評価内容)として、なるべく具体的に記載する		保育内容や方法に関する評価の視点に沿って、評価をするとよい。できれば、この評価を全職員で共有する。		公開保育当日の指導案の中に、参観者に見てもらいたいこと、ヒントが欲しいことなどを記載しておく、協議が焦点化する。		全員で共通理解したこと、改善策を継続的に実践し、折々に振り返る。 また、公開後の学期末や年度末に「学校評価：自己評価のまとめ」の会議で、この重点的な目標の取組状況や達成状況について評価するとい。
自分の保育の良いところに気づくことができました。		ここで気付いたよさや課題について、公開保育で参加者と一緒に考え、園全体で共有するとい。		ここで気付いたよさや課題から、今後に継続していくことと改善していく課題を、園全体で協議し、共通理解し、実践することが大切。		
今後の保育課題を見つけた。						

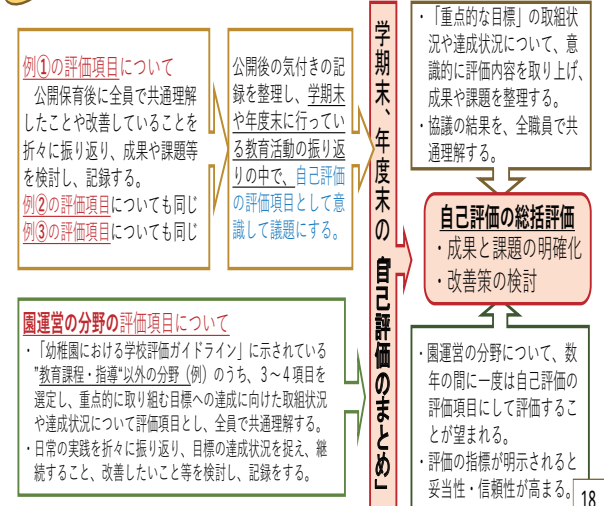
17

自己評価の結果から次年度の重点的に取り組む目標に反映する流れ



15

提案① 公開保育後の評価を幼稚園が行う自己評価へつなげる工夫



18

公開保育の成果を継続する工夫

教師の声

始まるまではドキドキ！
でも、声の掛け方が適切だったと言われ、自信がもてた。

この学びを活かして保育の質向上に！

公開保育の
意義は大きい

教師の声

参観者の感想文から、教師の気付かない所でも、幼児の学びがあることを学んだ。保育公開は、評価されるためではなく、私たちの学びにつながるのを実感！

公開保育の継続

- ・保育公開を毎年できる？
- ・日程の確保は？
- ・市内の保育公開の状況は？

園内研修で教員同士が保育を見合う

- ・保育コーディネーターの活用
- ・講師（大学等）との共同研究として

19

参考資料

自己評価結果の学校関係者評価委員会への報告(上段)と学校関係者評価の評価・意見(下段)の例 その2

重点目標①：表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性をはくむための美しい環境づくり

評価項目	取組結果	成果結果	評価結果についての教員・幼児・保護者の主な意見	次年度の改善策
表現に関する教材開発や積極的な材料提示	月に1~2回程度、教材開発等をした	題材にもよるが、ほとんどの幼児が表現を案しめ豊かに表現するようになった	・材料の提示などは子供の遊びの様子に合わせて積極的にやっていった。動き方が分からなかったり、評価を気にしたりする幼児もわずかにいるが、身近なものを題材にした動きのある表現遊びは楽しみにしている。結果としても概ね達成している。 ・表現の題材(課題)にもよるが、ほとんどの幼児が喜んで取り組むようになってきている。	・遊びの中に活かせる教材開発を日常的に繰り返し、表現を楽しめるようにしていく。 ・一人一人の自分らしさを認め、活かしていく援助をする。
	評価結果 3.3	評価結果 3.3	学校関係者委員会の評価・意見	
<p><評価について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の開発や材料提示は大変だと思うが、月に1回から2回できるものか？それだけ取り組めたことは、よかった。 ・新しい教材開発・提示など、試みを積極的にすることは大切である。 <p><改善策について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材開発を進めることは重要であり、外部人材を積極的に活用してほしい。 ・高校の美術の教員も優れているし、NPOなどを活用するのによいと思う。 ・地域も保護者も協力するので活用してほしい。 				

22

参考資料

自己評価結果の学校関係者評価委員会への報告(例)

重点目標①：表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性をはくむための美しい環境づくり

評価項目	取組結果	成果結果	評価結果についての教員・幼児・保護者の主な意見	次年度の改善策
保育室内外の環境整備・整理・整頓と美しさを意識した掲示版の再構成	月に1~2回程度	掲示を遊びの中に活かしたり、自ら環境を整えたりする幼児は、クラスの半数程度	・幼児の作品掲示は月1回から2回行い、取組としては概ね目標を達成した。 ・掲示版に飾った各自の紙人形を人形ごっこに活かし、掲示版の絵や歌詞を見て歌ったりする姿は見られた。しかし、自分たちの保育室を片付けたり整えようとする幼児は60%程度で、取組に工夫が必要と考える。興味に個人差があるので、具体的な援助があると、もう少し成果も高くなったと考える。	幼児が壁面を活用しやすいように工夫していく。 保育室を整えることは、幼児主体にするのは難しく、保育者がモデル提示を積極的にする必要がある。
表現に関する教材開発や積極的な材料提示	月に1~2回程度新しい教材開発等をした	題材にもよるが、ほとんどの幼児が表現を案しめ豊かに表現するようになった	・材料の提示などは子供の遊びの様子に合わせて積極的にやっていった。動き方が分からなかったり、評価を気にしたりする幼児もわずかにいるが、身近なものを題材にした動きのある表現遊びは楽しみにしている。結果としても概ね達成している。 ・表現の題材(課題)にもよるが、ほとんどの幼児が喜んで取り組むようになってきている。	・遊びの中に活かせる教材開発を日常的に繰り返し、表現を楽しめるようにしていく。 ・一人一人の自分らしさを認め、活かしていく援助をする。
	評価結果 3.8	評価結果 2.8		20

参考資料

自己評価結果の学校関係者評価委員会への報告(上段)と学校関係者評価の評価・意見(下段)の例 その1

重点目標①：表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性をはくむための美しい環境づくり

評価項目	取組結果	成果結果	評価結果についての教員・幼児・保護者の主な意見	次年度の改善策
美保育室内を外議した環境整備・整理・整頓と	月に1~2回程度	掲示を遊びの中に活かしたり自ら環境を整えたりする幼児は、学校の半数程度	・幼児の作品掲示は月1回から2回行い、取組としては概ね目標を達成した。 ・掲示版に飾った各自の紙人形を人形ごっこに活かし、掲示版の絵や歌詞を見て歌ったりする姿は見られた。しかし、自分たちの保育室を片付けたり整えようとする幼児は60%程度で、取組に工夫が必要と考える。興味に個人差があるので、具体的な援助があると、もう少し成果も高くなったと考える。	幼児が壁面を活用しやすいように工夫していく。 保育室を整えることは、幼児主体にするのは難しく、保育者がモデル提示を積極的にする必要がある。
学校関係者委員会の評価・意見				
<p><評価について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組は、概ね目標を達成しているにもかかわらず、掲示版の活用状況が年長は低く平均が60%程度で援助が必要であると評価している。評価が厳しすぎると思う。 ・年長児は、作ったものを壊したくないという思いが強く、せっかく飾った掲示版をきれいなままにとっておきたいということも考えられるのではないかと。 <p><改善策について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用し易いように工夫するのは大切だが、年少児、年長児の発達によって違いがある。取組は十分であり、このままでよいと思う。 ・成果を評価する際には、活用の回数だけでなく上記の理由も踏まえ、評価の指標を工夫するとよい。 				

21

令和2年度 文部科学省委託
「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究
(幼稚園における学校評価に関する調査研究)」

【事業テーマ】

幼児教育の質向上をめざした学校関係者評価の充実・改善に向けて
～子供の真の幸せを願う私立幼稚園の独自性を大切にしつつ
公教育をになうものとしての自覚を持つ教育運営を考える～

【作成】

一般社団法人 北九州市私立幼稚園連盟

本事業は、文部科学省「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究の委託費による委託業務として、一般社団法人北九州市私立幼稚園連盟が実施した調査研究の成果をまとめたものです。よって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認が必要です。